

# 小郡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

平成31年3月

小 郡 市



# 小郡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

## 目 次

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| 第1章 計画の概要 .....                 | 1  |
| 第1節 計画策定の主旨・目的 .....            | 1  |
| 第2節 基本計画の位置づけ .....             | 2  |
| 第3節 計画目標年次 .....                | 4  |
| 第4節 地域の概要 .....                 | 5  |
| 第2章 ごみ処理の現況と市民の意向 .....         | 19 |
| 第1節 ごみ処理事業の経緯 .....             | 19 |
| 第2節 ごみ処理の体制 .....               | 21 |
| 第3節 ごみ処理フロー .....               | 24 |
| 第4節 計画収集人口及びごみ排出量 .....         | 25 |
| 第5節 収集・運搬 .....                 | 30 |
| 第6節 中間処理の現況 .....               | 31 |
| 第7節 最終処分の現況 .....               | 34 |
| 第8節 資源化の現況 .....                | 34 |
| 第9節 ごみ処理事業費 .....               | 39 |
| 第10節 市民の意向 .....                | 41 |
| 第3章 ごみ処理の課題 .....               | 44 |
| 第4章 計画収集人口及びごみ排出量の将来予測 .....    | 47 |
| 第1節 ごみ処理量将来予測の方法 .....          | 47 |
| 第2節 計画収集人口の将来予測 .....           | 48 |
| 第3節 ごみ排出量の将来予測 .....            | 57 |
| 第4節 減量化・資源化目標の設定 .....          | 64 |
| 第5章 ごみ処理基本計画 .....              | 67 |
| 第1節 基本方針 .....                  | 67 |
| 第2節 基本施策 .....                  | 67 |
| 第3節 計画目標年次 .....                | 68 |
| 第4節 計画処理区域 .....                | 68 |
| 第5節 将来のごみ処理システム（2019年度より） ..... | 68 |
| 第6節 排出抑制・再資源化計画 .....           | 70 |
| 第7節 中間処理計画 .....                | 73 |
| 第8節 その他の計画 .....                | 74 |



# 第1章 計画の概要

## 第1節 計画策定の主旨・目的

小郡市は、2009年（平成21年）3月に一般廃棄物（ごみ）処理基本計画を策定し、ごみの適正な処理・処分に努めてきたところである。その後、2014年（平成26年）3月の中間見直しを経て、さらに5年が経過したことから、計画の進捗状況の変化に対応すべく、計画の見直しを行うものである。

前回の計画同様、ごみ処理については、従来の生活環境の保全及び公衆衛生の向上を目的とした「単にごみを燃やして埋める」という考えから、「資源循環型社会」への転換が求められている。そのため、まず、できる限りごみの排出を抑制し、次に、廃棄物となったものについては、再利用・資源化をより一層進め、その後、処理せざるを得ないごみだけを適正に処理することを目指し、計画を進めてきた。

またその後、2015年9月、国連で先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標として「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択と、17の持続可能な開発のための目標（SDGs）と169のターゲットが掲げられ、持続可能な開発を支える3つの側面である“経済、社会、環境の統合的な発展”の重要性が指摘されるようになった。このような中、国際的にはSDGsの推進や気候変動問題への対応のためには、資源の効果的な利用が不可欠であることが認識されている。このようなことから、近年、廃棄物の問題は将来の世代のために資源を節約し、環境負荷を自然の許容範囲内に収めた持続可能な社会をつくっていくための主要な課題として位置づけられている。

本計画は、このような背景のもと、小郡市が行政圏内において発生する一般廃棄物について、適正な処理と環境保全、並びに迅速な収集及び資源化、減量化・減容化を図るために、「環境に負担をかけない資源循環型都市の実現」を目標として、周辺自治体の状況や上位計画、関連計画との整合を図りつつ、基本的な方針を定めるものである。

なお、本計画については、概ね5年ごとに、または一般廃棄物の処理・処分等に関わる諸条件に大きな変動があった場合、必要に応じて見直すものとする。

## 第 2 節 基本計画の位置づけ

廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和 45 年法律第 137 号。以下「廃棄物処理法」という。）第 6 条第 1 項の規定により、市町村は、当該市町村の区域内の一般廃棄物の処理に関する計画（以下「一般廃棄物処理計画」という。）を定めなければならないこととされている。

一般廃棄物処理計画は、廃棄物処理法施行規則（昭和 46 年厚生省令第 35 号）第 1 条の 3 の規定により、①長期的視点に立った市町村の一般廃棄物処理の基本方針となる計画（一般廃棄物処理基本計画）と、②基本計画に基づき年度ごとに、一般廃棄物の排出の抑制、減量化・再生利用の推進、収集、運搬、処分等について定める計画（一般廃棄物処理実施計画）から構成されるものであり、それぞれ、ごみに関する部分（ごみ処理基本計画及びごみ処理実施計画）及び生活排水に関する部分（生活排水処理基本計画及び生活排水処理実施計画）で構成されている。

本計画は、これらの背景を踏まえながら、環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部廃棄物対策課長通知「ごみ処理基本計画策定指針の改定について」（平成 28 年 9 月 15 日環廃対発第 1609152 号）に基づいて策定するものであり、本市における一般廃棄物処理事業の最上位計画となる。

計画の位置づけについては、図 1.2.1 に示すとおりである。

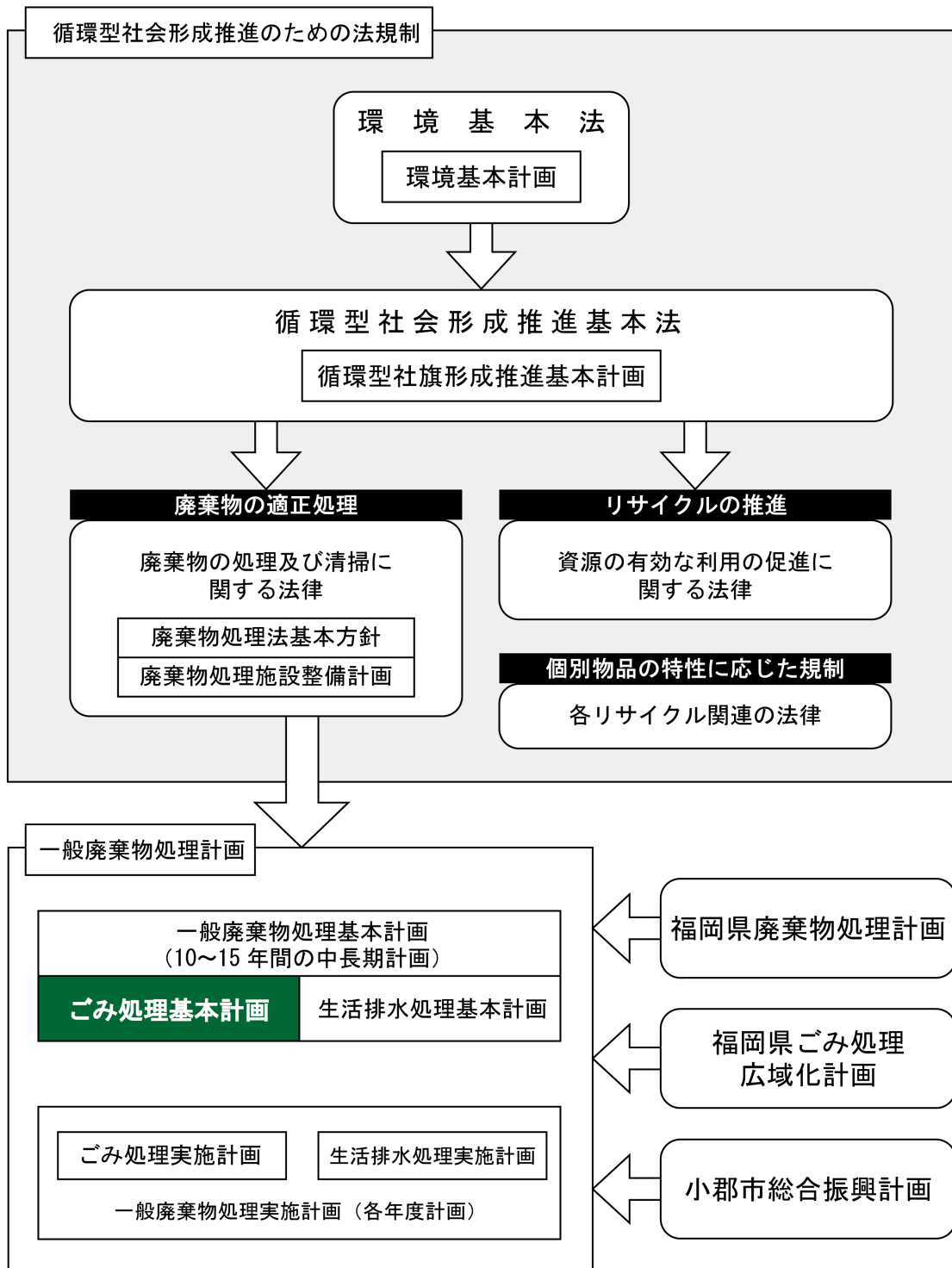


図 1.2.1 ごみ処理基本計画の位置づけ

### 第3節 計画目標年次

計画目標年次は、2009年度（平成21年度）を期初に15年間の計画期間として、2023年度とする。

なお、本計画の基準年度は、2007年度（平成19年度）とする。また、2013年度（平成25年度）及び2018年度（平成30年度）を中間目標年度として設定し、計画の進捗状況の評価、見直しを行うものとする。





## 第4節 地域の概要

### 1. 位置及び地勢

本市は、福岡県の南部、筑紫平野の北、佐賀県との県境に位置し、南東を大刀洗町、南を久留米市に、北西は佐賀県、北東は筑紫野市、筑前町にそれぞれ接している、東西6km、南北12kmにわたる区域である。

総面積は45.51km<sup>2</sup>あり、筑後川と宝満川が合流するデルタ地帯に位置し、東北の台地には標高130.6mの花立山があり西北丘陵地帯は、なだらかな丘陵が連なりため池が点在している。

また、市の中央部を南北に貫流する宝満川を挟んで、西側に住宅地帯、東側に田園地帯が広がっている。

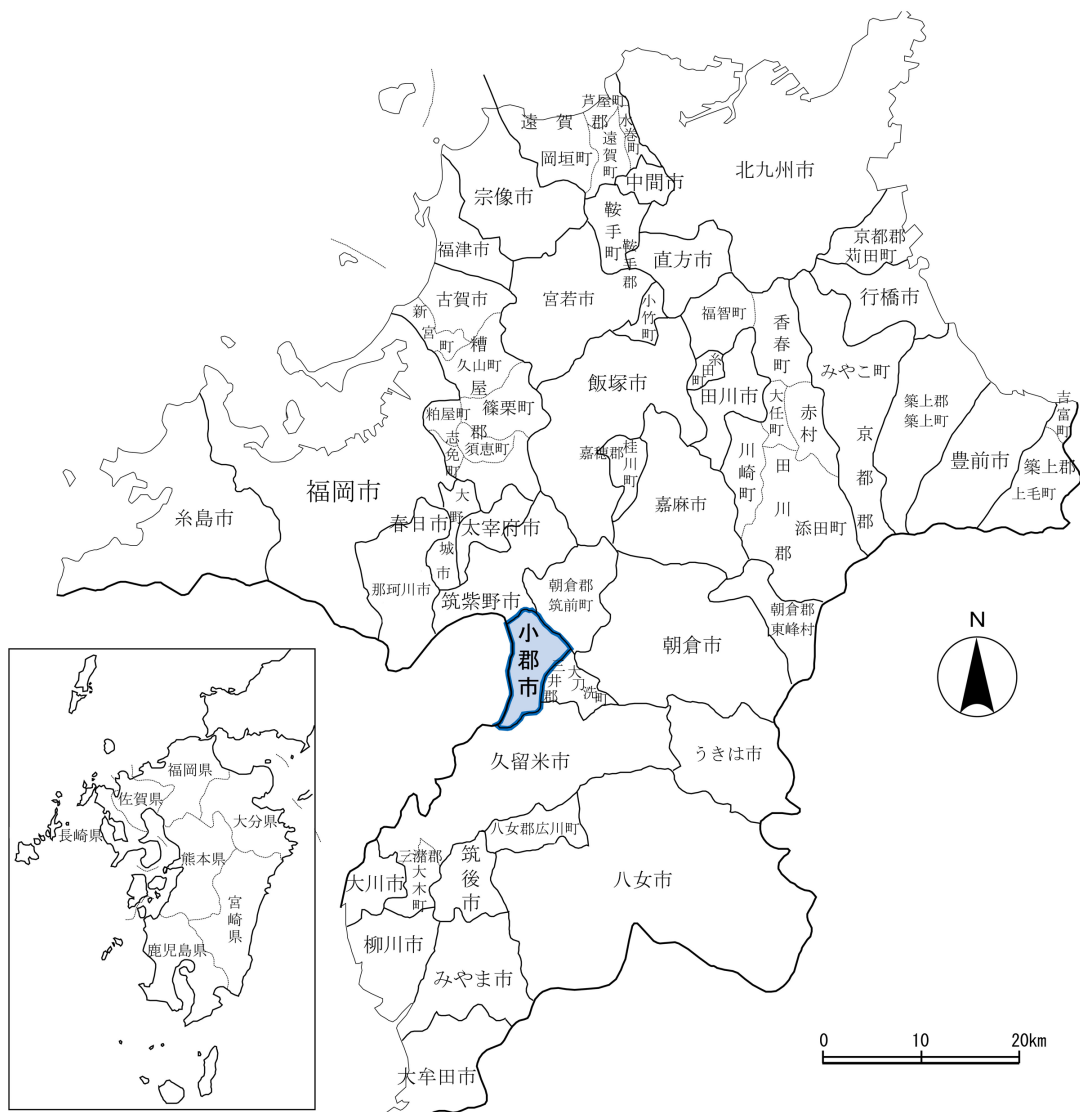


図 1.4.1 小郡市の位置

## 2. 気象

最も近い気象官署である太宰府のアメダスデータ（2008年（平成20年）～2017年（平成29年））によると年間平均気温が16.6℃、年間降水量が2,000mm程度とやや冷涼であり、内陸性の気候となっている。

表 1.4.1 気象概要（2017年（平成29年））

観測所：太宰府観測所

| 月   | 気温（℃） |      |      |      |      | 降水量（mm） |      |       |
|-----|-------|------|------|------|------|---------|------|-------|
|     | 平均    |      |      | 最高   | 最低   | 合計      | 日最大  | 1時間最大 |
|     | 日平均   | 日最高  | 日最低  |      |      |         |      |       |
| 1月  | 5.8   | 10.7 | 1.6  | 15.5 | -3.2 | 54.5    | 25.5 | 4.5   |
| 2月  | 6.7   | 11.6 | 2.2  | 18.9 | -1.4 | 51.5    | 15.5 | 6.0   |
| 3月  | 9.2   | 14.2 | 4.7  | 19.7 | 1.5  | 44.0    | 15.0 | 3.5   |
| 4月  | 15.8  | 21.3 | 11.0 | 28.9 | 3.6  | 200.5   | 95.5 | 23.0  |
| 5月  | 20.3  | 26.7 | 15.0 | 33.0 | 11.7 | 94.0    | 48.5 | 15.5  |
| 6月  | 22.8  | 28.4 | 18.2 | 32.5 | 14.2 | 154.5   | 49.5 | 14.5  |
| 7月  | 28.6  | 33.4 | 25.3 | 36.8 | 22.2 | 199.5   | 87.5 | 19.0  |
| 8月  | 28.7  | 33.7 | 24.9 | 37.1 | 21.8 | 153.0   | 82.0 | 60.5  |
| 9月  | 23.4  | 28.2 | 19.6 | 32.8 | 14.5 | 180.0   | 75.0 | 16.5  |
| 10月 | 19.0  | 23.1 | 15.5 | 30.2 | 8.4  | 271.5   | 53.0 | 14.0  |
| 11月 | 12.0  | 17.0 | 7.4  | 22.5 | 1.0  | 32.5    | 7.0  | 5.5   |
| 12月 | 5.7   | 9.9  | 1.6  | 15.4 | -1.9 | 17.0    | 6.5  | 4.0   |
| 年間値 | 16.5  | 21.5 | 12.3 | 37.1 | -3.2 | 1,452.5 | 95.5 | 60.5  |

資料：『気象庁 電子閲覧室』気象庁ホームページ

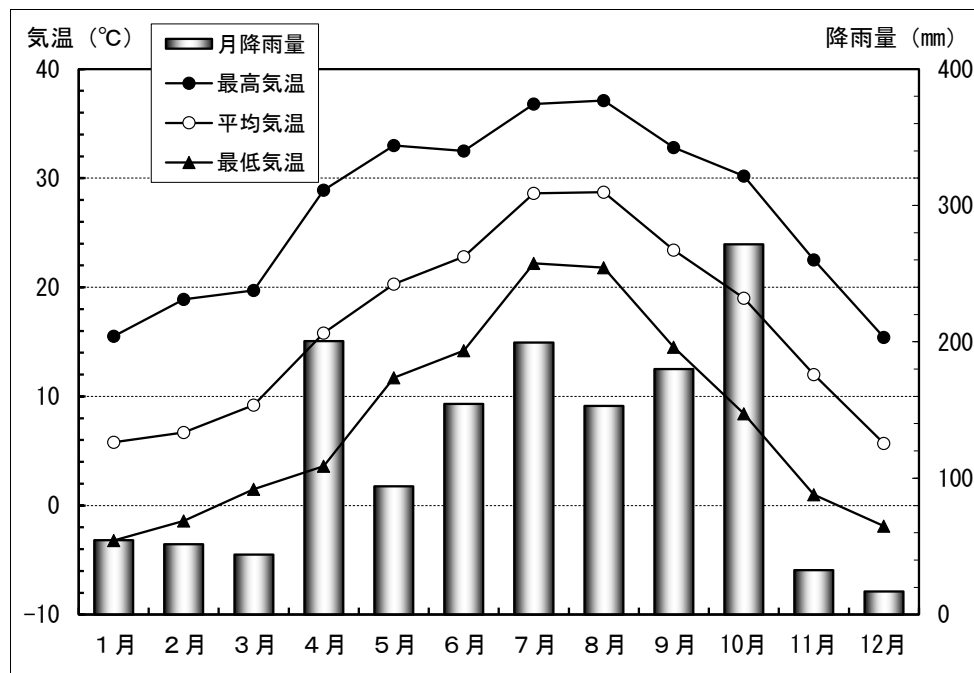


図 1.4.2 気象概要（2017年（平成29年））

表 1.4.2 気象の経年変化

観測所：太宰府観測所

| 年次   | 気温 (°C) |      |      |      |      | 降水量 (mm) |       |       |
|------|---------|------|------|------|------|----------|-------|-------|
|      | 平均      |      |      | 最高   | 最低   | 合計       | 日最大   | 1時間最大 |
|      | 日平均     | 日最高  | 日最低  |      |      |          |       |       |
| 2008 | 16.6    | 21.1 | 12.6 | 36.5 | -2.1 | 1,780.0  | 117.5 | 72.5  |
| 2009 | 16.7    | 21.2 | 12.6 | 35.8 | -3.2 | 1,951.5  | 277.5 | 84.0  |
| 2010 | 16.8    | 21.3 | 12.9 | 36.8 | -2.5 | 2,103.0  | 200.5 | 74.5  |
| 2011 | 16.2    | 20.7 | 12.4 | 35.2 | -2.7 | 1,798.0  | 95.0  | 26.0  |
| 2012 | 16.1    | 20.4 | 12.3 | 36.5 | -4.3 | 2,071.5  | 161.0 | 52.5  |
| 2013 | 16.8    | 21.3 | 12.7 | 37.8 | -2.7 | 2,092.0  | 262.0 | 52.0  |
| 2014 | 16.2    | 21.1 | 12.1 | 37.5 | -2.8 | 1,986.0  | 168.0 | 98.5  |
| 2015 | 16.5    | 21.4 | 12.5 | 37.4 | -2.4 | 1,978.0  | 86.5  | 44.0  |
| 2016 | 17.2    | 22.2 | 13.1 | 37.3 | -5.6 | 2,702.0  | 162.0 | 45.0  |
| 2017 | 16.5    | 21.5 | 12.3 | 37.1 | -3.2 | 1,452.5  | 95.5  | 60.5  |
| 平均   | 16.6    | 21.2 | 12.6 | 36.8 | -3.2 | 1,991.5  | 162.6 | 61.0  |

資料：『気象庁 電子閲覧室』気象庁ホームページ

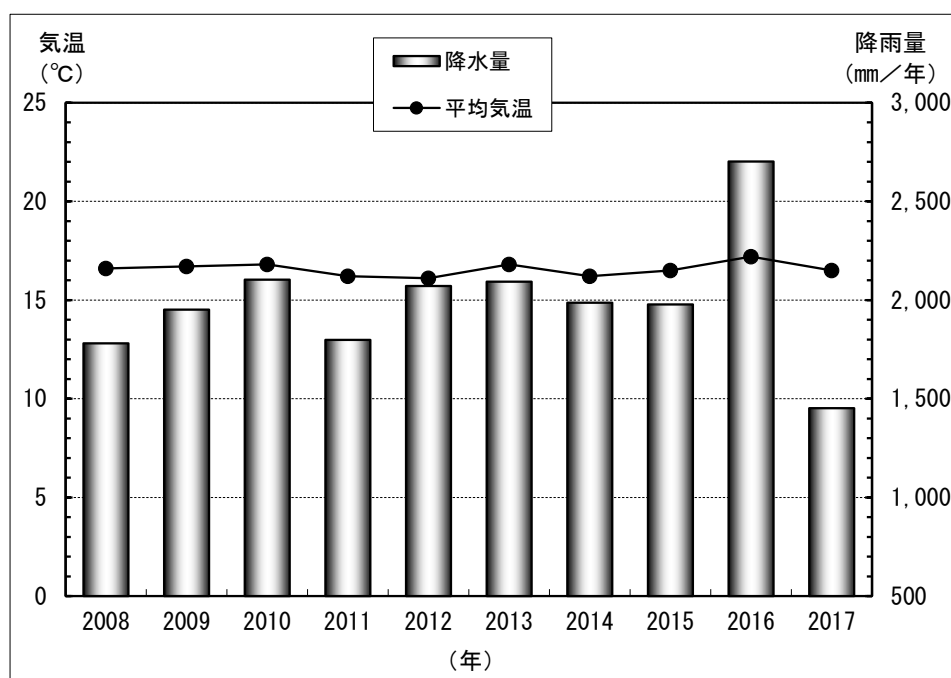


図 1.4.3 気象の経年変化

### 3. 人口

#### (1) 人口

国勢調査に基づいた本市の1970年（昭和45年）から2015年（平成27年）までの人口の推移を表1.4.3及び図1.4.4に示す。

本市の人口は、1970年（昭和45年）3万人程度であったものが、2015年（平成27年）には58,000人程度となり、2倍程度に増加している。

しかし、最近の人口動態では、2008年（平成20年）以降には死亡が出生より多くなる一方で、社会動態が増加傾向にあり、全体としては、増減を繰り返しながらほぼ横這い傾向となっている。（表1.4.4、図1.4.5）

表 1.4.3 人口の推移

| 年次   | 人 口 (人) |        |        | 世帯数<br>(戸) | 世帯人員<br>(人/戸) | 増加人員<br>(人) | 増加率<br>(%) |
|------|---------|--------|--------|------------|---------------|-------------|------------|
|      | 総数      | 男      | 女      |            |               |             |            |
| 1970 | 30,469  | 14,663 | 15,806 | 7,042      | 4.33          | —           | —          |
| 1975 | 36,914  | 17,679 | 19,235 | 9,174      | 4.02          | 6,445       | 21.2       |
| 1980 | 41,057  | 19,605 | 21,452 | 10,606     | 3.87          | 4,143       | 11.2       |
| 1985 | 43,811  | 20,845 | 22,966 | 11,717     | 3.74          | 2,754       | 6.7        |
| 1990 | 47,116  | 22,435 | 24,681 | 13,093     | 3.60          | 3,305       | 7.5        |
| 1995 | 50,612  | 24,032 | 26,580 | 15,258     | 3.32          | 3,496       | 7.4        |
| 2000 | 54,583  | 25,804 | 28,779 | 17,281     | 3.16          | 3,971       | 7.8        |
| 2005 | 57,481  | 27,082 | 30,399 | 18,831     | 3.05          | 2,898       | 5.3        |
| 2010 | 58,499  | 27,506 | 30,993 | 20,024     | 2.92          | 1,018       | 1.8        |
| 2015 | 57,983  | 27,203 | 30,780 | 20,964     | 2.77          | -516        | -0.9       |

〔資料：国勢調査（各年10月1日現在）〕

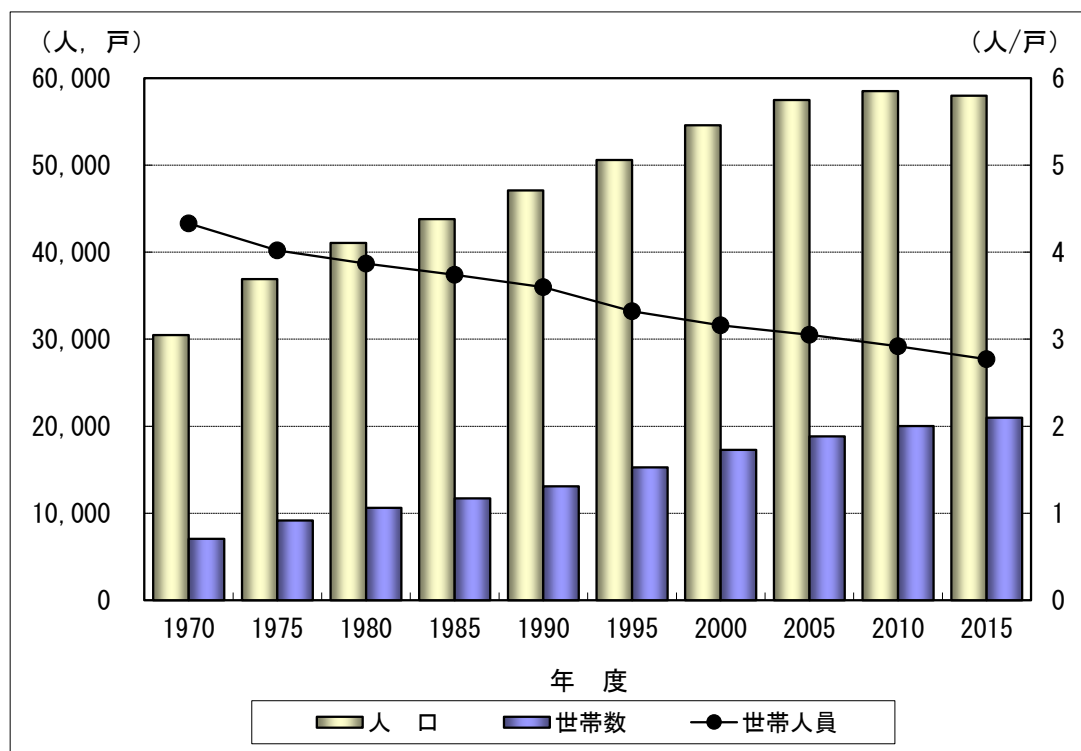


図 1.4.4 人口の推移

表 1.4.4 人口動態の状況

| 年度   | 自然動態（人） |     |      | 社会動態（人） |       |     | 増加数（人） |
|------|---------|-----|------|---------|-------|-----|--------|
|      | 出生      | 死亡  | 増加数  | 転入      | 転出    | 増加数 |        |
| 2008 | 471     | 488 | -17  | 2,622   | 2,595 | 27  | 10     |
| 2009 | 465     | 466 | -1   | 2,500   | 2,456 | 44  | 43     |
| 2010 | 446     | 456 | -10  | 2,414   | 2,318 | 96  | 86     |
| 2011 | 417     | 473 | -56  | 2,575   | 2,436 | 139 | 83     |
| 2012 | 438     | 540 | -102 | 2,467   | 2,516 | -49 | -151   |
| 2013 | 444     | 503 | -59  | 2,693   | 2,504 | 189 | 130    |
| 2014 | 438     | 530 | -92  | 2,443   | 2,527 | -84 | -176   |
| 2015 | 410     | 552 | -142 | 2,737   | 2,702 | 35  | -107   |
| 2016 | 440     | 526 | -86  | 2,735   | 2,545 | 190 | 104    |
| 2017 | 405     | 603 | -198 | 2,944   | 2,635 | 309 | 111    |

[資料：小郡市市民課]

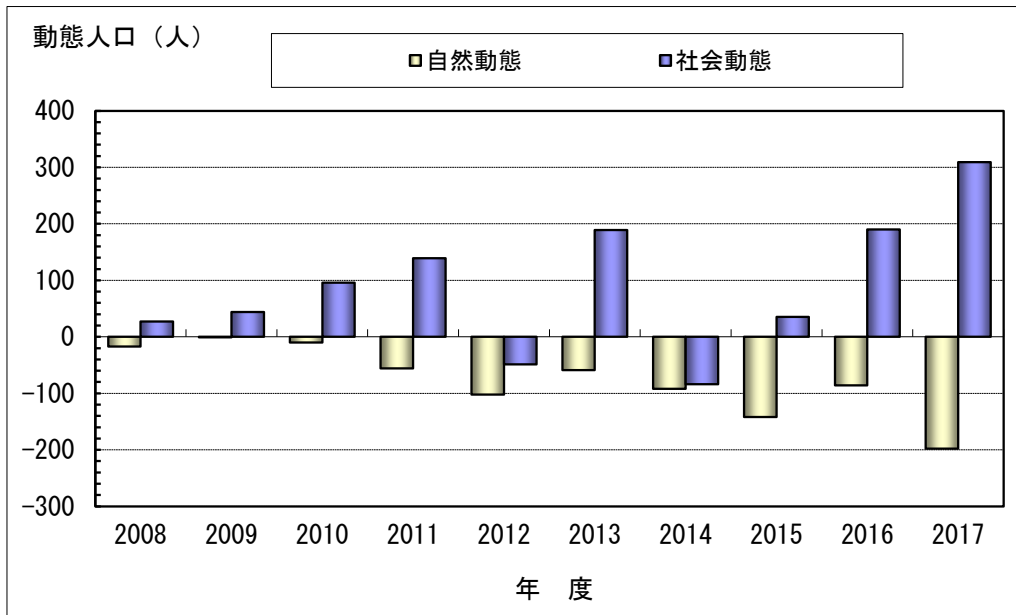


図 1.4.5 人口動態の状況

## (2) 年齢別人口

本市における年齢別の人口分布を表 1.4.5 及び図 1.4.6 に示す。

本市の人口構成は、団塊世代にあたる 65～69 歳の年齢層が最も多く、これより若年層は徐々に減少しているが、40 歳代が比較的多くなっている。

若年（14 歳以下）人口は、8,258 人で 13.9%、老齢（65 歳以上）人口は 15,581 人で 26.2%となっており、老齢人口が若年人口を上回り、少子高齢化の傾向となっている。

表 1.4.5 年齢別 5 歳階級別人口（2017 年（平成 29 年）9 月 30 日現在）

| 年齢      | 男     | 女     | 合計    |
|---------|-------|-------|-------|
| 0～4 歳   | 1,257 | 1,155 | 2,412 |
| 5～9 歳   | 1,434 | 1,388 | 2,822 |
| 10～14 歳 | 1,558 | 1,466 | 3,024 |
| 15～19 歳 | 1,809 | 1,718 | 3,527 |
| 20～24 歳 | 1,768 | 1,692 | 3,460 |
| 25～29 歳 | 1,282 | 1,357 | 2,639 |
| 30～34 歳 | 1,472 | 1,501 | 2,973 |
| 35～39 歳 | 1,728 | 1,734 | 3,462 |
| 40～44 歳 | 1,986 | 2,088 | 4,074 |
| 45～49 歳 | 2,015 | 2,219 | 4,234 |
| 50～54 歳 | 1,799 | 2,064 | 3,863 |
| 55～59 歳 | 1,758 | 1,947 | 3,705 |
| 60～64 歳 | 1,877 | 1,872 | 3,749 |
| 65～69 歳 | 2,104 | 2,337 | 4,441 |
| 70～74 歳 | 1,569 | 1,813 | 3,382 |
| 75～79 歳 | 1,246 | 1,683 | 2,929 |
| 80～84 歳 | 997   | 1,363 | 2,360 |
| 85～89 歳 | 542   | 977   | 1,519 |
| 90～94 歳 | 165   | 539   | 704   |
| 95～99 歳 | 34    | 169   | 203   |
| 100 歳以上 | 6     | 37    | 43    |

[資料：人口移動調査]

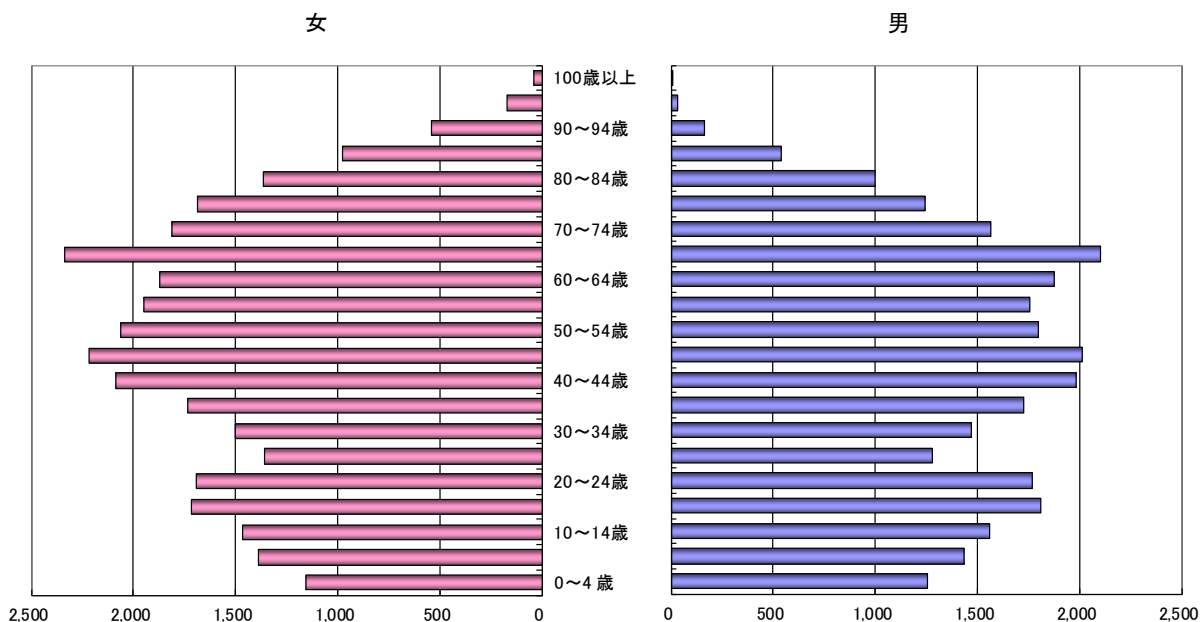


図 1.4.6 年齢 5 歳階級別人口（2017 年（平成 29 年）9 月 30 日現在）

## 4. 産業

### (1) 産業構造

本市における産業別就業者数を表 1.4.6 及び図 1.4.7 に示す。

本市の就業者数は、2010 年（平成 22 年）に減少したが、2015 年（平成 27 年）には増加し、2005 年（平成 17 年）より多くなっている。

産業別の割合では、2010 年（平成 22 年）には、第 1 次産業及び第 2 次産業は減少し、第 3 次産業が増加しているが、2015 年（平成 27 年）には、第 1 次産業及び第 2 次産業が増加し、第 3 次産業が減少している。

表 1.4.6 産業別従業者数

| 区分         | 2005      |           | 2010      |           | 2015      |           | 2015(福岡県) |           |
|------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|            | 実数<br>(人) | 割合<br>(%) | 実数<br>(人) | 割合<br>(%) | 実数<br>(人) | 割合<br>(%) | 実数<br>(人) | 割合<br>(%) |
| 産業別        |           |           |           |           |           |           |           |           |
| 総数         | 25,972    | 100.0     | 25,719    | 100.0     | 26,164    | 100.0     | 2,254,095 | 100.0     |
| 第 1 次産業    | 1,259     | 4.8       | 987       | 3.8       | 1,002     | 3.8       | 62,642    | 2.8       |
| 農業         | 1,256     | 4.8       | 981       | 3.8       | 995       | 3.8       | 57,741    | 2.6       |
| 林業         | 2         | 0.0       | 6         | 0.0       | 7         | 0.0       | 960       | 0.0       |
| 漁業         | 1         | 0.0       | 0         | 0.0       | 0         | 0.0       | 3,941     | 0.2       |
| 第 2 次産業    | 4,619     | 17.8      | 4,098     | 16.0      | 4,318     | 16.5      | 454,485   | 20.1      |
| 鉱業         | 1         | 0.0       | 1         | 0.0       | 0         | 0.0       | 660       | 0.0       |
| 建設業        | 1,862     | 7.2       | 1,509     | 5.9       | 1,466     | 5.6       | 177,709   | 7.9       |
| 製造業        | 2,756     | 10.6      | 2,588     | 10.1      | 2,852     | 10.9      | 276,116   | 12.2      |
| 第 3 次産業    | 20,094    | 77.4      | 20,634    | 80.2      | 20,844    | 79.7      | 1,736,968 | 77.1      |
| 電気・ガス・水道業  | 193       | 0.7       | 211       | 0.8       | 192       | 0.7       | 11,708    | 0.5       |
| 運輸・通信業     | 2,344     | 9.0       | 2,530     | 9.8       | 2,538     | 9.7       | 186,674   | 8.3       |
| 卸売・小売業・飲食店 | 6,011     | 23.1      | 5,870     | 22.8      | 5,477     | 20.9      | 502,664   | 22.3      |
| 金融・保険業     | 876       | 3.4       | 859       | 3.3       | 811       | 3.1       | 53,766    | 2.4       |
| 不動産業       | 333       | 1.3       | 411       | 1.6       | 408       | 1.6       | 48,999    | 2.2       |
| サービス業      | 8,280     | 32.0      | 7,993     | 31.2      | 8,686     | 33.3      | 742,076   | 32.9      |
| 公務         | 1,931     | 7.4       | 2,118     | 8.2       | 1,844     | 7.0       | 79,022    | 3.5       |
| 分類不能の産業    | 126       | 0.5       | 642       | 2.5       | 888       | 3.4       | 112,059   | 5.0       |

[資料：国勢調査（各年10月1日現在）]

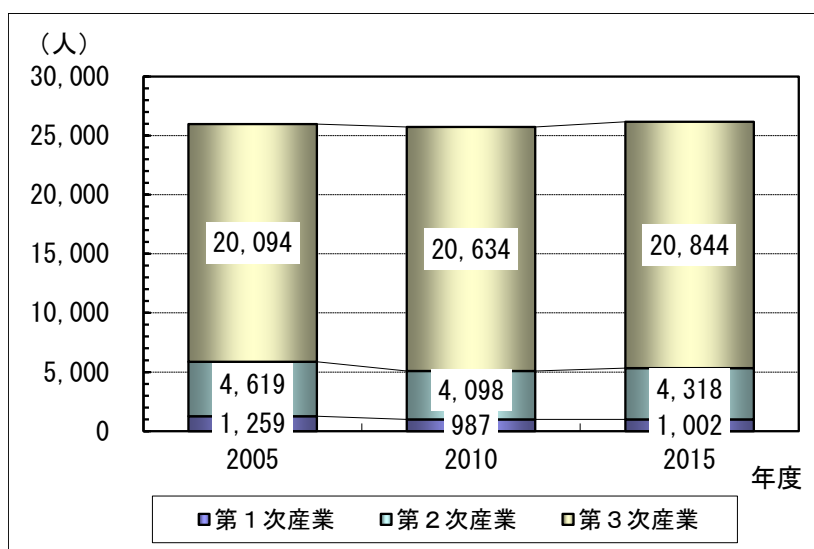


図 1.4.7 産業別就業者数

## (2) 農業

本市における専兼業別農家数と農家人口を表 1.4.7 及び図 1.4.8 に、経営耕地面積を表 1.4.8 及び図 1.4.9 に示す。

農家数は、全体的には減少し、2015 年（平成 27 年）では 2005 年（平成 17 年）に比べ 75%程度の戸数となっている。

農業就業人口についても農家数以上に減少し、2015 年（平成 27 年）では 2005 年（平成 17 年）に比べ 1/2 強の人数となっている。

表 1.4.7 専兼業別農家数

| 項目             |      | 年次    | 2005  | 2010  | 2015 |
|----------------|------|-------|-------|-------|------|
| 農業就業人口（販売農家：人） |      |       | 1,594 | 1,124 | 863  |
| 総農家数（戸）        |      |       | 1,164 | 920   | 876  |
| 販売農家           | 専業農家 |       | 195   | 191   | 170  |
|                | 兼業農家 | 計     | 744   | 454   | 369  |
|                |      | 第一種兼業 | 105   | 100   | 88   |
|                |      | 第二種兼業 | 639   | 354   | 281  |
| 自給的農家          |      |       | 225   | 275   | 337  |

[資料：農林業センサス（各年2月1日現在）]

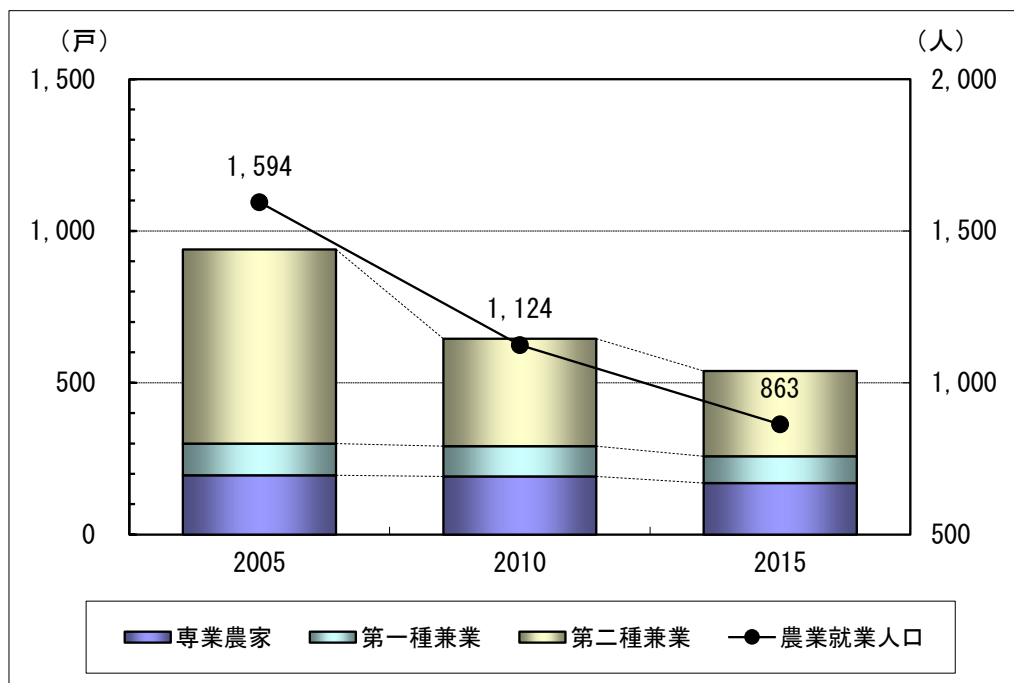


図 1.4.8 専兼業別農家数



経営耕地面積は、全体の9割以上を占めている田が、2015年（平成27年）では若干増加した一方で、2010年（平成22年）に増加した樹園地が、2015年（平成27年）には減少している。

表 1.4.8 経営耕地面積

（単位：ha）

| 年次   | 田     | 畑  | 樹園地 | 計     |
|------|-------|----|-----|-------|
| 2005 | 1,632 | 83 | 8   | 1,723 |
| 2010 | 1,626 | 64 | 65  | 1,755 |
| 2015 | 1,648 | 87 | 23  | 1,758 |

〔資料：農林業センサス（各年2月1日現在）〕

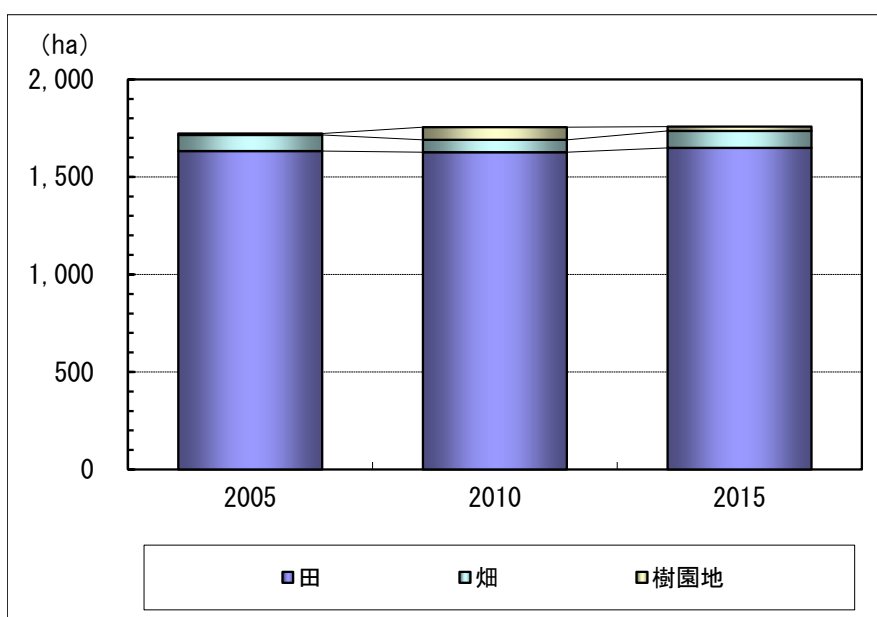


図 1.4.9 経営耕地面積

### (3) 工業

本市における事業所数・従業者数・製造品出荷額の推移を表 1.4.9 及び図 1.4.10 に示す。

事業所数については、2005 年（平成 17 年）以降減少傾向にあったが、2012 年（平成 24 年）以降増加傾向にある。

従業者数については、2007 年（平成 19 年）までは減少傾向にあったが、その後は増加傾向にある。

製造品出荷額については、2011 年（平成 23 年）までは増加傾向にあったが、その後は減少傾向にある。

表 1.4.9 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

| 年次   | 事業所数<br>(事業所) | 従業者数<br>(人) | 製造品出荷額<br>(百万円) |
|------|---------------|-------------|-----------------|
| 2005 | 29            | 1,439       | 30,653          |
| 2006 | 26            | 1,421       | 32,452          |
| 2007 | 24            | 1,300       | 30,545          |
| 2008 | 23            | 1,388       | 29,043          |
| 2009 | 22            | 1,367       | 34,652          |
| 2010 | 21            | 1,479       | 35,164          |
| 2011 | 19            | 1,547       | 47,348          |
| 2012 | 21            | 1,526       | 41,599          |
| 2013 | 21            | 1,498       | 41,512          |
| 2014 | 22            | 1,598       | 39,121          |

[資料：工業統計調査]

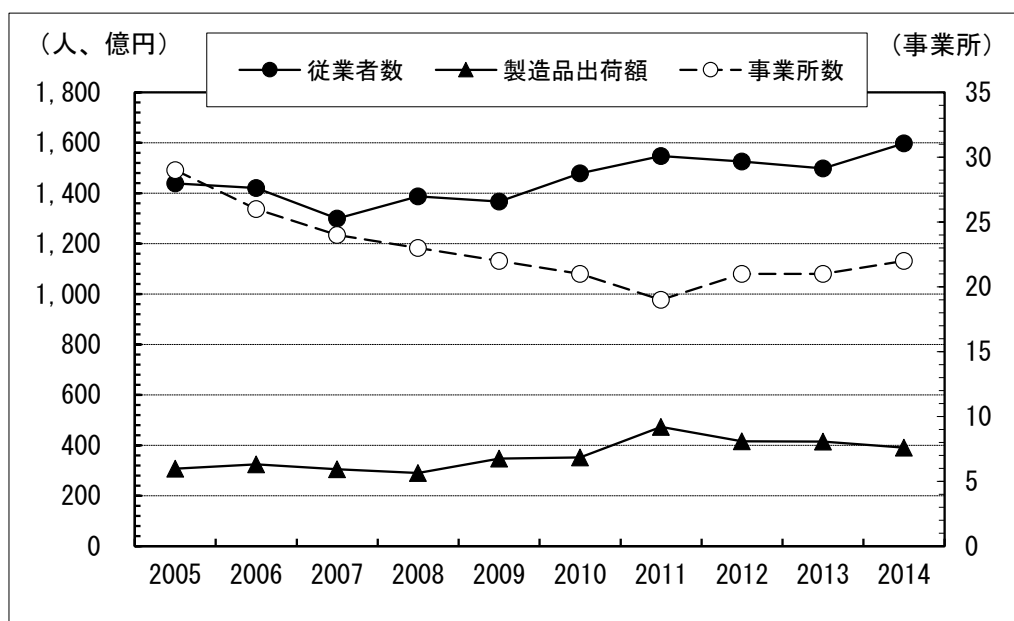


図 1.4.10 事業所数・従業者数・製造品出荷額等の推移

#### (4) 商業

本市における事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移を表 1.4.10 及び図 1.4.11 に示す。

事業所数については、2002 年（平成 14 年）以降減少傾向にあるが、年間商品販売額については、全体的には増加傾向にある。

従業者数については、2012 年（平成 24 年）までは減少傾向であったが、その後は増加傾向にある。

表 1.4.10 事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

| 年次   | 事業所数<br>(事業所) | 従業者数<br>(人) | 年間商品販売額<br>(百万円) |
|------|---------------|-------------|------------------|
| 2002 | 482           | 2,847       | 44,754           |
| 2004 | 462           | 3,119       | 83,647           |
| 2007 | 432           | 3,059       | 53,283           |
| 2012 | 407           | 2,603       | 96,305           |
| 2014 | 430           | 3,118       | 131,879          |
| 2016 | 393           | 3,329       | 148,699          |

[資料：商業統計調査、経済センサス]

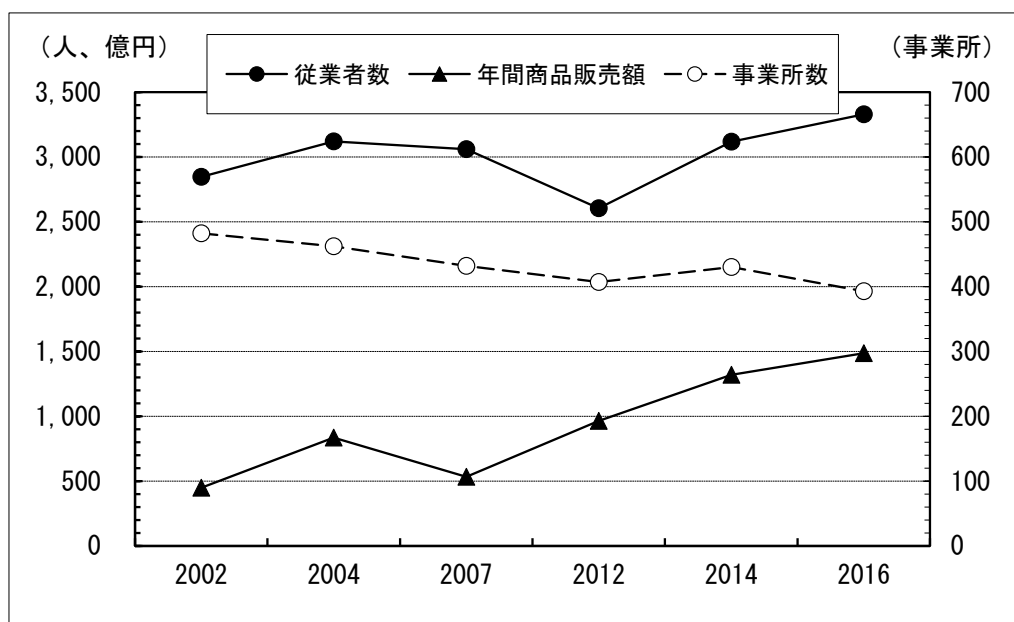


図 1.4.11 事業所数・従業者数・年間商品販売額の推移

## 5. 土地利用状況

本市における土地の利用状況を表 1.4.11 及び図 1.4.12 に示す。

平地部にある本市の土地利用状況は、山林がほとんどなく（全体の 3.0%）、水田が全体の 36.4%を占め、最も多くなっている。次いで、宅地の 19.7%、畑の 9.9%となっている。

表 1.4.11 地目別土地面積

2017年1月1日現在

| 区分<br>地目名 | 面積<br>(ha) | 割合<br>(%) |
|-----------|------------|-----------|
| 総面積       | 4,551      | 100.0     |
| 田         | 1,656      | 36.4      |
| 畑         | 451        | 9.9       |
| 宅地        | 898        | 19.7      |
| 山林        | 137        | 3.0       |
| 原野        | 48         | 1.1       |
| その他       | 1,361      | 29.9      |

[資料：小郡市税務課]

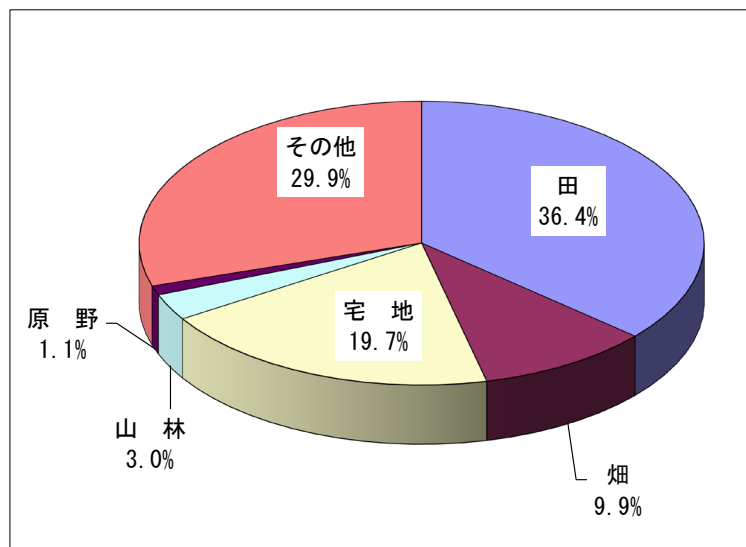


図 1.4.12 地目別土地面積

## 6. 将来計画

2016年（平成28年）3月に策定された「第5次小郡市総合振興計画・後期基本計画（2016年度（平成28年度）～2020年度（平成32年度）」では、「市民との協働によるまちづくり」を基本理念に、「人が輝き、笑顔あふれる快適緑園都市・おごおり」を将来都市像とし、今後5年間の取り組みを進めていくとしている。

本計画に関連する内容としては、基本目標『ゆとりと潤いに満ちた居住環境づくり』のなかで「環境衛生対策・環境保全」をテーマとして、①ごみ発生の抑制、②リサイクル活動の推進、③ごみ及びリサイクル収集体制の整備、④し尿処理体制の転換、⑤河北苑の改修、⑥環境施策の推進、⑦環境美化の推進、⑧ペット対策の推進に取り組んでいくこととしている。

第5次小郡市総合振興計画・後期基本計画の体系図を、図1.4.13に示す。

### ○環境衛生対策・環境保全

#### ・基本目標

環境に負担をかけない資源循環型の都市の実現のため、行政・市民・事業者が一体となった、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の取組みを推進します。水洗化は、公共下水道の普及に比例した転換を図っていきます。

また、受け継がれてきた美しい自然環境を守るため、市民・事業所・行政が協働で保全を行います。

#### ・施策の内容

##### ① ごみ発生の抑制

生産や流通、消費の段階で事業者と市民の協力を得ながら、ごみを出さない環境づくりを推進し、ごみの総量抑制に取り組めます。また、ごみ減量リサイクルアドバイザーによる広報・講演等の啓発活動を行い、市民の各層に対するごみ分別の意識向上に努め、減量化を推進します。

また、新たにリサイクル可能な品目について調査・研究します。

##### ② リサイクル活動の推進

可燃・不燃物の更なる分別により、資源ごみとしての回収率の向上を図るとともに、資源ごみ売上還元金及びリサイクル協力団体奨励金によるリサイクル活動への支援や生ごみ処理容器・機器の購入費助成措置、資源再生品の使用運動等を行いながら、継続的なりサイクル活動を推進します。

##### ③ ごみ及びリサイクル収集体制の整備

ごみ処理施設の処理方法に対応した分別・収集方法を継続して行うとともに、効率的かつすべての市民がより利用しやすい収集体制をめざします。

##### ④ し尿処理体制の転換

公共下水道事業の供用区域拡大とともに、し尿汲み取りや合併浄化槽方式から公共下水道への転換が速やかに行われるように周知を図ります。

##### ⑤ 河北苑の改修

河北苑の空調設備や屋根（防水施工）を年次的に改修し、安定した火葬業務の推進を図ります。

##### ⑥ 環境施策の推進

水質などの環境検査の実施により現状把握を行い、必要に応じて対策を講じます。

地球温暖化防止対策として、市民と連携してエコ行動を推進することにより、二酸化炭素など温室効果ガスの削減に取り組めます。

##### ⑦ 環境美化の推進

不法投棄については小郡市不法投棄対策協議会、小郡警察署などと連携して、対策を推進していきます。また、宝満川などの河川環境美化事業については、久留米県土整備事務所などと協力・連携のもと、推進します。空き地などにおける雑草問題については、所有者などによる適正な管理をめざします。

##### ⑧ ペット対策の推進

動物の適正飼育による危害発生の防止に努め、動物愛護思想の普及を図ります。また、動物ふん害防止の啓発とモラルの向上など、飼い犬等の飼育マナー向上により快適な生活環境の確保を図ります。

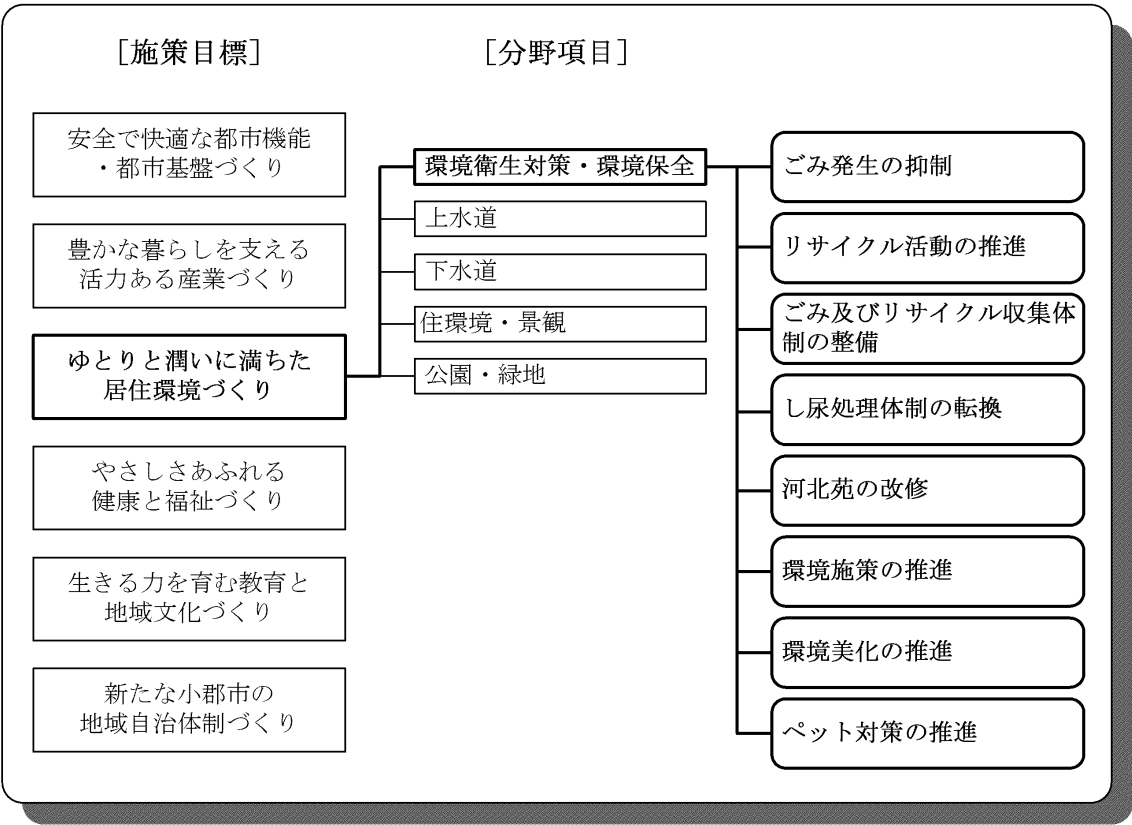
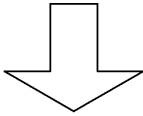
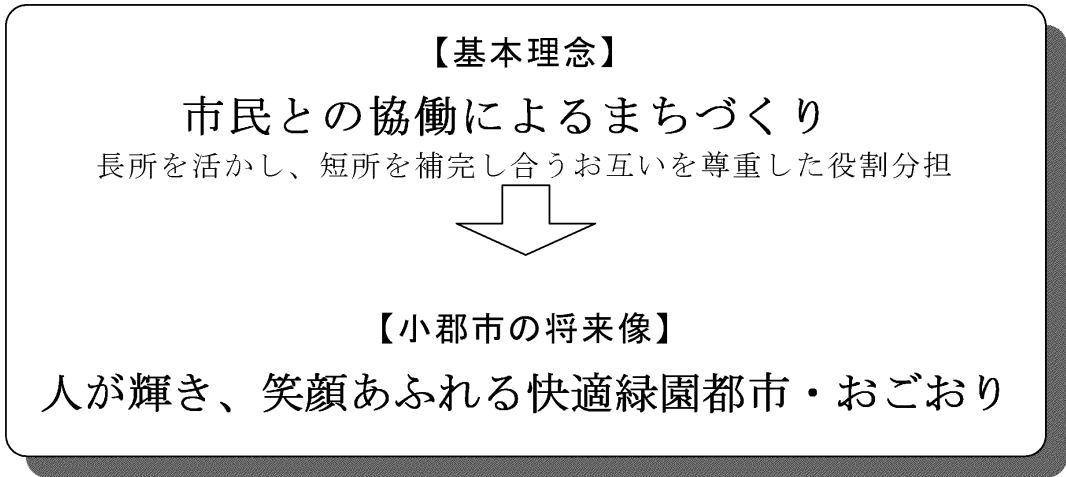


図 1.4.13 第 5 次小郡市総合振興計画・後期基本計画の体系図

## 第2章 ごみ処理の現況と市民の意向

### 第1節 ごみ処理事業の経緯

本市におけるごみ処理事業は、1965年（昭和40年）に清掃条例が施行されて以降、国の「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の制定に伴って、1972年（昭和47年）に「小郡市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」が施行された。

1978年（昭和53年）に夜須町（現筑前町）との一部事務組合である小郡市・夜須町清掃施設組合の清掃センターが完成し、定期収集が始まった。1981年（昭和56年）に筑紫野市、小郡市、基山町による筑紫野・小郡・基山清掃施設組合を設立し、1984年（昭和59年）3月から同組合の宝満環境センターが稼働し始めた。

本市の燃えるごみは、小郡市・夜須町清掃施設組合清掃センターと宝満環境センターでの処理となり、不燃物等は宝満環境センターでの処理を続けてきた。

ごみ量が増加するとともに、自治体の処理施設では処理が難しい適正処理困難物の問題が生じ、プラスチックや紙が多用されている容器包装ごみの急増、ごみ焼却に伴うダイオキシン類の発生やCO<sub>2</sub>排出による地球温暖化など様々な問題が顕在化したことから、従来のごみの適正処理だけでなく、ごみの排出や処理のあり方まで問われるような状況となってきた。これに対応してごみ処理に関する法律やリサイクル関連の各種法律及びダイオキシン類対策特別措置法等が整備され、本市でも小郡市環境衛生組合連合会（以下「衛連」という。）と協力しごみの分別、資源化の取り組みを表2.1.1のように進めてきている。

2008年度（平成20年度）からは筑紫野・小郡・基山清掃施設組合のクリーンヒル宝満が完成したこととともない、小郡市・夜須町清掃施設組合清掃センター及び宝満環境センターは2007年度（平成19年度）末をもって操業停止し、本市で発生するごみはすべてクリーンヒル宝満で処理されるようになった。

2011年（平成23年）7月に小郡リサイクルステーションを開設し、剪定枝を除く資源物の受け入れを行っている。

2012年（平成24年）4月に「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」が施行されたことに伴い、2013年（平成25年）10月からはクリーンヒル宝満において、使用済み小型電子機器等のピックアップ回収を開始した。また、2020年の東京オリンピックに向け、2017年（平成29年）11月から、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に参加している。

表 2.1.1 ごみ処理の経緯

| 年 月         | 記 事                                                                                                                                            |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1965 年      | 「小郡町清掃条例」施行                                                                                                                                    |
| 1972 年 4 月  | 「小郡市廃棄物の処理及び清掃に関する条例」施行                                                                                                                        |
| 1975 年 12 月 | 小郡市・夜須町清掃施設組合設立                                                                                                                                |
| 1978 年 4 月  | 小郡市・夜須町衛生施設組合清掃センター完成 (50t/日)<br>定期収集開始<br>(可燃物) [大 1 袋 50 円、小 1 袋 30 円]、(金属類) [小 1 袋 30 円]<br>(ビン) [1 袋 30 円]、(不燃物) [1 袋 30 円]                |
| 1981 年 4 月  | 筑紫野・小郡・基山清掃施設組合設立                                                                                                                              |
| 1984 年 4 月  | 筑紫野・小郡・基山清掃施設組合宝満環境センター稼働開始 (180 t / 日)                                                                                                        |
| 1989 年 4 月  | ごみ収集無料化 (可燃袋指定なし、不燃袋無料配布)                                                                                                                      |
| 1991 年 10 月 | コンポスト容器購入補助の開始                                                                                                                                 |
| 1992 年 4 月  | 資源回収奨励金制度の導入                                                                                                                                   |
| 1993 年 10 月 | 「空き缶等の散乱防止及びその再資源化の促進に関する条例」施行                                                                                                                 |
| 1994 年 10 月 | 資源ごみ収集開始 (アルミ缶、スチール缶)                                                                                                                          |
| 1996 年 10 月 | 資源ごみ収集開始 (新聞紙、雑紙、段ボール、古布)                                                                                                                      |
| 1997 年 9 月  | 資源ごみ収集開始 (食品トレー)                                                                                                                               |
| 1998 年 4 月  | 施設使用料無料化廃止                                                                                                                                     |
| 1998 年 6 月  | リサイクル推進都市宣言                                                                                                                                    |
| 1998 年 9 月  | ごみ収集有料化開始<br>(可燃物) [大 1 袋 50 円、小 1 袋 30 円]、(金属類) [1 袋 30 円]<br>(ビン) [1 袋 30 円]、(不燃物類) [1 袋 30 円]、<br>(粗大ごみ) [シール 1 枚 500 円]<br>資源ごみ収集開始 (紙パック) |
| 1999 年 4 月  | 資源ごみ収集開始 (ペットボトル、剪定枝)                                                                                                                          |
| 2000 年 6 月  | 電気式生ごみ処理機・EMボカシ容器の補助制度開始                                                                                                                       |
| 2001 年 10 月 | ごみ減量リサイクルアドバイザー委嘱                                                                                                                              |
| 2003 年 8 月  | 有害ごみ (乾電池) 回収開始 (アルミ缶、スチール缶回収時)                                                                                                                |
| 2004 年 4 月  | 公用地の雑草のリサイクル試験事業開始                                                                                                                             |
| 2005 年 4 月  | 公用地の雑草のリサイクル開始<br>犬猫死体の開庁時以外の収集委託契約締結<br>シルバー人材委託分の剪定・除草作業に伴う木、草の焼却場への搬入停止。<br>ごみ収集カレンダーの仕様変更                                                  |
| 2006 年 6 月  | 可燃性指定ごみ袋のポリ袋化 (大・小)                                                                                                                            |
| 2007 年 3 月  | 金属専用袋を廃止 (不燃物専用袋に統合)                                                                                                                           |
| 2008 年 3 月  | 宝満環境センター・筑前町清掃センターの閉鎖                                                                                                                          |
| 2008 年 4 月  | クリーンヒル宝満の稼働開始                                                                                                                                  |
| 2011 年 7 月  | 小郡市リサイクルステーション稼働                                                                                                                               |
| 2013 年 10 月 | クリーンヒル宝満において不燃物から使用済み小型電子機器等のピックアップ回収開始                                                                                                        |
| 2015 年 4 月  | 資源ごみ売上還元金制度導入                                                                                                                                  |
| 2017 年 11 月 | 「都市鉱山からつくる! みんなのメダルプロジェクト」参加                                                                                                                   |



## 第2節 ごみ処理の体制

### 1. ごみ処理の事業形態

本市のごみ処理の事業形態は、表 2.2.1 のとおりである。

一般廃棄物収集運搬については、家庭系ごみは市が、事業系ごみは事業者が主体となっている。焼却・資源化等の中間処理から最終処分については、筑紫野・小郡・基山清掃施設組合が主体となっており、クリーンヒル宝満（熱回収施設）から排出される熔融スラグ、熔融メタル及び熔融飛灰については、全てリサイクルのため業者に引き取られているため、埋立処分は0である。

表 2.2.1 ごみ処理の処理主体

| 区 分   | 収集・運搬 | 中間処理 | 最終処分    |
|-------|-------|------|---------|
| 家庭系ごみ | 市     | 組合   | －（実績なし） |
| 事業系ごみ | 事業者   | 組合   | －（実績なし） |

### 2. ごみの分別種類

本市に関わる収集ごみは、表 2.2.2 及び表 2.2.3 に示すとおりで、燃えるごみ、不燃物、粗大ごみ、ビンに区分している。資源ごみは、表 2.2.4 のように区分されている。

表 2.2.2 収集ごみの分別

| 区 分   | 主 な 品 目                                                                                                        |
|-------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 燃えるごみ | 生ごみ、貝がら、紙くず、紙おむつ、布くず、CD・DVD、ゴム・皮製品、発泡スチロール、プラスチック製品など                                                          |
| ビン    | 飲料用・調味料・化粧品のビン                                                                                                 |
| 不燃物   | 蛍光灯、鏡、ガラス製品、陶磁器、ライター、植木鉢、板ガラス、犬・猫の砂、使い捨てカイロ、やかん、鍋、包丁、カセットボンベ・スプレー缶、カセットコンロ・ガスコンロ、おもちゃ・文具など鉄製品、傘、家電製品（袋に入るもの）など |
| 粗大ごみ  | 寝具類、ゴルフバック、個人で修理して出た塩ビパイプ・トタン、タンス、机・いす、タイヤ、カーペット類、畳、ベッド、ソファ、オルガン、ストーブ・ロッカー・自転車、バッテリー、使用済みの消火器、家電製品（袋に入らないもの）など |

表 2.2.3 有害ごみの分別

| 区 分  | 品 目                              |
|------|----------------------------------|
| 有害ごみ | 乾電池、水銀体温計、水銀温度計（電子体温計・電子温度計は不燃物） |

表 2.2.4 資源ごみの分別

| 区 分  | 品 目                                                        |
|------|------------------------------------------------------------|
| 資源ごみ | 新聞紙・チラシ、雑紙、段ボール、紙パック、古布、ペットボトル、アルミ缶・スチール缶、食品トレー（白色・有色）、剪定枝 |

### 3. 収集・運搬体制

本市の生活系ごみの収集・運搬形態は、表 2.2.5 のようになっている。排出は、燃えるごみ、ビン、不燃物は有料指定袋、粗大ごみは有料指定シール、資源ごみ等はごみの性状にあわせた排出方法となっている。なお、剪定枝を除く資源物については、小郡市リサイクルステーションにて受入を行っている。

収集方法は、一部の資源ごみを除いて全て戸別収集方式である。

収集・運搬は、業者委託である。

表 2.2.5 収集ごみの分別

| 収集区分      | 排出方法        | 収集方法      | 収集・運搬   | 収集頻度 |      |
|-----------|-------------|-----------|---------|------|------|
| 燃えるごみ     | 指定専用袋（橙色）   | 戸別（ルート）   | 委託      | 2回／週 |      |
| 不燃物       | 指定専用袋（紫帯）   | 戸別（ルート）   | 委託      | 1回／月 |      |
| ビン        | 指定専用袋（ピンク帯） | 戸別（ルート）   | 委託      | 1回／月 |      |
| 粗大ごみ      | 指定シール（予約制）  | 戸別（ルート）   | 委託      | 1回／月 |      |
| 有害ごみ（乾電池） | 専用ボックス      | 拠点回収      | 委託      | 1回／月 |      |
| 資源ごみ      | 新聞紙・チラシ     | 結束        | 戸別（ルート） | 委託   | 1回／月 |
|           | 雑紙          | 結束        | 戸別（ルート） | 委託   | 1回／月 |
|           | 段ボール        | 結束        | 戸別（ルート） | 委託   | 1回／月 |
|           | 古布          | 透明袋（指定なし） | 戸別（ルート） | 委託   | 1回／月 |
|           | ペットボトル      | 透明袋（指定なし） | 戸別（ルート） | 委託   | 1回／月 |
|           | アルミ缶        | 指定なし      | 拠点回収    | 委託   | 1回／月 |
|           | スチール缶       | 指定なし      | 拠点回収    | 委託   | 1回／月 |
|           | 紙パック        | 結束        | 拠点回収    | 委託   | 1回／月 |
|           | トレー         | 専用ボックス    | 拠点回収    | 委託   | 1回／週 |
|           | 剪定枝         | 結束        | 拠点回収    | 委託   | 7回／年 |

#### 4. ごみ処理料金

一般廃棄物で、市民や事業者が、自らがクリーンヒル宝満へ持ち込む直接搬入の場合には有料であり、搬入量に対して表 2.2.6 に示す料金が設定されている。

表 2.2.6 処理料金

| 区 分      | 処理手数料         | 摘 要                                     |
|----------|---------------|-----------------------------------------|
| 家庭系一般廃棄物 | 10kg 当り 150 円 | ※10kg 未満は 10kg とする。処理手数料の額は消費税を含むものとする。 |
| 事業系一般廃棄物 | 10kg 当り 150 円 |                                         |

#### 5. ごみ処理体制（組織）

本市におけるごみ処理は、環境経済部生活環境課が担当部署となり、ごみの減量・資源化及び筑紫野・小郡・基山清掃施設組合をはじめ廃棄物処理に係わる関係各所との調整等を行っている。市内から排出された燃えるごみ、不燃物、粗大ごみ等は、組合のクリーンヒル宝満へ搬入され熔融処理、破碎・選別等の資源化処理が行われている。資源ごみについては、収集業者が回収し、資源化されている。

表 2.2.8 ごみ処理体制（本市及び組合）

| 組 織             | 担当部署           |                    |
|-----------------|----------------|--------------------|
| 小郡市             | 環境経済部 生活環境課    | リサイクル推進係 3名        |
| 筑紫野・小郡・基山清掃施設組合 | 事務局<br>事務局長 1名 | 事務担当 5名<br>現業部門 委託 |

### 第3節 ごみ処理フロー

本市におけるごみ処理は、燃えるごみ、不燃物、粗大ごみ、ビン及び有害ごみは筑紫野・小郡・基山清掃施設組合のクリーンヒル宝満で処理し、資源ごみは戸別収集及び拠点回収し資源化を行っている。

全体のごみの流れを図 2.3.1 に示す。

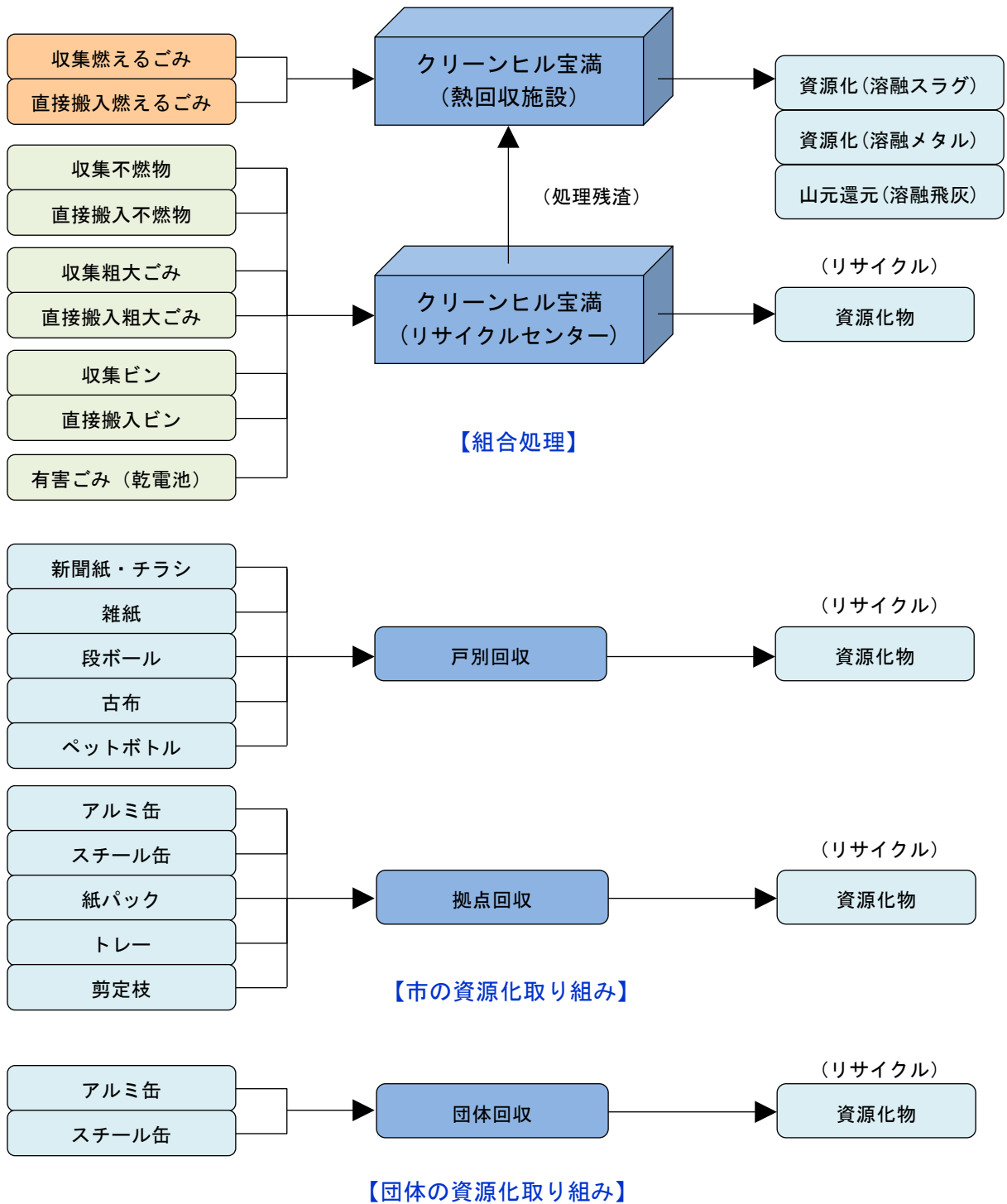


図 2.3.1 ごみ処理フロー

## 第4節 計画収集人口及びごみ排出量

### 1. 計画収集人口

本市の計画収集人口（＝行政区域内人口）の推移を表2.4.1、図2.4.1に示す。

計画収集人口は、2011年度（平成23年度）までは増加傾向を示したが、2011年度（平成23年度）以降は増減を繰り返しており、2008年度（平成20年度）から2017年度（平成29年度）までの10年間に59,226人から59,368人へと142人（0.2%）の増加に留まっている。

表2.4.1 計画収集人口の推移

| 年度     | 人口<br>(人) | 増減<br>(人) | 増減割合<br>(%) |
|--------|-----------|-----------|-------------|
| 2008年度 | 59,226    | —         | —           |
| 2009年度 | 59,250    | 24        | 0.04        |
| 2010年度 | 59,336    | 86        | 0.15        |
| 2011年度 | 59,452    | 116       | 0.20        |
| 2012年度 | 59,303    | -149      | -0.25       |
| 2013年度 | 59,429    | 126       | 0.21        |
| 2014年度 | 59,257    | -172      | -0.29       |
| 2015年度 | 59,151    | -106      | -0.18       |
| 2016年度 | 59,257    | 106       | 0.18        |
| 2017年度 | 59,368    | 111       | 0.19        |

[資料：住民基本台帳人口、各年度3月末現在]

※外国人を含む

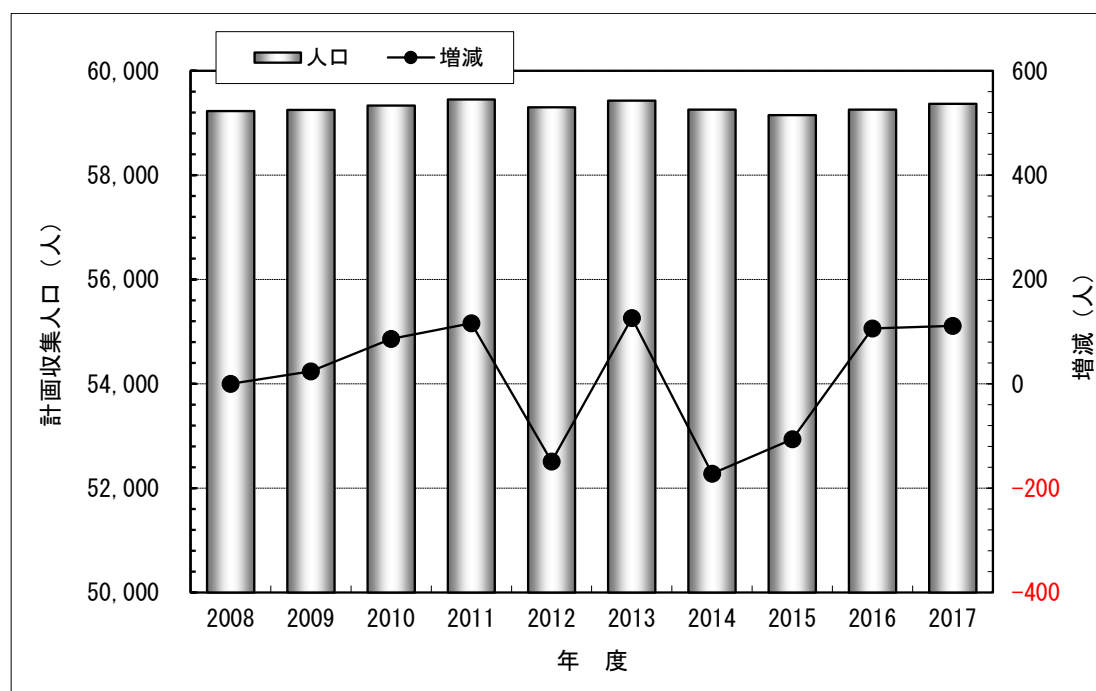


図2.4.1 計画収集人口の推移

## 2. ごみ排出量実績

本市のごみ排出量の推移を表 2.4.2、図 2.4.2 及び図 2.4.3 に、1 人 1 日当たりごみ排出量の推移を図 2.4.4 及び図 2.4.5 に示す。

ごみ排出量は、19,300～18,500 t/年程度でやや減少傾向にあり、1 人 1 日当たりのごみ排出量も同様にやや減少傾向にあり、2016 年度（平成 28 年度）で 851 g/人・日で、福岡県及び全国の平均値と比べて、小さくなっている。

また、生活系ごみにおける 1 人 1 日当たりのごみ排出量は、減少傾向にあるが、2016 年度（平成 28 年度）で 669 g/人・日程度で、福岡県及び全国の平均値と比べて大きくなっている。なお、2016 年度（平成 28 年度）の生活系ごみにおける小郡市及び福岡県平均値の内訳を以下に示す。これによると、小郡市の生活系ごみの 1 人 1 日当たりの排出量が福岡県平均値と比べ大きくなっているのは、資源ごみ関連の収集量が多いためであり、可燃・不燃・粗大ごみの合計値でみると、小郡市 510.5 g/人・日に対して、福岡県平均値 528.4 g/人・日となっており、福岡県と比べ小さくなっている。

2017 年度（平成 29 年度）における生活系ごみ排出量は 14,289 t/年、事業系ごみ排出量は 4,182 t/年であり、僅かではあるが、事業系ごみの割合が増加している。

種類別の排出量は、燃えるごみの割合が増加し、資源ごみ等資源物の割合が減少する傾向にある。

【参考：生活系ごみ 1 人 1 日当たりごみ排出量の内訳】

| 項 目      |            | 小郡市         | 福岡県平均値      |
|----------|------------|-------------|-------------|
| 生活系ごみの全量 |            | 669.2 g/人・日 | 621.8 g/人・日 |
| 内<br>訳   | 可燃・不燃・粗大ごみ | 510.5 g/人・日 | 528.4 g/人・日 |
|          | 資源ごみ関連     | 158.7 g/人・日 | 93.4 g/人・日  |

表 2.4.2 ごみ排出量及び原単位の推移（小郡市）

| 項目        | 単位    | 2013年度    | 2014年度    | 2015年度    | 2016年度    | 2017年度    |
|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 行政区域内人口   | 人     | 59,429    | 59,257    | 59,151    | 59,257    | 59,368    |
| 生活系ごみ     | t/年   | 15,317.05 | 15,127.60 | 15,038.51 | 14,472.66 | 14,289.27 |
| 収集ごみ      | t/年   | 10,989.06 | 10,937.70 | 10,955.52 | 10,625.28 | 10,565.39 |
| 燃えるごみ     | t/年   | 9,981.80  | 9,976.02  | 9,933.55  | 9,668.48  | 9,636.08  |
| 不燃物       | t/年   | 430.89    | 420.98    | 428.38    | 421.45    | 409.33    |
| 粗大ごみ      | t/年   | 156.79    | 137.67    | 193.37    | 145.67    | 140.75    |
| ビン        | t/年   | 419.58    | 403.03    | 400.22    | 389.68    | 379.23    |
| 直接搬入ごみ    | t/年   | 712.57    | 762.19    | 833.29    | 806.52    | 871.81    |
| 燃えるごみ     | t/年   | 150.24    | 162.97    | 184.09    | 172.22    | 197.55    |
| 不燃物       | t/年   | 10.01     | 14.70     | 15.53     | 10.98     | 13.54     |
| 粗大ごみ      | t/年   | 551.91    | 584.52    | 633.39    | 623.32    | 660.72    |
| ビン        | t/年   | 0.41      | 0.00      | 0.28      | 0.00      | 0.00      |
| 有害ごみ（乾電池） | t/年   | 10.42     | 10.71     | 10.70     | 10.86     | 9.07      |
| 資源ごみ      | t/年   | 3,602     | 3,414     | 3,236     | 3,026     | 2,839     |
| 団体回収      | t/年   | 3         | 3         | 3         | 4         | 4         |
| 事業系ごみ     | t/年   | 3,976.27  | 4,129.40  | 4,196.07  | 3,924.55  | 4,181.71  |
| 収集ごみ（許可）  | t/年   | 2,858.23  | 2,875.29  | 2,893.61  | 2,815.22  | 2,840.05  |
| 燃えるごみ     | t/年   | 2,784.30  | 2,799.95  | 2,802.15  | 2,737.50  | 2,771.67  |
| 不燃物       | t/年   | 49.16     | 48.28     | 51.45     | 50.07     | 47.49     |
| 粗大ごみ      | t/年   | 23.84     | 25.52     | 38.37     | 27.53     | 19.54     |
| ビン        | t/年   | 0.93      | 1.54      | 1.64      | 0.12      | 1.35      |
| 直接搬入ごみ    | t/年   | 1,118.04  | 1,254.11  | 1,302.46  | 1,109.33  | 1,341.66  |
| 燃えるごみ     | t/年   | 636.31    | 683.78    | 725.92    | 631.24    | 790.42    |
| 不燃物       | t/年   | 3.15      | 19.25     | 3.61      | 2.17      | 6.89      |
| 粗大ごみ      | t/年   | 475.62    | 549.77    | 572.57    | 475.31    | 544.07    |
| ビン        | t/年   | 2.96      | 1.31      | 0.36      | 0.61      | 0.28      |
| 計         | t/年   | 13,552.65 | 13,622.72 | 13,645.71 | 13,209.44 | 13,395.72 |
| 不燃物       | t/年   | 493.21    | 503.21    | 498.97    | 484.67    | 477.25    |
| 粗大ごみ      | t/年   | 1,208.16  | 1,297.48  | 1,437.70  | 1,271.83  | 1,365.08  |
| ビン        | t/年   | 423.88    | 405.88    | 402.50    | 390.41    | 380.86    |
| 有害ごみ（乾電池） | t/年   | 10.42     | 10.71     | 10.70     | 10.86     | 9.07      |
| 資源ごみ      | t/年   | 3,602.00  | 3,414.00  | 3,236.00  | 3,026.00  | 2,839.00  |
| 団体回収      | t/年   | 3.00      | 3.00      | 3.00      | 4.00      | 4.00      |
| ごみ排出量合計   | t/年   | 19,293.32 | 19,257.00 | 19,234.58 | 18,397.21 | 18,470.98 |
|           | t/日   | 52.86     | 52.76     | 52.55     | 50.40     | 50.61     |
|           | g/人・日 | 889.44    | 890.34    | 888.46    | 850.59    | 852.40    |

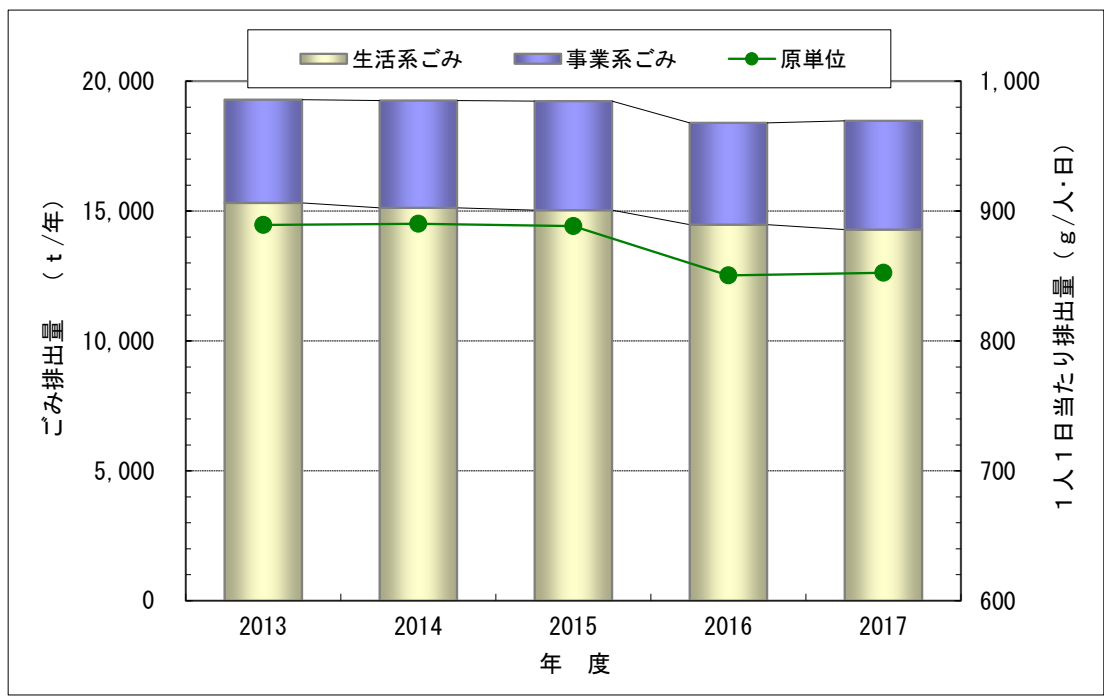


図 2.4.2 ごみ排出量と原単位の推移

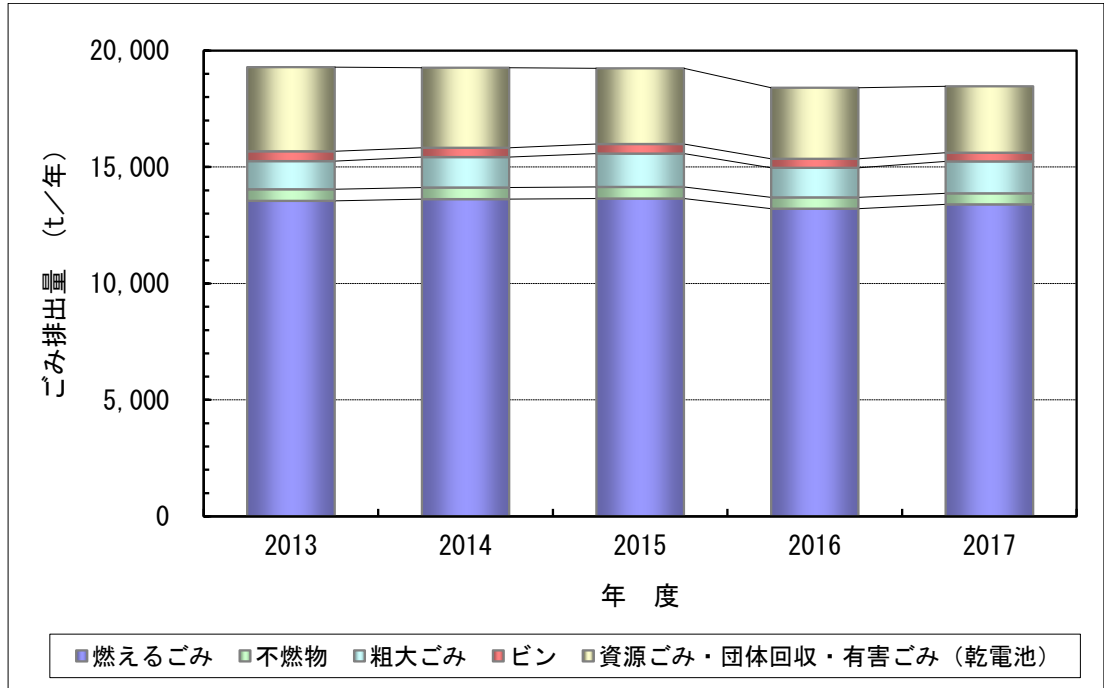


図 2.4.3 ごみ排出量の推移（種類別）



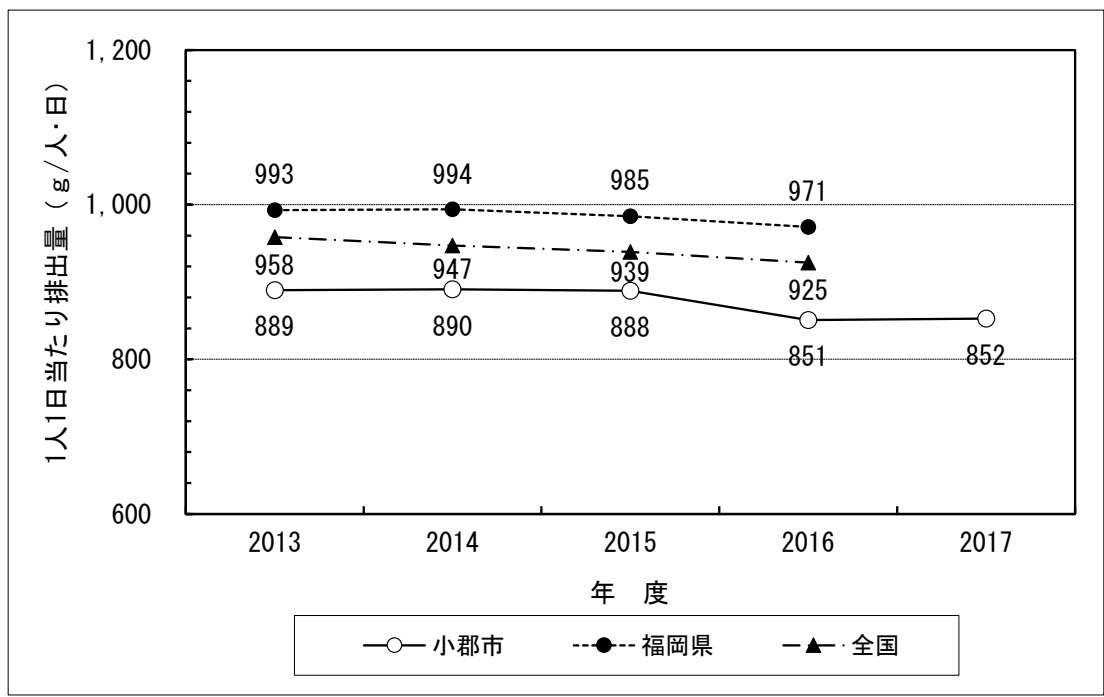


図 2.4.4 1人1日当たりごみ排出量の推移（全量）

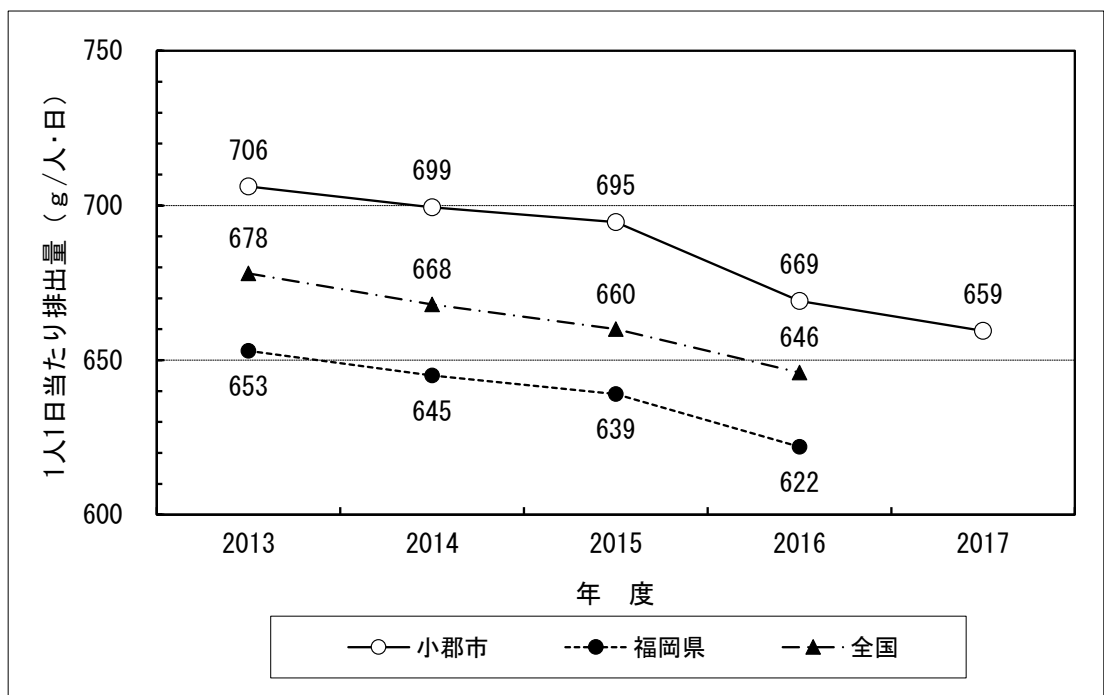


図 2.4.5 1人1日当たりごみ排出量の推移（生活系ごみ）

## 第5節 収集・運搬

### 1. 計画収集区域

本市のごみの計画収集区域は、市内全域としている。

### 2. 収集方法及び収集頻度

収集は、委託で行っている。収集方法及び収集頻度を表 2.5.1 に示す。

収集・運搬体制は、委託業者が1社、許可業者が2社となっている。

トレーを除く拠点回収は、各区衛生組合を中心に回収場所を設置しており、トレーについては、リサイクル協力店等に回収場所を設置している。

表 2.5.1 収集方法及び収集頻度

| 収集区分      |         | 収集方法   | 収集・運搬 | 収集頻度 |
|-----------|---------|--------|-------|------|
| 燃えるごみ     |         | 戸別収集方式 | 委託    | 2回/週 |
| 不燃物       |         |        |       |      |
| ビン        |         |        |       |      |
| 粗大ごみ      |         |        |       |      |
| 有害ごみ（乾電池） |         | 拠点回収方式 |       | 1回/月 |
| 資源<br>ごみ  | 新聞紙・チラシ | 戸別収集方式 | 委託    | 1回/月 |
|           | 雑紙      |        |       |      |
|           | 段ボール    |        |       |      |
|           | 古布      |        |       |      |
|           | ペットボトル  |        |       |      |
|           | アルミ缶    | 拠点回収方式 |       | 1回/月 |
|           | スチール缶   |        |       |      |
|           | 紙パック    |        |       |      |
|           | トレー     | 拠点回収方式 |       | 随時   |
|           | 剪定枝     | 拠点回収方式 |       | 7回/年 |

## 第6節 中間処理の現況

### 1. 中間処理の概要

本市の中間処理は、筑紫野・小郡・基山清掃施設組合の施設で行っている。組合の施設の概要は、以下のようになっている。

表 2.6.1 熱回収施設の概要

|        |                                                           |
|--------|-----------------------------------------------------------|
| 名 称    | クリーンヒル宝満（熱回収施設）                                           |
| 事業主体   | 筑紫野・小郡・基山清掃施設組合                                           |
| 所在地    | 福岡県筑紫野市大字原田 1389 番地                                       |
| 焼却能力   | 250 t / 日（125 t / 24 h × 2 炉）                             |
| 建設年月日  | 着工： 2006 年（平成 18 年）2 月 7 日<br>竣工： 2008 年（平成 20 年）3 月 14 日 |
| 設計施工   | JFE エンジニアリング株式会社                                          |
| 炉形式    | 高温ガス化直接熔融炉                                                |
| 受入供給設備 | ピット&クレーン                                                  |
| 残渣処分方法 | スラグ・メタル：資源化 飛灰：山元還元による資源化                                 |

表 2.6.2 リサイクルセンターの概要

|        |                                                            |
|--------|------------------------------------------------------------|
| 名 称    | クリーンヒル宝満（リサイクルセンター）                                        |
| 事業主体   | 筑紫野・小郡・基山清掃施設組合                                            |
| 所在地    | 福岡県筑紫野市大字原田 1389 番地                                        |
| 処理能力   | 44 t / 5 h                                                 |
| 建設年月日  | 着工： 2006 年（平成 18 年）2 月 25 日<br>竣工： 2008 年（平成 20 年）3 月 14 日 |
| 設計施工   | 極東開発工業株式会社                                                 |
| 形 式    | 破碎機、磁選機、アルミ選別機、破砕袋機、金属圧縮機<br>ペットボトル圧縮結束機                   |
| 残渣処分方法 | 可燃性残渣：熔融 不燃性残渣：資源化                                         |

## 2. 溶融処理実績

溶融処理は、組合処理であり、直近の5ヵ年の2013年度（平成25年度）から2017年度（平成29年度）までの溶融処理量は、2013年度（平成25年度）の15,065 t/年から2015年度（平成27年度）には増加したが、その後はやや減少し、2017年度（平成29年度）では15,074 t/年と、2013年度（平成25年度）と同程度になっている。

内訳をみると、収集燃えるごみが83%程度で、溶融対象量のほとんどを占めている。

表 2.6.3 溶融処理実績

（単位：t/年）

| 項目        | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 収集燃えるごみ   | 12,766 | 12,776 | 12,736 | 12,406 | 12,408 |
| 直接搬入燃えるごみ | 787    | 847    | 910    | 803    | 988    |
| 処理残渣      | 1,513  | 1,611  | 1,722  | 1,605  | 1,678  |
| 合計        | 15,065 | 15,234 | 15,368 | 14,814 | 15,074 |

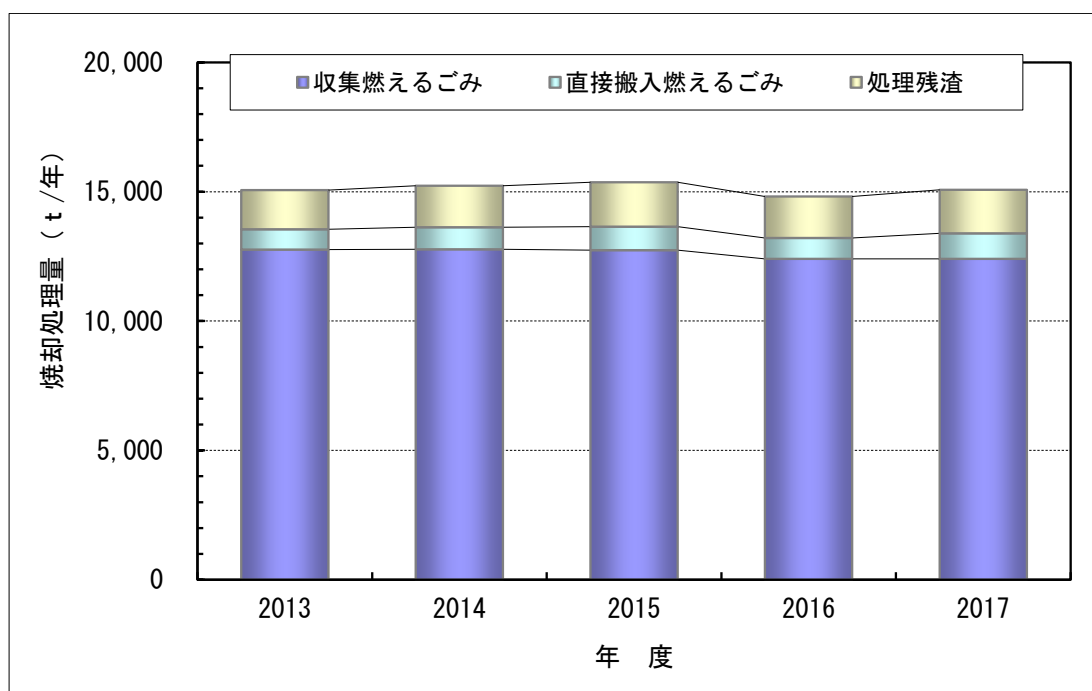


図 2.6.1 溶融処理実績

### 3. 破碎・選別処理実績

本市の破碎・選別処理の実績を、表 2.6.4、図 2.6.2 に示す。

2013 年度（平成 25 年度）から 2017 年度（平成 29 年度）までの破碎・選別処理実績は、横這い傾向を示しており、2017 年度（平成 29 年度）では 2,232 t/年となっている。種類別搬入量の割合についても、大きな変化はみられない

表 2.6.4 破碎・選別処理実績

（単位：t/年）

| 項 目 |           | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|-----|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 搬入  | 不燃物       | 493    | 503    | 499    | 485    | 477    |
|     | 粗大ごみ      | 1,208  | 1,297  | 1,438  | 1,272  | 1,365  |
|     | ビン        | 424    | 406    | 403    | 390    | 381    |
|     | 有害ごみ（乾電池） | 10     | 11     | 11     | 11     | 9      |
| 合 計 |           | 2,136  | 2,217  | 2,350  | 2,158  | 2,232  |
| 処理後 | 資源化物      | 623    | 606    | 628    | 553    | 554    |
|     | 処理残渣      | 1,513  | 1,611  | 1,722  | 1,605  | 1,678  |

※端数処理の関係で「合計」と各項目で表示する数値の和が一致しない場合がある。

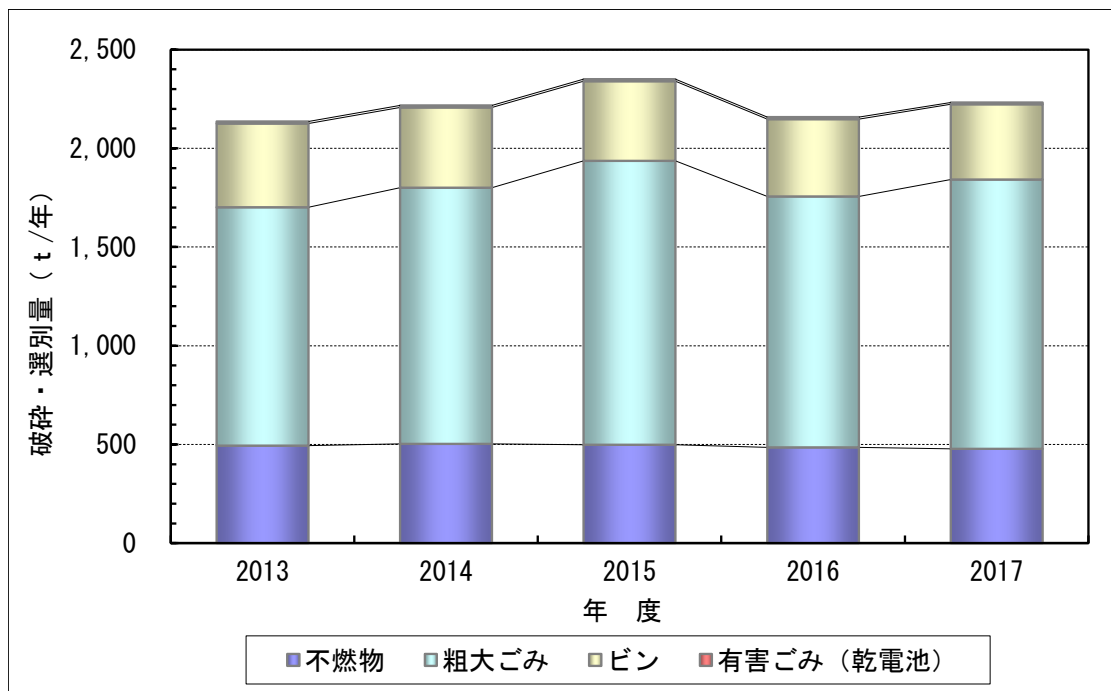


図 2.6.2 破碎・選別処理実績

## 第7節 最終処分の現況

クリーンヒル宝満（熱回収施設）から排出される溶融スラグ、溶融メタル及び溶融飛灰については、すべてリサイクルされて業者に引き取られているため、埋立処分は0である。

## 第8節 資源化の現況

### 1. 資源化の推移

本市の資源化の実績を表2.8.1、図2.8.1及び図2.8.2に示す。

資源化の内容としては、分別収集している資源物（新聞紙、雑紙、ダンボール、古布、ペットボトル、アルミ缶、スチール缶、紙パック、トレー及び剪定枝の10項目）、団体回収、リサイクルセンターからの資源化物及び溶融施設からの資源化物となっている。なお、直接資源化分（分別収集における資源物＋団体回収）の実績は、表2.8.2、図2.8.3に示すとおりである。

リサイクル率は、福岡県及び全国の平均値と比べても、30%程度と高い水準となっているが、分別収集における資源物の量が減少しているため、リサイクル率も減少傾向となっており、2017年度（平成29年度）では29.0%となっている。

表2.8.1 資源化量の内訳と推移

（単位：t/年）

| 種 別    |               | 2013年度       | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |        |
|--------|---------------|--------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 発生量    | 家庭系           | 可燃物          | 10,132 | 10,139 | 10,118 | 9,841  | 9,834  |
|        |               | 不燃物・粗大ごみ     | 1,580  | 1,572  | 1,682  | 1,602  | 1,613  |
|        |               | 計            | 11,712 | 11,711 | 11,800 | 11,443 | 11,446 |
|        | 事業系           | 可燃物          | 3,421  | 3,484  | 3,528  | 3,369  | 3,562  |
|        |               | 不燃物・粗大ごみ     | 556    | 646    | 668    | 556    | 620    |
|        |               | 計            | 3,976  | 4,129  | 4,196  | 3,925  | 4,182  |
|        | 計             | 可燃物          | 13,553 | 13,623 | 13,646 | 13,209 | 13,396 |
|        |               | 不燃物・粗大ごみ     | 2,136  | 2,217  | 2,350  | 2,158  | 2,232  |
|        |               | 計            | 15,688 | 15,840 | 15,996 | 15,367 | 15,628 |
|        | 資源物           | 直接資源化分       | 3,602  | 3,414  | 3,236  | 3,026  | 2,839  |
|        |               | 団体回収分        | 3      | 3      | 3      | 4      | 4      |
|        | 合 計           |              | 19,293 | 19,257 | 19,235 | 18,397 | 18,471 |
| リサイクル量 | リサイクル量        | 直接資源化分       | 3,602  | 3,414  | 3,236  | 3,026  | 2,839  |
|        |               | 団体回収分        | 3      | 3      | 3      | 4      | 4      |
|        |               | クリーンヒル宝満資源化量 | 2,605  | 2,616  | 2,793  | 2,644  | 2,505  |
|        |               | 溶融施設資源化量     | 1,982  | 2,010  | 2,165  | 2,091  | 1,951  |
|        |               | リサイクル施設資源化量  | 623    | 606    | 628    | 553    | 554    |
|        | 合計            | 6,210        | 6,033  | 6,032  | 5,674  | 5,348  |        |
|        | リサイクル率<br>（%） | 全体           | 32.2   | 31.3   | 31.4   | 30.8   | 29.0   |
|        | 溶融施設資源化量を除く   | 21.9         | 20.9   | 20.1   | 19.5   | 18.4   |        |

※端数処理の関係で「計」、「合計」と各項目で表示する数値の和が一致しない場合がある。

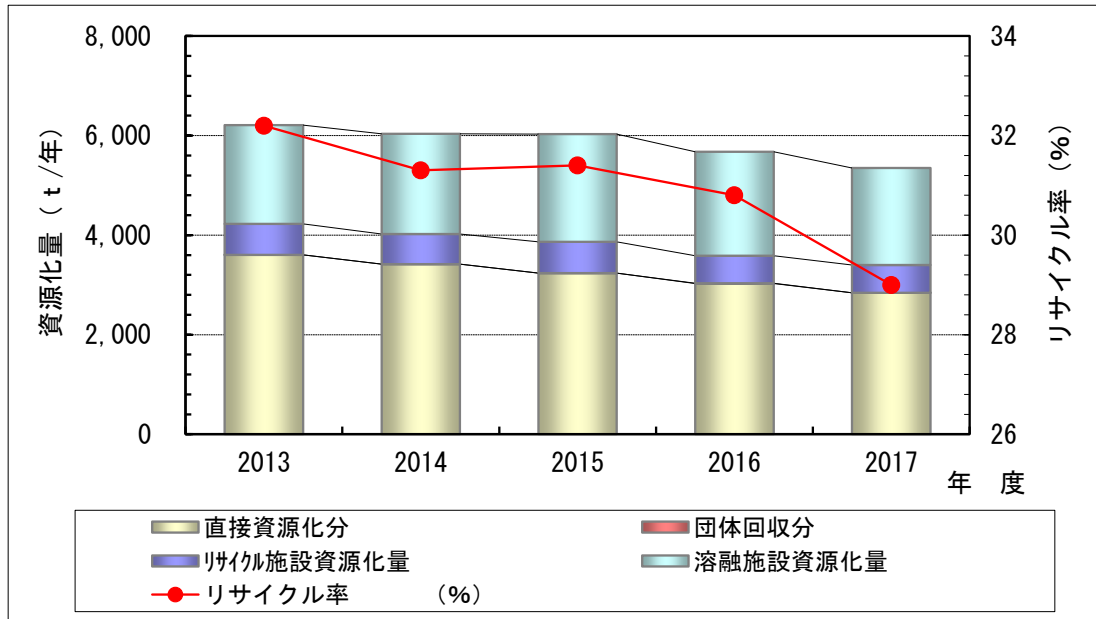


図 2.8.1 資源化量の内訳と推移

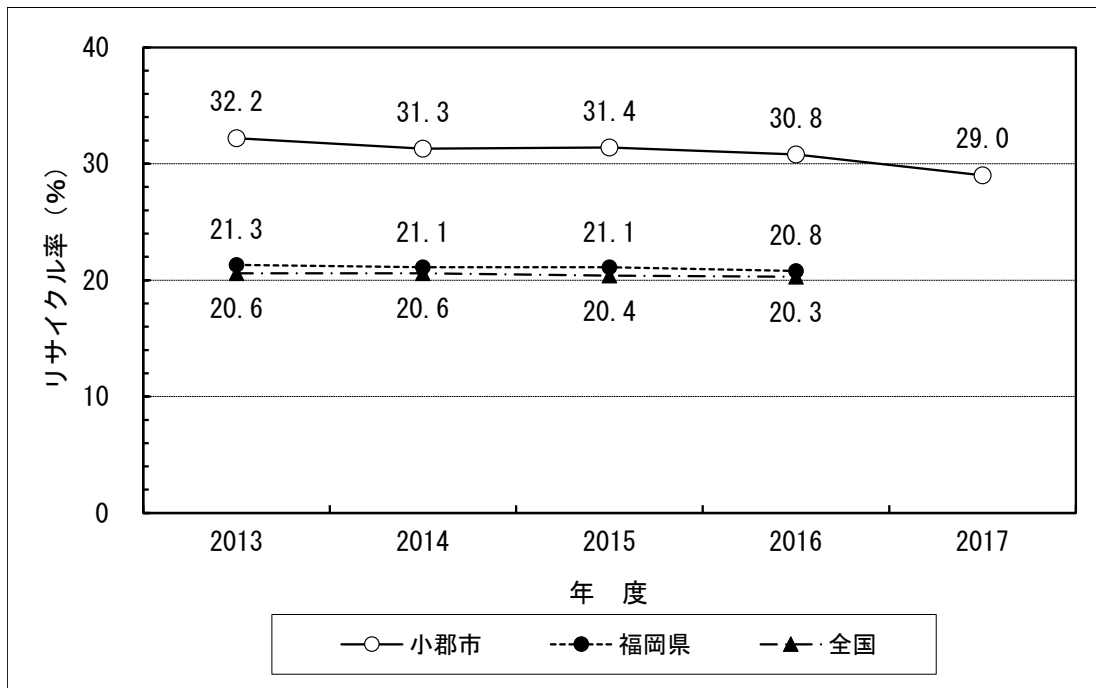


図 2.8.2 リサイクル率の推移

表 2.8.2 直接資源化分の内訳と推移

(単位：t/年)

| 項目     | 2013年度 | 2014年度 | 2015年度 | 2016年度 | 2017年度 |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| アルミ    | 74     | 73     | 76     | 77     | 69     |
| スチール   | 49     | 43     | 35     | 33     | 28     |
| 新聞紙    | 1,589  | 1,484  | 1,355  | 1,238  | 1,133  |
| 雑紙     | 960    | 887    | 850    | 806    | 751    |
| 段ボール   | 343    | 331    | 323    | 320    | 322    |
| 古布     | 258    | 247    | 253    | 233    | 234    |
| 食品トレー  | 3      | 3      | 3      | 2      | 2      |
| 紙パック   | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      |
| ペットボトル | 74     | 90     | 72     | 73     | 73     |
| 剪定枝等   | 249    | 252    | 264    | 243    | 224    |
| 合計     | 3,606  | 3,417  | 3,238  | 3,032  | 2,843  |

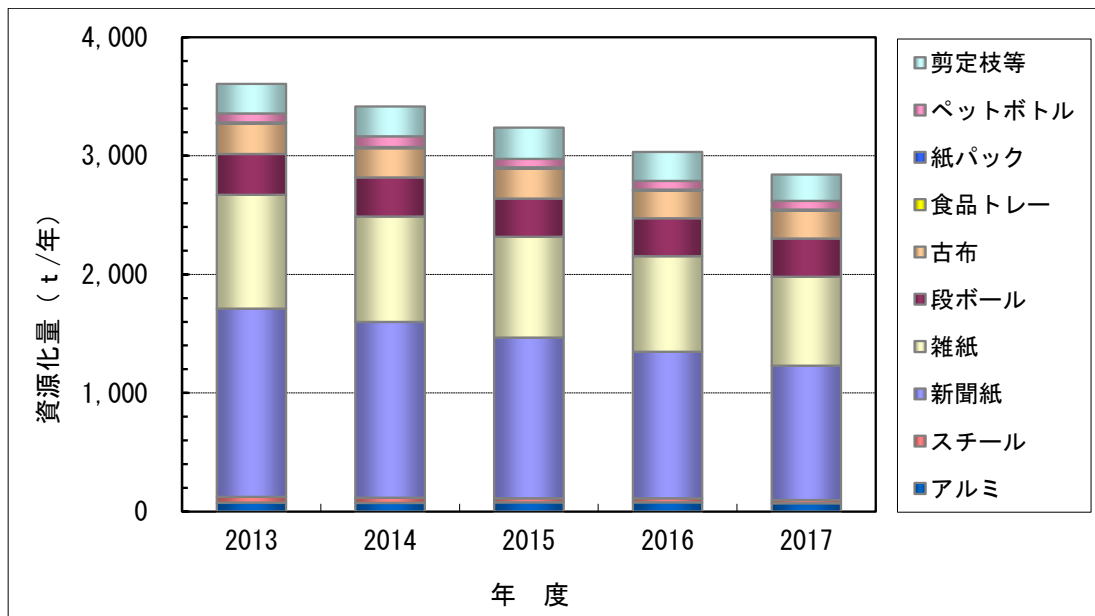


図 2.8.3 直接資源化分の内訳と推移



## 2. 衛連による分別促進事業

本市では、衛連の協力のもと、1996年（平成6年）から大原校区をモデル校区とし、アルミ缶・スチール缶の拠点回収を実施した。1998年（平成8年）からは全校区に衛連の校区推進委員会を組織し、全市的にアルミ缶・スチール缶の拠点回収を開始した。その後、古紙等の分別回収を順次実施した。

## 3. 生ごみ処理機補助事業

本市では、発生源（家庭）でのごみ減量化（排出抑制）を目的として、家庭で使用する生ごみ処理機及び堆肥化容器の購入に対し、補助金を助成している。

助成の内容は、表2.8.3に示すとおりである。

表2.8.3 家庭用生ごみ処理機購入の助成制度

| 補助対象       | 補助額                | 補助基数    |
|------------|--------------------|---------|
| 電気式生ごみ処理機等 | 購入金額の1/2・上限24,000円 | 1世帯1機まで |
| コンポスト容器    | 購入金額の1/2・上限2,000円  | 1世帯2個まで |
| EMボカシ容器    | 購入金額の1/2・上限1,000円  | 1世帯2個まで |

## 4. 資源ごみ売上還元金交付事業

本市では、分別等を実施した各区衛生組合に対して、資源ごみを市が回収及び売却したことで得た売上金を、売上還元金（以下「還元金」という。）として交付することとし、2015年（平成27年）4月1日から施行している。

還元金の内容は、表2.8.4に示すとおりである。

表2.8.4 資源ごみ売上還元金交付の内容

| 対象品目   | 還元金の対象となる額 | 還元金の計算方法及び算定方法                                                               |
|--------|------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 新聞紙    | 売上金総額の5割   | 各組合に一定額を配分（以下「均等割」という。）し、残額を市内各区の世帯数で除した額に当該組合の世帯数を乗じて得た額とする。なお、均等割の額は別に定める。 |
| 雑紙     |            |                                                                              |
| 段ボール   |            |                                                                              |
| 紙パック   |            |                                                                              |
| 古布     |            |                                                                              |
| ペットボトル |            |                                                                              |
| スチール缶  | 売上金と同等の額   | 各組合で回収された量に売上単価を乗じて得た額とする。                                                   |
| アルミ缶   |            |                                                                              |

## 5. リサイクル協力団体奨励金交付事業

本市では、資源ごみ及びリサイクル可能な品目（以下「リサイクル品」という。）の回収並びに資源ごみの適正処理に関する啓発等に協力した団体に対して、奨励金を交付することにより、ごみの減量化と資源の再利用を積極的に推進することを目的に、「小郡市リサイクル協力団体奨励金交付事業」を2015年（平成27年）4月1日から施行している。

リサイクル品の対象品目は、「ペットボトルキャップ」、「プリンターインクカートリッジ」及び「その他市長が認めたもの」となっており、1団体に対して年10万円を交付することとしている。

## 第9節 ごみ処理事業費

本市の2013年度（平成25年度）から2017年度（平成29年度）のごみ処理事業費実績を表2.9.1、図2.9.1に示す。

ごみ処理事業費は増加傾向にあり、2016年度（平成28年度）には7億円を超えており、2017年度（平成29年度）には、t当たり処理費が40,000円/t程度、1人当たり処理費が12,000円/人以上となっている。

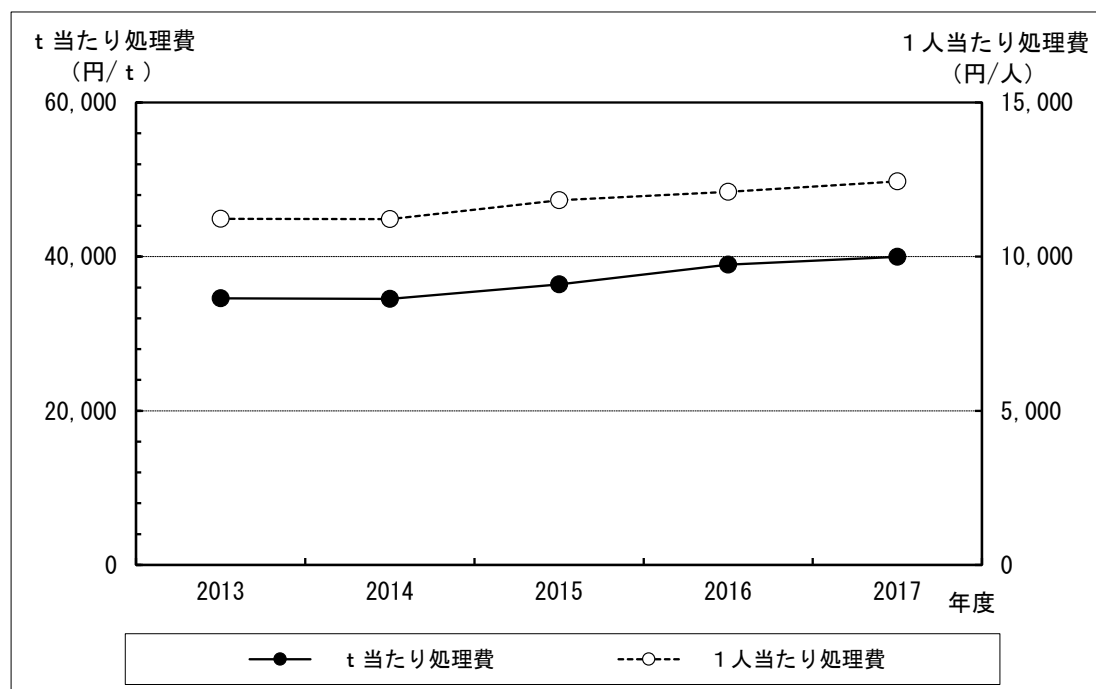


図 2.9.1 ごみ処理事業費の推移

表 2.9.1 ごみ処理事業費の実績

(単位：千円)

|                | 2013年度  | 2014年度  | 2015年度  | 2016年度  | 2017年度  |
|----------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 財源内訳           | 667,060 | 664,476 | 699,745 | 716,933 | 727,892 |
| 特定財源           | 182,875 | 179,907 | 178,557 | 173,655 | 183,631 |
| 国庫支出金          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 都道府県支出金        | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 地方債            | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 使用料及び手数料       | 149,550 | 143,577 | 146,401 | 146,098 | 150,886 |
| その他            | 33,325  | 36,330  | 32,156  | 27,557  | 32,745  |
| 一般財源           | 484,185 | 484,569 | 521,188 | 543,278 | 544,261 |
| 支出内訳           | 667,060 | 664,476 | 699,745 | 716,933 | 738,439 |
| 建設改良費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 工事費            | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 収集運搬施設         | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 中間処理施設         | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 最終処分場          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| その他            | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 調査費            | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 組合分担金          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 処理及び維持管理費      | 618,161 | 611,264 | 638,169 | 659,930 | 678,667 |
| 人件費            | 6,433   | 6,758   | 4,603   | 5,371   | 10,547  |
| 処理費            | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 収集運搬費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 中間処理費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 最終処分費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 車両等購入費         | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| 委託費            | 324,629 | 349,140 | 348,823 | 348,895 | 387,553 |
| 収集運搬費          | 323,527 | 347,732 | 347,711 | 347,785 | 386,066 |
| 中間処理費          | 960     | 960     | 960     | 960     | 960     |
| 最終処分費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| その他            | 142     | 448     | 152     | 150     | 527     |
| 組合分担金          | 287,099 | 255,366 | 284,743 | 305,664 | 280,567 |
| 調査研究費          | 0       | 0       | 0       | 0       | 0       |
| その他            | 48,899  | 53,212  | 61,576  | 57,003  | 59,772  |
| ごみ処理量 (t)      | 19,293  | 19,257  | 19,235  | 18,397  | 18,471  |
| t 当たり処理費 (円/t) | 34,575  | 34,506  | 36,380  | 38,970  | 39,978  |
| 人口 (人)         | 59,429  | 59,257  | 59,151  | 59,257  | 59,368  |
| 1人当たり処理費 (円/人) | 11,224  | 11,213  | 11,830  | 12,099  | 12,438  |

## 第10節 市民の意向

平成30年度に市民1,000人を対象に実施した「小郡市のごみ処理・リサイクルに関する市民アンケート」による市民の意向を以下に示す。

### 1. 小郡市の指定ごみ袋の満足度

#### ① 燃えるごみ指定袋

不満を感じている人（52.6%）が満足している人（46.8%）を少し上回っている。不満を感じている人の理由は、「破れやすい」、「値段が高い」、「小さい」が多い。

#### ② 不燃物専用袋

満足している人（71.7%）が不満を感じている人（25.2%）を大きく上回っている。不満を感じている人の理由は、「別のサイズがほしい」、「小さい」、「値段が高い」が多い。

#### ③ ビン専用袋

満足している人（76.5%）が不満を感じている人（21.2%）を大きく上回っている。不満を感じている人の理由は、「結びにくい・持ちにくい」、「別のサイズがほしい」、「値段が高い」が多い。

### 2. 小郡市のリサイクル推進対策の認知度

「おりひめティッシュ、たなばたロール」の認知度は約9割と高く、約7割が「利用したことがある」と回答している。

「生ごみ処理機」と「リサイクルステーション」の認知度も約6割であるが、「利用したことがある」との回答は、「リサイクルステーション」で約1/4、「生ごみ処理機」では2割未満である。

「ごみ減量リサイクルアドバイザー」は約7割が知らないと回答しているが、約1/4が「今後は利用してみたい」と回答している。

### 3. 家庭でのごみ減量・リサイクルの取り組みの実施状況

#### ① 現在の実施状況と今後の予定

「分別排出する」は96.9%が取り組めており、「残さず食べるようにしている」、「食べ忘れないようにしている」が8割以上、「長く使えるものを選んで買う」、「残った食材はできる限り使い切る」、「地域の集団回収に出している」、「過剰包装は断る」、「レジ袋や紙袋はもらわない」も7割以上が取り組んでいる。

「使い捨て商品を使わない」、「再生品を優先して買う」、「リサイクルショップを利用する」、「生ごみを堆肥化している」は2割から3割程度の取り組みにとどまっており、今後は取り組みたいとの回答は、「使い捨て商品を使わない」、「再生品を優先して買う」は4割から5割程度あるが、「リサイクルショップを利用する」、「生ごみを堆肥化している」は2割から3割程度である。

## ② 品目別のリサイクル実施状況

分別収集している品目は、ほとんどの品目で「取り組んでいる」回答が8割以上となっているが、「剪定枝」、「食品トレイ（白色・有色のポリスチレン製）」、「紙パック」は「取り組んでいる」との回答がやや低くなっている。取り組んでいない理由は、「収集日まで保管しておく場所がない」、「洗うなどの手間がかかる」が多く、次いで「近くに出す場所がない」、「出す場所が分からない」の理由が多くなっている。

## ③ プリント類、はがき・封筒等の紙のリサイクル

「知っており、リサイクルしている」との回答は約6割、「知らなかったのも、今後はリサイクルしたい」は約2割であり、合わせると今後は8割程度の実施が期待できる。

## ④ 「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に伴う携帯電話の回収ボックスの設置について

「知っている」が約2割、「知らなかった」が約8割となっている。

## ⑤ 新たに小郡市で回収してほしい資源物

「ペットボトルキャップ」、「廃油」、「プラスチック類」などが挙げられている。

## 4. 不用品回収について

無料回収所、トラックによる回収などの不用品回収を5割程度が「利用したことがある」と回答しているが、不用品回収をしている業者のほとんどが無許可であることを6割以上が「知らなかった」と回答している。

## 5. ごみ処理やリサイクルに関する広報媒体の満足度

### ① 小郡市ホームページの「リサイクル・ごみ」のページについて

「見たことはない」人が6割以上で、「見たことがある」は3割以上である。見たことがある人の中では、満足している人が不満を感じている人を大きく上回っている。不満を感じている人の理由は、「分かりにくい」などである。

### ② 小郡市の「ごみ収集カレンダー」について

ほぼ全員が「見たことがある」と回答しており、その9割が満足している。不満を感じている人の理由は、「分別方法が分かりにくい」、「デザインが悪い」、「字が小さい」などである。

### ③ ごみ分別等のスマートフォンアプリケーションを作成している自治体について

約8割が「知らなかった」と回答しているが、「利用したい」と回答しているのは約2割である。

## 6. クリーンヒル宝満の満足度

直接搬入したことがある人は半数を超えており、その約4割が満足している。不満を感じている人の理由は、「料金が高い」、「遠い・時間がかかる」、「営業時間の改善」が多い。

## 7. 自由記入欄

ごみ袋や回収に関する意見が多い。

- ・ごみ袋：価格が高い／丈夫な材質にしてほしい／サイズを見直してほしい
- ・回収場所：集積場所が近くにない／リサイクルステーションを増やしてほしい
- ・回収品目：品目の追加（プラスチック類など）
- ・回収方法：雨の日の紙類の出し方／高齢者への配慮（大きい物、重い物など）
- ・回収日・回収時間：収集時間がずれないようにしてほしい／夜間収集にしてほしい

## 第3章 ごみ処理の課題

前述までのごみ処理の現況を踏まえ、計画目標年次である 2023 年度までの間に解決すべき課題は、次のとおりである。

### 1. 排出抑制

#### ① 排出抑制活動の推進

現在の分別収集体制が始まって 20 年以上が経過する。本市のごみ排出量は、その中で全体では減少傾向となっており、資源ごみを除く生活系ごみの 1 人 1 日当たりの排出量は福岡県平均値より小さくなっている。一方で、生活系ごみ全量では福岡県平均値より大きくなっている。資源物の回収量は減少傾向にあるが、今後一層のごみの排出抑制が必要である。また、事業系ごみについてはほぼ横ばい傾向を示しており、減量化のための具体的な対策が必要である。

#### ② 市民

ごみを出す前の行動として、前回の計画時に比べ、「地域の集団回収に出している」、「レジ袋や紙袋はもらわない」等ごみを出さない工夫は徐々に増えてはいるが、生ごみの堆肥化等は進んでいないのが現状である。さらに、再生品の利用、リサイクルマーケット等の利用、使い捨て商品を使わないなど、リサイクル活動への自主的取り組みが望まれる。

#### ③ 事業者

事業者が排出するごみの減量化及び適正排出の推進が求められる。

#### ④ 行政

ごみの排出抑制のための広報・啓発活動の強化とともに、ごみ排出量の把握と的確な管理が必要である。

### 2. 分別促進

#### ① 分別の徹底による廃棄物の発生コントロール

ごみの排出量は若干減少傾向であるが、資源ごみを含めたさらなる排出抑制、分別の徹底を指導していくことが必要である。特に、各区衛生組合と協力し、拠点回収を行っている資源ごみが、不燃物として排出されているものもあるため、継続的な周知が必要である。

#### ② 市民への啓発活動の強化

広報や回覧板等によるごみの適正処理、リサイクルに関する PR を掲載するとともに、ホームページ等を利用したリサイクル情報の提供やごみ減量リサイクルアドバイザーの講演会の実施、さらに、衛連と連携した分別方法の周知・啓発などにより、さ



らなる市民の排出抑制やリサイクル意識の高揚を図って行く必要がある。また、ホームページやごみ減量リサイクルアドバイザー等については、認知度が低いため、認知度を高めるための取り組みが必要である。

### ③ 容器包装廃棄物について

「容器包装リサイクル法」に基づいて、ビン、缶、ペットボトル、紙パック、トレ一等の取り組みを行っているが、いずれの品目も資源化量が減少している状況であり、分別を徹底させる取り組みが必要である。

### ④ その他資源ごみ回収の推進

本市では、剪定枝や公用雑草等も資源ごみとして回収し、資源化を進めているが、2008年度（平成20年度）以降続いていたリサイクル率の減少が、2013年度（平成25年度）以降も続いており、分別の徹底や回収率を向上させるための取り組みが必要である。また、市民のニーズを踏まえた回収品目、回収場所の検討も必要である。

## 3. 収集・運搬

### ① 収集体制

本市は、全域を収集区域としており、収集体制は基本的にこれまで通りとして全域収集を継続していく。

### ② 収集・運搬のマナーアップ

収集・運搬員の育成・指導を強化し、収集時間の徹底、運搬時のごみの落下防止、交通法規の遵守などの徹底を図っていく。

## 4. 処理・処分

### ① 燃えるごみ処理

燃えるごみの処理は、筑紫野・小郡・基山清掃施設組合で行っている。本組合では、平成20年度からクリーンヒル宝満の熱回収施設が稼働開始し、溶融スラグ、溶融メタルや溶融飛灰の資源化が図られており、今後も継続していく。

### ② 不燃物・粗大ごみ処理

不燃物は、クリーンヒル宝満のリサイクルセンターで破碎・選別処理を行い、有価物と破碎残渣に選別し、有価物は再資源化、破碎残渣は溶融処理を行っており、今後も継続していく。また、2013年度（平成25年度）からクリーンヒル宝満において不燃物中の使用済み小型電子機器等のピックアップ回収を開始、2017年（平成29年）11月から、「都市鉱山からつくる！みんなのメダルプロジェクト」に伴い携帯電話回収ボックスを設置しており、今後も継続していく。

### ③ 資源ごみ

本市が資源ごみとして収集しているのは、アルミ缶、スチール缶、新聞紙・チラシ、雑紙、段ボール、古布、トレー、紙パック、ペットボトル、剪定枝等があり、組合処理としてクリーンヒル宝満への搬入は、ビンとなっている。

今後も、これらの処理を継続していくとともに、適正処理が行えるよう適正排出、収集・運搬の指導を行っていく必要がある。

### ④ 最終処分

クリーンヒル宝満では、不燃・粗大ごみの資源化後の残渣は熔融処理をしているため、熔融処理後に排出される熔融スラグや飛灰等は再資源化され、埋立処分は基本的にはない。しかし、熔融スラグは組合構成市町の公共事業等の資材としての利用拡大が求められる。

# 第4章 計画収集人口及びごみ排出量の将来予測

## 第1節 ごみ処理量将来予測の方法

ごみ処理量の将来予測は、図4.1.1に示すように「ごみ処理基本計画策定指針」(2016年(平成28年)9月)に基づいたフローで行うものとする。

なお、予測は、2018年度(平成30年度)から2033年度までの15年間を行うものとする。

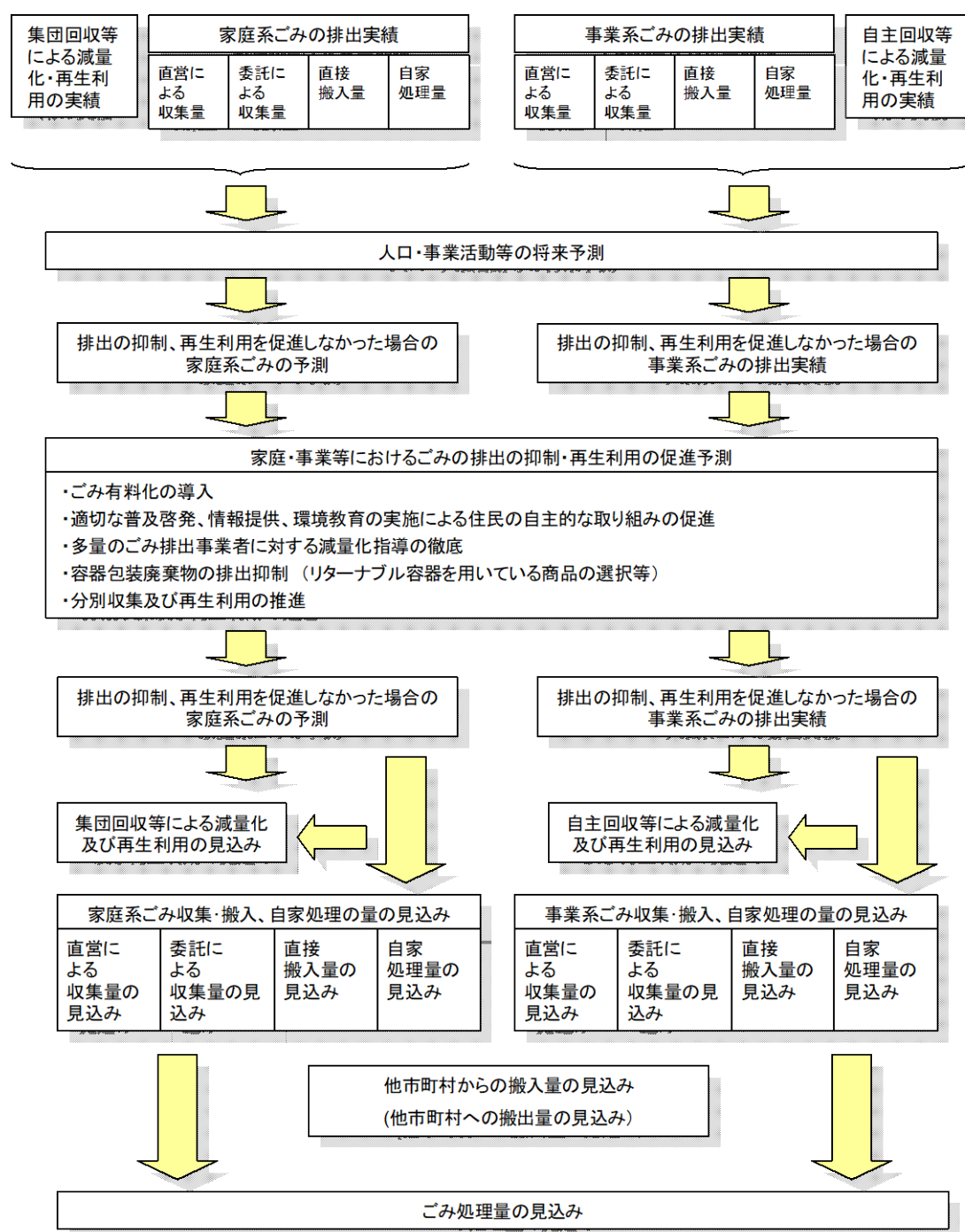


図 4.1.1 ごみ処理量の将来予測のフローシート

## 第2節 計画収集人口の将来予測

本市では自家処理人口は0人であるため、計画収集人口は行政区域内人口と同じとなる。そのため、以下では行政区域内人口を予測するものとする。

### 1. 予測方法

人口の将来予測に当たっては、トレンド法により行うことを基本とするが、人口問題研究所における推計値等を参考とし、第5次総合振興計画等の上位計画の目標値等を考慮し、最も適切と思われるものを採用することとする。

トレンド法及び人口問題研究所における推計方法は、以下に示すとおりである。

#### ①トレンド法による推計方法

過去の人口の実績値を基に、時系列的に直線・曲線をあてはめる手法である。ここでは、過去10年間（2008年（平成20年）～2017年（平成29年））の実績値（住民基本台帳による各年度末現在、外国人を含む）を基に、推計を行うものとする。

将来予測に用いる傾向線の種類は、以下の5種類とし、採用に当たっては、近年の実績の推移及び将来におけるトレンドの動きが論理的矛盾をきたさないことを考慮して、最も適切と判断される傾向線を選択するものとする。

#### <予測に用いる傾向線>

- ① 一次直線 :  $Y = a + b \cdot t$
- ② 一次指数曲線 :  $Y = a \cdot b^t$
- ③ 二次曲線 :  $Y = a + b \cdot t + c \cdot t^2$
- ④ べき曲線 :  $Y = Y_0 + a \cdot t^b$
- ⑤ ロジスティック曲線 :  $Y = K / (1 + e^{b-a \cdot t})$

ここに、

Y : 理論値（ここでは、行政区域内人口予測値）

a、b、c : 実績値より定める定数

t : 時間係数

（年度の変化を示す。平成元年度を  $t = 1$  と設定）

K : 上限値

## ② 人口問題研究所による推計方法

国立社会保障・人口問題研究所（以下、「人口問題研究所」とする）では、2010年（平成22年）及び2015年（平成27年）の国勢調査を基にコーホート要因法により、それぞれ2040年及び2045年までの人口推計を行っているため、今後15年間（2019年度～2033年度）の推計値を用いることとする。

人口問題研究所による推計では、2010年（平成22年）及び2015年（平成27年）の国勢調査を基に人口推計を行っているため、今回使用する外国人を含む住民基本台帳による人口とは一致したものになっていない。

そのため、本推計では、それぞれ2011年（平成23年）及び2016年（平成28年）以降の人口問題研究所による推計人口を、以下のように補正するものとする。

$$\text{補正後の推計人口} = \text{人口問題研究所による推計人口} \times \left( \frac{\text{2010（2015）年の住民基本台帳による人口}}{\text{2010（2015）年の国勢調査における人口}} \right)$$

なお、人口問題研究所における推計は、5年毎の推計であるため、各年の推計人口は5次曲線式で近似した値を用いることとする。

表 4.2.1 行政区域内人口の推移

| 年度     | 小都市人口（人） |        |         |
|--------|----------|--------|---------|
|        | 合計       | 住民基本台帳 | 外国人登録者数 |
| 2008年度 | 59,226   | 58,967 | 259     |
| 2009年度 | 59,250   | 59,029 | 221     |
| 2010年度 | 59,336   | 59,132 | 204     |
| 2011年度 | 59,452   | 59,227 | 225     |
| 2012年度 | 59,303   | 58,984 | 319     |
| 2013年度 | 59,429   | 59,050 | 379     |
| 2014年度 | 59,257   | 58,806 | 451     |
| 2015年度 | 59,151   | 58,711 | 440     |
| 2016年度 | 59,257   | 58,631 | 626     |
| 2017年度 | 59,368   | 58,551 | 817     |

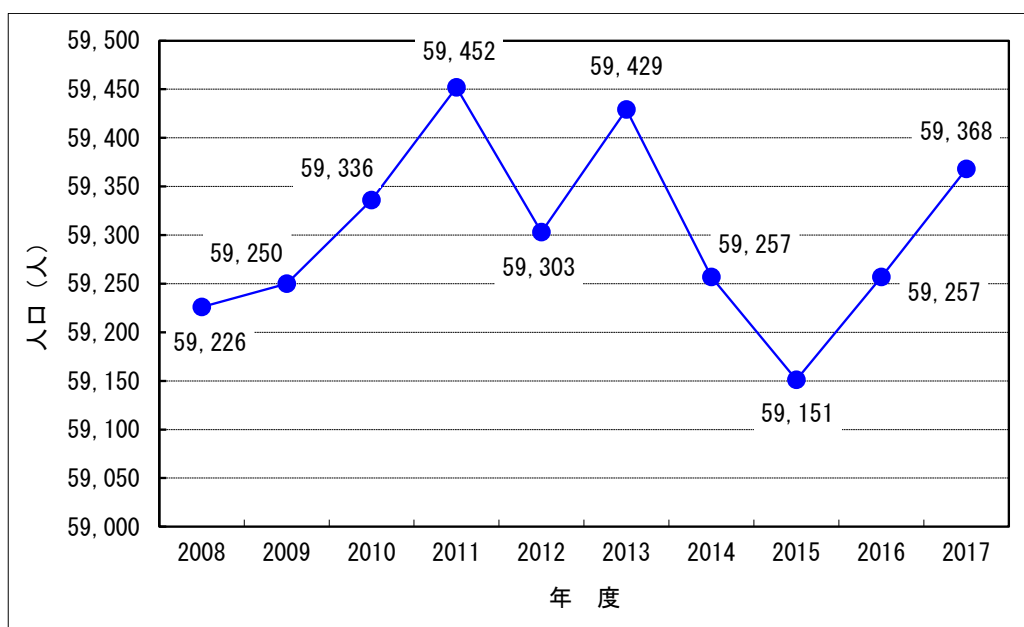


図 4.2.1 行政区域内人口の推移

## 2. 予測結果

各推計方法における将来人口の推計結果は、以下に示すとおりである。

### ① トレンド法による推計結果

トレンド法による将来人口の推計結果は、表 4.2.2 に示すとおりである。

2011 年度（平成 23 年度）まではやや増加しているが、2011 年度（平成 23 年度）以降は増減を繰り返しているため、将来人口は横這い傾向を示している。

推計式の採用については、極端な減少傾向を示す「二次曲線」を除く推計式の中で、最も相関係数が高い推計式を採用することとする。

・採用式：一次直線

### ② 人口問題研究所による推計結果

人口問題研究所による将来人口の推計結果は、以下に示すとおりである。

2010 年（平成 22 年）実績による推計では、2015 年（平成 27 年）までは増加し、それ以降は減少傾向を示している。一方、2015 年（平成 27 年）実績による予測では、2015 年（平成 27 年）以降は減少傾向を示すこととなり、2010 年（平成 22 年）実績による推計結果に比べ、減少の割合も大きくなっている。

| 年      | 推計人口（人）  |          |
|--------|----------|----------|
|        | 2010 年実績 | 2015 年実績 |
| 2010 年 | 58,499   | —        |
| 2015 年 | 58,719   | 58,499   |
| 2020 年 | 58,178   | 57,214   |
| 2025 年 | 57,155   | 56,030   |
| 2030 年 | 55,820   | 54,700   |
| 2035 年 | 54,270   | 53,306   |
| 2040 年 | 52,538   | 51,769   |
| 2045 年 | —        | 50,056   |

なお、外国人を含む住民基本台帳の人口による補正值は、それぞれ表 4.2.3 及び表 4.2.4 に示すとおりである。

表 4.2.2 行政区域内人口の将来予測結果（トレンド法）

(人)

| 年 度  | 実績値    | 予 測 値  |        |        |        |           |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|
|      |        | 一次直線   | 一次指数曲線 | 二次曲線   | べき曲線   | ロジスティック曲線 |
| 2008 | 59,226 |        |        |        |        |           |
| 2009 | 59,250 |        |        |        |        |           |
| 2010 | 59,336 |        |        |        |        |           |
| 2011 | 59,452 |        |        |        |        |           |
| 2012 | 59,303 |        |        |        |        |           |
| 2013 | 59,429 |        |        |        |        |           |
| 2014 | 59,257 |        |        |        |        |           |
| 2015 | 59,151 |        |        |        |        |           |
| 2016 | 59,257 |        |        |        |        |           |
| 2017 | 59,368 |        |        |        |        |           |
| 2018 |        | 59,301 | 59,301 | 59,221 | 59,304 | 59,294    |
| 2019 |        | 59,301 | 59,300 | 59,177 | 59,304 | 59,293    |
| 2020 |        | 59,300 | 59,300 | 59,125 | 59,304 | 59,293    |
| 2021 |        | 59,300 | 59,300 | 59,066 | 59,304 | 59,292    |
| 2022 |        | 59,300 | 59,299 | 59,000 | 59,304 | 59,292    |
| 2023 |        | 59,299 | 59,299 | 58,927 | 59,305 | 59,291    |
| 2024 |        | 59,299 | 59,299 | 58,846 | 59,305 | 59,291    |
| 2025 |        | 59,299 | 59,298 | 58,758 | 59,305 | 59,290    |
| 2026 |        | 59,298 | 59,298 | 58,663 | 59,305 | 59,289    |
| 2027 |        | 59,298 | 59,298 | 58,560 | 59,305 | 59,289    |
| 2028 |        | 59,298 | 59,297 | 58,450 | 59,305 | 59,288    |
| 2029 |        | 59,297 | 59,297 | 58,333 | 59,305 | 59,288    |
| 2030 |        | 59,297 | 59,296 | 58,209 | 59,305 | 59,287    |
| 2031 |        | 59,297 | 59,296 | 58,077 | 59,306 | 59,287    |
| 2032 |        | 59,296 | 59,296 | 57,938 | 59,306 | 59,286    |
| 2033 |        | 59,296 | 59,295 | 57,791 | 59,306 | 59,285    |

| 予測式名      | 予 測 式                                                    | 相関係数     |
|-----------|----------------------------------------------------------|----------|
| 一次直線      | $Y = 59,311.4 - 0.34545 \times t$                        | 0.011131 |
| 一次指数曲線    | $Y = 59,311.4 \times 0.999994^t$                         | 0.011129 |
| 二次曲線      | $Y = 57,149.7 + 178.579 \times t - 3.65152 \times t^2$   | 0.297856 |
| べき曲線      | $Y = 0 + 59,287.4 \times t^{8.14E-05}$                   | 0.006492 |
| ロジスティック曲線 | $Y = 2,259,176 / (1 + \exp(3.61335 + 0.00001 \times t))$ | 0.011129 |

Y : 行政区域内人口予測値 t : 平成年度

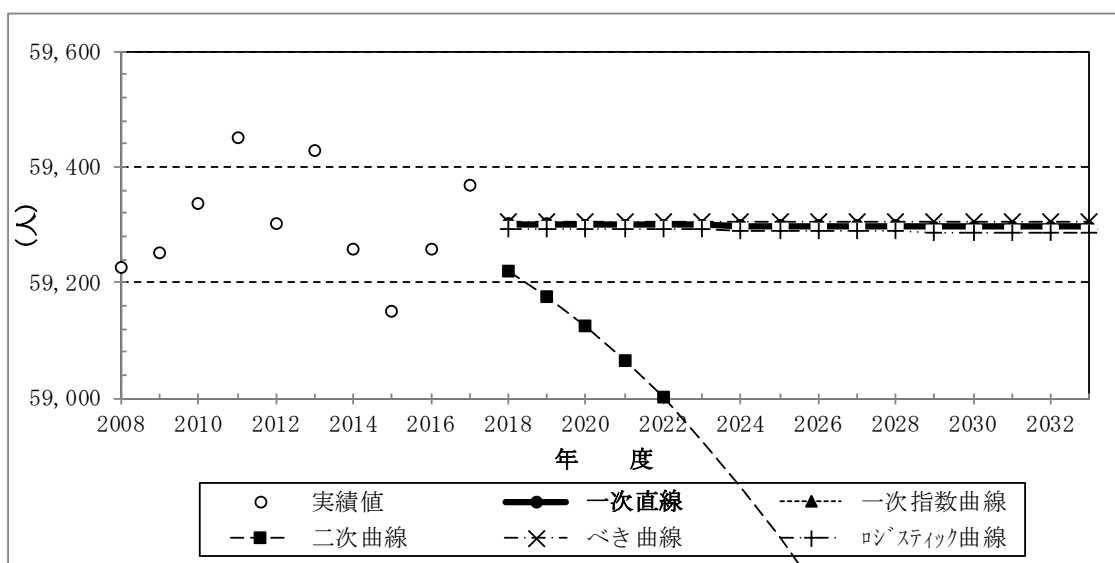
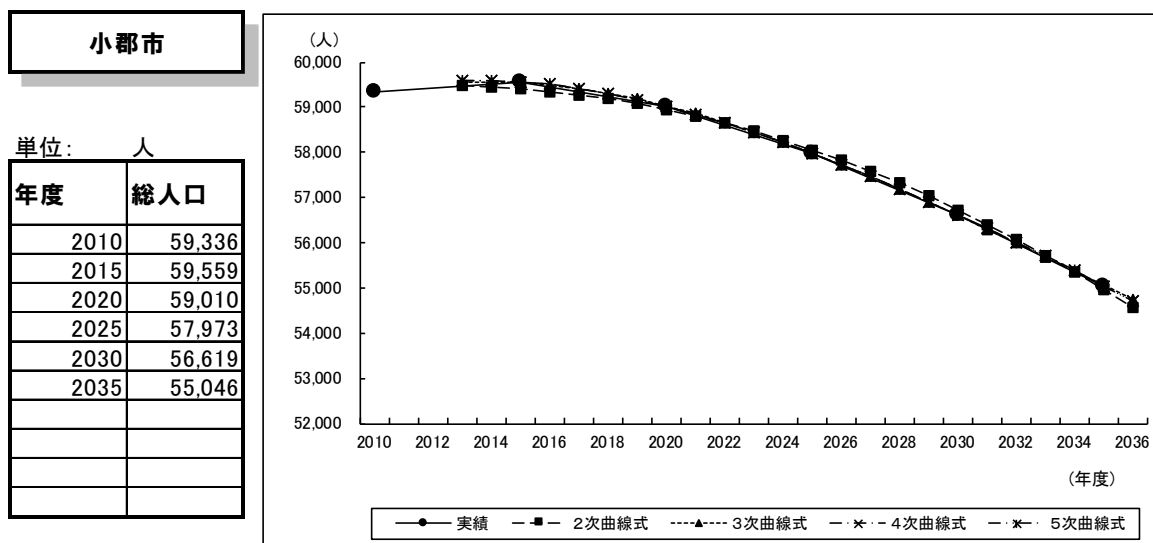




表 4.2.3 行政区域内人口の将来予測結果  
(人口問題研究所推計：2010年(平成22年)実績)



| 採用 | 回帰式   | 回帰係数     |          |          |          |          |          | 寄与率<br>r <sup>2</sup> |
|----|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------------------|
|    |       | a        | b        | c        | d        | e        | f        |                       |
| ×  | 2次曲線式 | -8.71429 | 422.3886 | 54359.02 |          |          |          | 0.996152              |
| ×  | 3次曲線式 | 0.242815 | -33.8456 | 1258.764 | 45445.78 |          |          | 0.999922              |
| ×  | 4次曲線式 | -0.0062  | 1.098415 | -77.0711 | 2204.569 | 37894.54 |          | 1                     |
| ○  | 5次曲線式 | 0.000107 | -0.0246  | 2.346533 | -118.649 | 2884.2   | 33536.81 | 1                     |

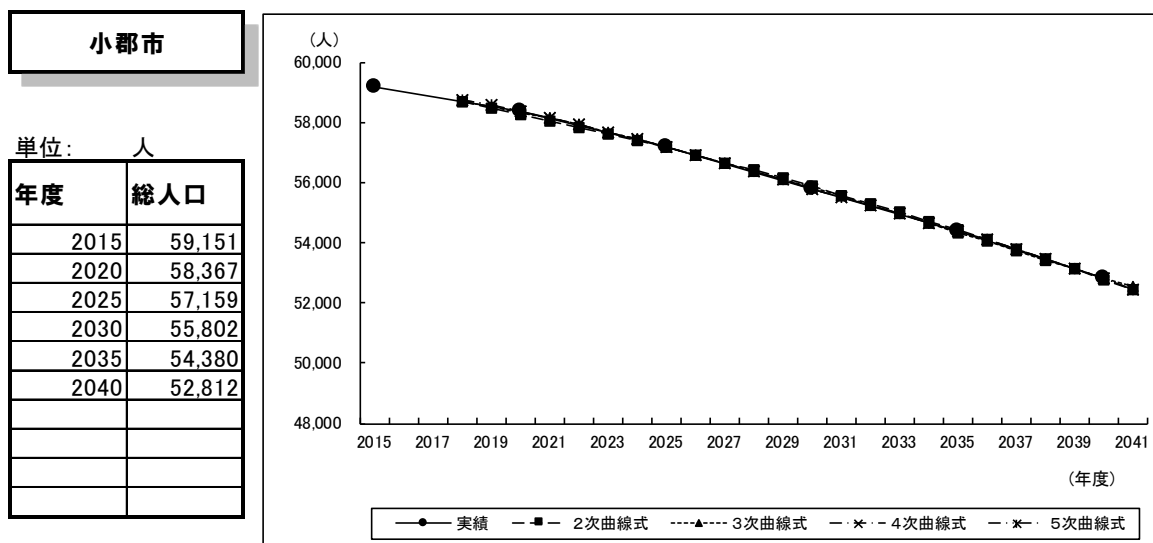
| 予測結果 | 2次曲線式  | 3次曲線式  | 4次曲線式  | 5次曲線式  | 採用値    |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2013 | 59,472 | 59,555 | 59,580 | 59,583 | 59,583 |
| 2014 | 59,450 | 59,562 | 59,586 | 59,588 | 59,588 |
| 2015 | 59,411 | 59,538 | 59,558 | 59,559 | 59,559 |
| 2016 | 59,354 | 59,486 | 59,500 | 59,500 | 59,500 |
| 2017 | 59,280 | 59,408 | 59,414 | 59,413 | 59,413 |
| 2018 | 59,188 | 59,304 | 59,303 | 59,301 | 59,301 |
| 2019 | 59,079 | 59,176 | 59,168 | 59,166 | 59,166 |
| 2020 | 58,952 | 59,025 | 59,012 | 59,010 | 59,010 |
| 2021 | 58,808 | 58,853 | 58,836 | 58,835 | 58,835 |
| 2022 | 58,647 | 58,662 | 58,642 | 58,642 | 58,642 |
| 2023 | 58,468 | 58,452 | 58,433 | 58,433 | 58,433 |
| 2024 | 58,271 | 58,226 | 58,209 | 58,210 | 58,210 |
| 2025 | 58,058 | 57,985 | 57,971 | 57,973 | 57,973 |
| 2026 | 57,826 | 57,729 | 57,722 | 57,724 | 57,724 |
| 2027 | 57,578 | 57,462 | 57,461 | 57,463 | 57,463 |
| 2028 | 57,312 | 57,184 | 57,190 | 57,191 | 57,191 |
| 2029 | 57,028 | 56,896 | 56,909 | 56,910 | 56,910 |
| 2030 | 56,727 | 56,600 | 56,620 | 56,619 | 56,619 |
| 2031 | 56,409 | 56,298 | 56,322 | 56,320 | 56,320 |
| 2032 | 56,073 | 55,990 | 56,015 | 56,012 | 56,012 |
| 2033 | 55,720 | 55,679 | 55,700 | 55,697 | 55,697 |
| 2034 | 55,349 | 55,366 | 55,377 | 55,375 | 55,375 |
| 2035 | 54,961 | 55,052 | 55,046 | 55,046 | 55,046 |
| 2036 | 54,556 | 54,740 | 54,706 | 54,711 | 54,711 |
| 2037 | 54,133 | 54,429 | 54,356 | 54,370 | 54,370 |

<近似に用いる回帰式>

- ・ 2次曲線式： $Y = a \cdot t^2 + b \cdot t + c$
- ・ 3次曲線式： $Y = a \cdot t^3 + b \cdot t^2 + c \cdot t + d$
- ・ 4次曲線式： $Y = a \cdot t^4 + b \cdot t^3 + c \cdot t^2 + d \cdot t + e$
- ・ 5次曲線式： $Y = a \cdot t^5 + b \cdot t^4 + c \cdot t^3 + d \cdot t^2 + e \cdot t + f$

ここに、  
 Y：理論値（ここでは、推計人口）  
 a, b, c, d, e, f：回帰係数  
 t：時間係数  
 （年度の変化を示す。  
 平成元年度を  $t = 1$  と設定）

表 4.2.4 行政区域内人口の将来予測結果  
(人口問題研究所推計：2015年(平成27年)実績)



| 採用 | 回帰式   | 回帰係数     |          |          |          |          |          | 寄与率<br>r <sup>2</sup> |
|----|-------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|-----------------------|
|    |       | a        | b        | c        | d        | e        | f        |                       |
| ×  | 2次曲線式 | -3.41143 | 12.28571 | 61364.65 |          |          |          | 0.999333              |
| ×  | 3次曲線式 | 0.12163  | -17.8245 | 566.2479 | 54475.18 |          |          | 0.999845              |
| ×  | 4次曲線式 | -0.01187 | 1.996563 | -126.901 | 3332.578 | 28690.59 |          | 1                     |
| ○  | 5次曲線式 | 6.93E-05 | -0.02556 | 3.064373 | -167.977 | 4111.637 | 22864.53 | 1                     |

| 予測結果 | 2次曲線式  | 3次曲線式  | 4次曲線式  | 5次曲線式  | 採用値    |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 2018 | 58,663 | 58,705 | 58,752 | 58,754 | 58,754 |
| 2019 | 58,467 | 58,523 | 58,569 | 58,570 | 58,570 |
| 2020 | 58,264 | 58,328 | 58,366 | 58,367 | 58,367 |
| 2021 | 58,055 | 58,121 | 58,148 | 58,148 | 58,148 |
| 2022 | 57,839 | 57,903 | 57,915 | 57,915 | 57,915 |
| 2023 | 57,616 | 57,674 | 57,672 | 57,671 | 57,671 |
| 2024 | 57,386 | 57,434 | 57,420 | 57,418 | 57,418 |
| 2025 | 57,149 | 57,185 | 57,160 | 57,159 | 57,159 |
| 2026 | 56,905 | 56,928 | 56,895 | 56,894 | 56,894 |
| 2027 | 56,655 | 56,663 | 56,626 | 56,625 | 56,625 |
| 2028 | 56,398 | 56,390 | 56,353 | 56,353 | 56,353 |
| 2029 | 56,134 | 56,111 | 56,078 | 56,079 | 56,079 |
| 2030 | 55,863 | 55,826 | 55,801 | 55,802 | 55,802 |
| 2031 | 55,585 | 55,537 | 55,522 | 55,523 | 55,523 |
| 2032 | 55,301 | 55,243 | 55,241 | 55,242 | 55,242 |
| 2033 | 55,009 | 54,945 | 54,958 | 54,958 | 54,958 |
| 2034 | 54,711 | 54,645 | 54,671 | 54,671 | 54,671 |
| 2035 | 54,406 | 54,342 | 54,381 | 54,380 | 54,380 |
| 2036 | 54,094 | 54,039 | 54,085 | 54,083 | 54,083 |
| 2037 | 53,776 | 53,734 | 53,782 | 53,780 | 53,780 |
| 2038 | 53,450 | 53,430 | 53,470 | 53,468 | 53,468 |
| 2039 | 53,118 | 53,126 | 53,148 | 53,146 | 53,146 |
| 2040 | 52,779 | 52,825 | 52,812 | 52,812 | 52,812 |
| 2041 | 52,433 | 52,525 | 52,460 | 52,464 | 52,464 |
| 2042 | 52,080 | 52,228 | 52,090 | 52,099 | 52,099 |

<近似に用いる回帰式>

- ・ 2次曲線式： $Y=a \cdot t^2+b \cdot t+c$
- ・ 3次曲線式： $Y=a \cdot t^3+b \cdot t^2+c \cdot t+d$
- ・ 4次曲線式： $Y=a \cdot t^4+b \cdot t^3+c \cdot t^2+d \cdot t+e$
- ・ 5次曲線式： $Y=a \cdot t^5+b \cdot t^4+c \cdot t^3+d \cdot t^2+e \cdot t+f$

ここに、  
 Y：理論値（ここでは、推計人口）  
 a, b, c, d, e, f：回帰係数  
 t：時間係数  
 （年度の変化を示す。  
 平成元年度を  $t = 1$  と設定）

### 3. 人口の将来予測結果のまとめ

行政区域内人口の推計結果をまとめると、表 4.2.5 及び図 4.2.2 に示すとおりである。

なお、「第5次総合振興計画（後期基本計画）」では、「小都市人口ビジョン」（2016年（平成28年）3月）の推計結果を受けて、2020年度の目標人口を「61,000人」程度としている。

本計画では、人口問題研究所の推計値、第5次総合振興計画（後期基本計画）の目標値及びトレンド法による推計値の中で、中間的な傾向を示す「トレンド法による推計（一次直線）」を採用するものとする。

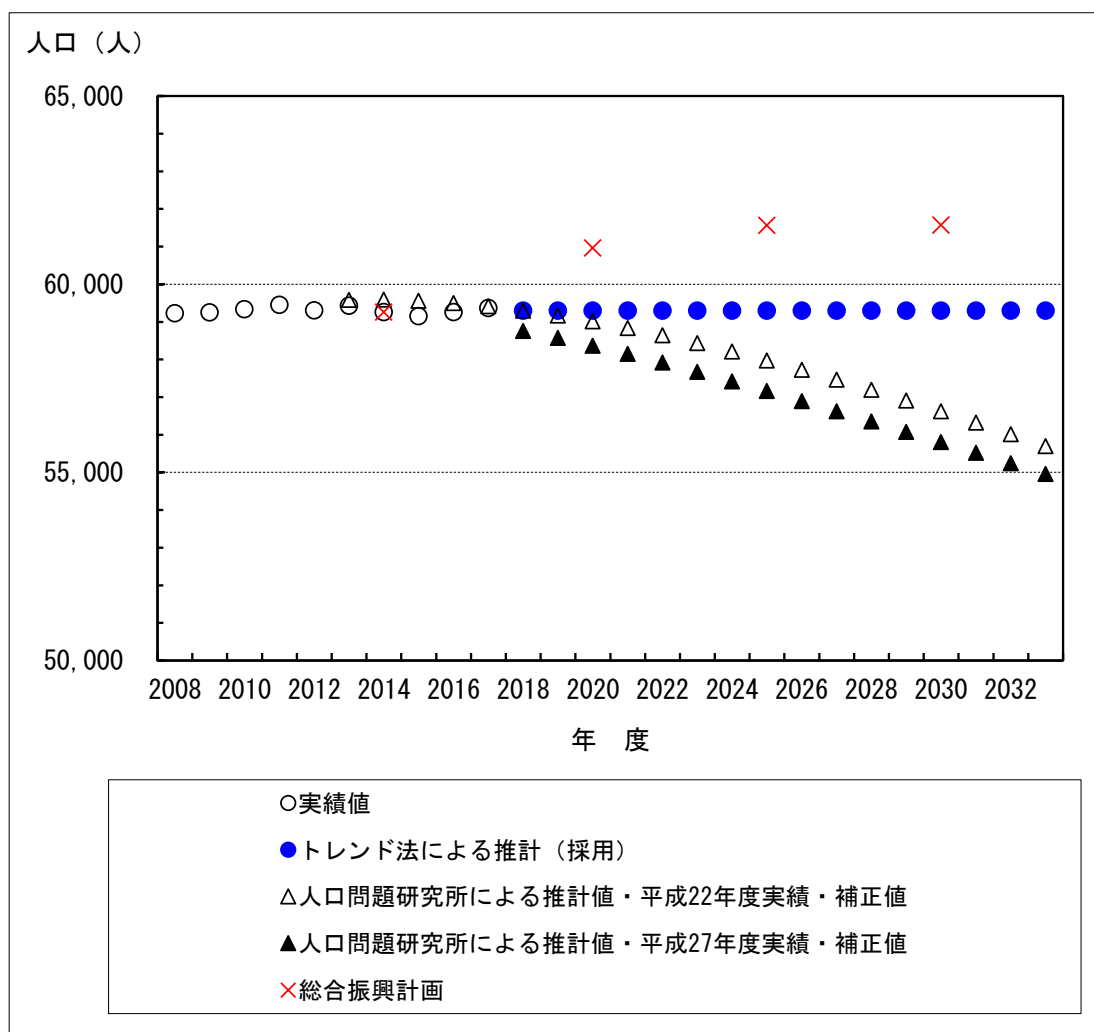


図 4.2.2 人口の将来予測結果

表 4.2.5 人口の将来予測結果

(単位：人)

| 年 度         |        | 実績及び推計人口       |               |        |         |        |                                    |
|-------------|--------|----------------|---------------|--------|---------|--------|------------------------------------|
|             |        | トレンド法<br>による推計 | 人口問題研究所による推計値 |        |         |        | 「小郡市人口ビジョン」<br>(平成28年3月)による<br>推計値 |
|             |        |                | 平成22年実績       |        | 平成27年実績 |        |                                    |
|             |        |                | 推計値           | 補正值    | 推計値     | 補正值    |                                    |
| 実<br>績<br>値 | 2008   | 59,226         |               |        |         |        |                                    |
|             | 2009   | 59,250         |               |        |         |        |                                    |
|             | 2010   | 59,336         | 58,499        | 59,336 |         |        |                                    |
|             | 2011   | 59,452         |               |        |         |        |                                    |
|             | 2012   | 59,303         |               |        |         |        |                                    |
|             | 2013   | 59,429         |               | 59,583 |         |        |                                    |
|             | 2014   | 59,257         |               | 59,588 |         |        | 59,257                             |
|             | 2015   | 59,151         | 58,719        | 59,559 | 57,983  | 59,151 |                                    |
|             | 2016   | 59,257         |               | 59,500 |         |        |                                    |
| 2017        | 59,368 |                | 59,413        |        |         |        |                                    |
| 推<br>計<br>値 | 2018   | 59,301         |               | 59,301 |         | 58,754 |                                    |
|             | 2019   | 59,301         |               | 59,166 |         | 58,570 |                                    |
|             | 2020   | 59,300         | 58,178        | 59,010 | 57,214  | 58,367 | 60,963                             |
|             | 2021   | 59,300         |               | 58,835 |         | 58,148 |                                    |
|             | 2022   | 59,300         |               | 58,642 |         | 57,915 |                                    |
|             | 2023   | 59,299         |               | 58,433 |         | 57,671 |                                    |
|             | 2024   | 59,299         |               | 58,210 |         | 57,418 |                                    |
|             | 2025   | 59,299         | 57,155        | 57,973 | 56,030  | 57,159 | 61,564                             |
|             | 2026   | 59,298         |               | 57,724 |         | 56,894 |                                    |
|             | 2027   | 59,298         |               | 57,463 |         | 56,625 |                                    |
|             | 2028   | 59,298         |               | 57,191 |         | 56,353 |                                    |
|             | 2029   | 59,297         |               | 56,910 |         | 56,079 |                                    |
|             | 2030   | 59,297         | 55,820        | 56,619 | 54,700  | 55,802 | 61,568                             |
|             | 2031   | 59,297         |               | 56,320 |         | 55,523 |                                    |
|             | 2032   | 59,296         |               | 56,012 |         | 55,242 |                                    |
| 2033        | 59,296 |                | 55,697        |        | 54,958  |        |                                    |
| 推計方法        | 一次直線   | コーホート法         |               |        |         |        |                                    |
|             | 採用     |                |               |        |         |        |                                    |

## 第3節 ごみ排出量の将来予測

### 1. 予測に当たっての基本的な考え方

ごみ処理・処分の将来計画を検討するためには、ごみ排出量の将来予測を行い、その動向を把握する必要がある。

ごみ排出量の予測は、過去のごみ排出量を基に、1人1日当たりのごみ排出量、あるいは1日当たりのごみ排出量を予測し、これを排出原単位として、地域の将来人口との積によって求める下記の方法が基本となっている。

$$W = m \times P \times 10^{-6} + q$$

W : 1日当たりのごみ量 (t/日)  
m : 1人1日当たりの排出原単位 (g/人・日)  
P : 当該区域の処理対象人口 (人)  
q : 1日当たりの排出原単位 (t/日)

現在の収集体制におけるごみ排出量の予測を行った後、排出抑制・再生利用等に関する施策の展開等について検討を行い、目標値の設定を行うこととし、ここでは、現体制におけるごみ排出量の予測までを行うこととする。

ごみの排出原単位の予測については、過去の実績値に基づく傾向線（トレンド法）を基本とする。

予測に用いる傾向線は、人口の将来予測に用いた傾向線と同じ5種類とし、採用に当たっては、近年の実績の推移などを考慮して最も適当な傾向線を選択するものとする。

#### (1) 家庭系ごみ

ごみ排出量の予測は、有害ごみ（乾電池）・資源ごみの分別収集及び集団回収による資源回収が実施されており、この影響を排除するため、収集ごみ量及び直接搬入ごみ量に有害ごみ（乾電池）・資源ごみ分別収集量及び集団回収量を加えた過去5年間（2013年度（平成25年度）～2017年度（平成29年度））の「1人1日平均排出量」を基に、トレンド法を基本に行うこととする。

また、項目別の予測については、2017年度（平成29年度）における各項目の排出割合の実績値で按分することとする。

#### (2) 事業系ごみ

事業系ごみの予測は、過去5年間（2013年度（平成25年度）～2017年度（平成29年度））の「1日平均排出量」を基に、トレンド法を基本に行うこととする。

また、項目別の予測については、2017年度（平成29年度）における各項目の排出割合の実績値で按分することとする。

## 2. ごみ排出量及びごみ排出原単位の実績

ごみ排出量及びごみ排出量の予測に用いる過去5年間の「1人1日平均排出量」及び「1日平均排出量」等の実績は、表4.3.1に示すとおりである。また、2017年度（平成29年度）における各項目の排出割合は、表4.3.2に示すとおりである。

表 4.3.1 予測に用いる実績（ごみ排出原単位）

| 項目        | 単位    | 2013年度    | 2014年度    | 2015年度    | 2016年度    | 2017年度    |
|-----------|-------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 行政区域内人口   | 人     | 59,429    | 59,257    | 59,151    | 59,257    | 59,368    |
| 生活系ごみ     | t/年   | 15,317.05 | 15,127.60 | 15,038.51 | 14,472.66 | 14,289.27 |
| 収集ごみ      | t/年   | 10,989.06 | 10,937.70 | 10,955.52 | 10,625.28 | 10,565.39 |
| 燃えるごみ     | t/年   | 9,981.80  | 9,976.02  | 9,933.55  | 9,668.48  | 9,636.08  |
| 不燃物       | t/年   | 430.89    | 420.98    | 428.38    | 421.45    | 409.33    |
| 粗大ごみ      | t/年   | 156.79    | 137.67    | 193.37    | 145.67    | 140.75    |
| ビン        | t/年   | 419.58    | 403.03    | 400.22    | 389.68    | 379.23    |
| 直接搬入ごみ    | t/年   | 712.57    | 762.19    | 833.29    | 806.52    | 871.81    |
| 燃えるごみ     | t/年   | 150.24    | 162.97    | 184.09    | 172.22    | 197.55    |
| 不燃物       | t/年   | 10.01     | 14.70     | 15.53     | 10.98     | 13.54     |
| 粗大ごみ      | t/年   | 551.91    | 584.52    | 633.39    | 623.32    | 660.72    |
| ビン        | t/年   | 0.41      | 0.00      | 0.28      | 0.00      | 0.00      |
| 有害ごみ（乾電池） | t/年   | 10.42     | 10.71     | 10.70     | 10.86     | 9.07      |
| 資源ごみ      | t/年   | 3,602     | 3,414     | 3,236     | 3,026     | 2,839     |
| 団体回収      | t/年   | 3         | 3         | 3         | 4         | 4         |
| 生活系ごみ     | g/人・日 | 706.13    | 699.42    | 694.64    | 669.14    | 659.42    |
| 収集ごみ      | g/人・日 | 506.60    | 505.70    | 506.05    | 491.26    | 487.57    |
| 燃えるごみ     | g/人・日 | 460.17    | 461.24    | 458.84    | 447.02    | 444.69    |
| 不燃物       | g/人・日 | 19.86     | 19.46     | 19.79     | 19.49     | 18.89     |
| 粗大ごみ      | g/人・日 | 7.23      | 6.37      | 8.93      | 6.73      | 6.50      |
| ビン        | g/人・日 | 19.34     | 18.63     | 18.49     | 18.02     | 17.50     |
| 直接搬入ごみ    | g/人・日 | 32.85     | 35.24     | 38.49     | 37.29     | 40.23     |
| 燃えるごみ     | g/人・日 | 6.93      | 7.53      | 8.50      | 7.96      | 9.12      |
| 不燃物       | g/人・日 | 0.46      | 0.68      | 0.72      | 0.51      | 0.62      |
| 粗大ごみ      | g/人・日 | 25.44     | 27.03     | 29.26     | 28.82     | 30.49     |
| ビン        | g/人・日 | 0.02      | 0.00      | 0.01      | 0.00      | 0.00      |
| 有害ごみ（乾電池） | g/人・日 | 0.48      | 0.50      | 0.49      | 0.50      | 0.42      |
| 資源ごみ      | g/人・日 | 166.06    | 157.85    | 149.47    | 139.91    | 131.01    |
| 団体回収      | g/人・日 | 0.14      | 0.14      | 0.14      | 0.18      | 0.18      |
| 事業系ごみ     | t/年   | 3,976.27  | 4,129.40  | 4,196.07  | 3,924.55  | 4,181.71  |
| 収集ごみ（許可）  | t/年   | 2,858.23  | 2,875.29  | 2,893.61  | 2,815.22  | 2,840.05  |
| 燃えるごみ     | t/年   | 2,784.30  | 2,799.95  | 2,802.15  | 2,737.50  | 2,771.67  |
| 不燃物       | t/年   | 49.16     | 48.28     | 51.45     | 50.07     | 47.49     |
| 粗大ごみ      | t/年   | 23.84     | 25.52     | 38.37     | 27.53     | 19.54     |
| ビン        | t/年   | 0.93      | 1.54      | 1.64      | 0.12      | 1.35      |
| 直接搬入ごみ    | t/年   | 1,118.04  | 1,254.11  | 1,302.46  | 1,109.33  | 1,341.66  |
| 燃えるごみ     | t/年   | 636.31    | 683.78    | 725.92    | 631.24    | 790.42    |
| 不燃物       | t/年   | 3.15      | 19.25     | 3.61      | 2.17      | 6.89      |
| 粗大ごみ      | t/年   | 475.62    | 549.77    | 572.57    | 475.31    | 544.07    |
| ビン        | t/年   | 2.96      | 1.31      | 0.36      | 0.61      | 0.28      |
| 事業系ごみ     | t/日   | 10.89     | 11.31     | 11.46     | 10.75     | 11.46     |
| 収集ごみ（許可）  | t/日   | 7.83      | 7.88      | 7.91      | 7.71      | 7.78      |
| 燃えるごみ     | t/日   | 7.63      | 7.67      | 7.66      | 7.50      | 7.59      |
| 不燃物       | t/日   | 0.13      | 0.13      | 0.14      | 0.14      | 0.13      |
| 粗大ごみ      | t/日   | 0.07      | 0.07      | 0.10      | 0.08      | 0.05      |
| ビン        | t/日   | 0.00      | 0.00      | 0.00      | 0.00      | 0.00      |
| 直接搬入ごみ    | t/日   | 3.06      | 3.44      | 3.56      | 3.04      | 3.68      |
| 燃えるごみ     | t/日   | 1.74      | 1.87      | 1.98      | 1.73      | 2.17      |
| 不燃物       | t/日   | 0.01      | 0.05      | 0.01      | 0.01      | 0.02      |
| 粗大ごみ      | t/日   | 1.30      | 1.51      | 1.56      | 1.30      | 1.49      |
| ビン        | t/日   | 0.01      | 0.00      | 0.00      | 0.00      | 0.00      |
| ごみ排出量合計   | t/年   | 19,293.32 | 19,257.00 | 19,234.58 | 18,397.21 | 18,470.98 |
|           | t/日   | 52.86     | 52.76     | 52.55     | 50.40     | 50.61     |
|           | g/人・日 | 889.44    | 890.34    | 888.46    | 850.59    | 852.40    |

表 4.3.2 2017 年度（平成 29 年度）における項目別ごみ排出量の割合

| 項 目      | 排出量(2017年度) |        |
|----------|-------------|--------|
|          | 量(t/年)      | 割合(%)  |
| 生活系ごみ    | 14,289.27   | 100.00 |
| 収集ごみ     | 10,565.39   | 73.94  |
| 燃えるごみ    | 9,636.08    | 67.44  |
| 不燃物      | 409.33      | 2.86   |
| 粗大ごみ     | 140.75      | 0.99   |
| ビン       | 379.23      | 2.65   |
| 直接搬入ごみ   | 871.81      | 6.10   |
| 燃えるごみ    | 197.55      | 1.38   |
| 不燃物      | 13.54       | 0.09   |
| 粗大ごみ     | 660.72      | 4.63   |
| ビン       | 0.00        | 0.00   |
| 乾電池      | 9.07        | 0.06   |
| 資源ごみ     | 2,839       | 19.87  |
| 団体回収     | 4           | 0.03   |
| 事業系ごみ    | 4,181.71    | 100.00 |
| 収集ごみ(許可) | 2,840.05    | 67.92  |
| 燃えるごみ    | 2,771.67    | 66.28  |
| 不燃物      | 47.49       | 1.14   |
| 粗大ごみ     | 19.54       | 0.47   |
| ビン       | 1.35        | 0.03   |
| 直接搬入ごみ   | 1,341.66    | 32.08  |
| 燃えるごみ    | 790.42      | 18.90  |
| 不燃物      | 6.89        | 0.16   |
| 粗大ごみ     | 544.07      | 13.01  |
| ビン       | 0.28        | 0.01   |

### 3. ごみ排出量の将来予測結果

生活系ごみの1人1日平均排出量及び事業系ごみの1日平均排出量のトレンド法による予測結果は、表4.3.4及び表4.3.5に示すとおりである。

生活系ごみの1人1日平均排出量については、全体的に減少傾向となっているが、今後は、それ程の減少は続かないと思われるため、本計画では、2017年度（平成29年度）の1人1日平均排出量が今後も継続すると仮定し、2017年度（平成29年度）の実績値を採用することとする。

事業系ごみの1日平均排出量については、全体的に増加傾向となっているが、今までのような増加は続かないと思われるため、減少傾向を示す二次曲線を除く推計式の中で、増加の割合が最も少ないロジスティック曲線を採用することとする。

- ・生活系ごみ：2017年度（平成29年度）の実績値が継続
- ・事業系ごみ：トレンド法による「ロジスティック曲線」を採用

将来のごみ排出量の推計結果は、表4.3.3及び図4.3.1に示すとおりである。

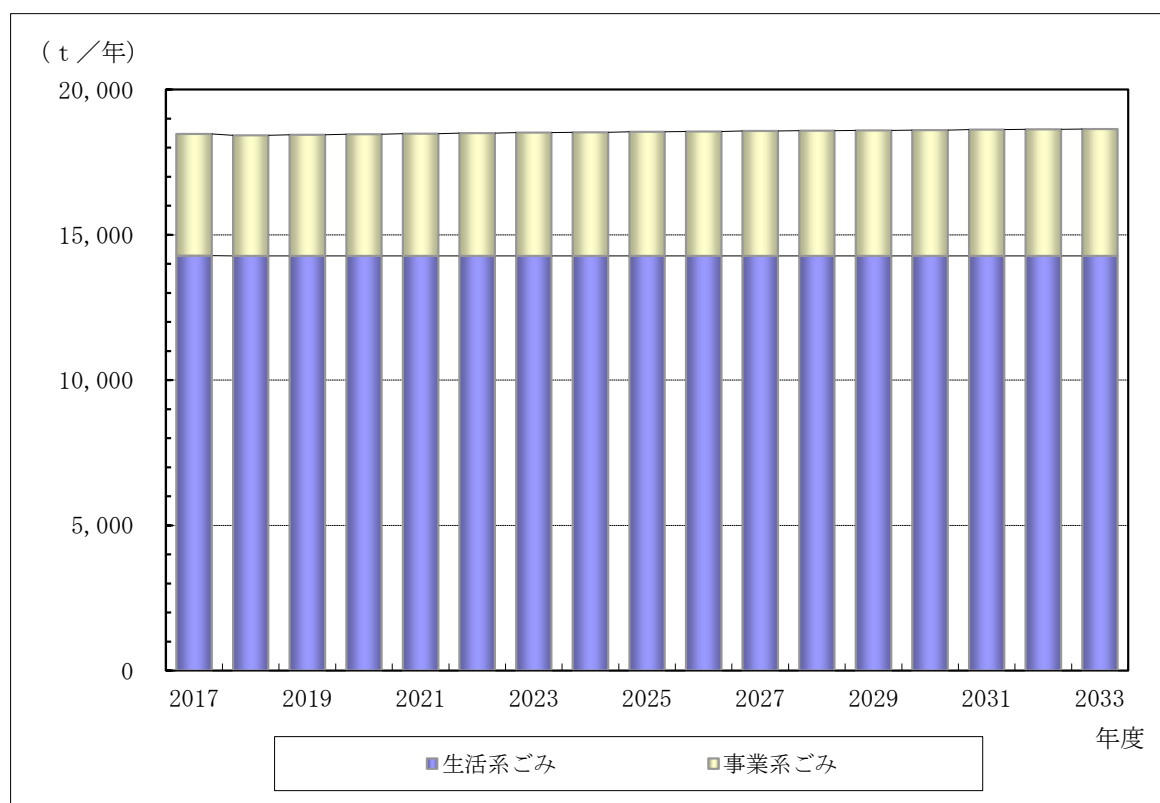


図4.3.1 ごみ排出量の推計結果



表 4.3.3 ごみ排出量の将来推計値

| 項目          | 年度            | 推計方法<br>(2018年度以降) | 実績値                                           | 推 計 値                          |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |       |
|-------------|---------------|--------------------|-----------------------------------------------|--------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
|             |               |                    | 2017                                          | 2018                           | 2019   | 2020   | 2021   | 2022   | 2023   | 2024   | 2025   | 2026   | 2027   | 2028   | 2029   | 2030   | 2031   | 2032   | 2033   |        |       |
| 行政区域内人 (a)  | 人             | 一次直線               | 59,368                                        | 59,301                         | 59,301 | 59,300 | 59,300 | 59,300 | 59,300 | 59,299 | 59,299 | 59,299 | 59,298 | 59,298 | 59,298 | 59,297 | 59,297 | 59,297 | 59,296 | 59,296 |       |
| 生活系ごみ       | 排出量合計 (b)     | t/年                | $c \times a \times 365 \div 1,000 \div 1,000$ | 14,289                         | 14,273 | 14,273 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,272 | 14,271 | 14,271 |       |
|             | 1人1日平均排出量 (c) | g/人・日              | 2017年度の実績値                                    | 659.4                          | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  | 659.4  |       |
|             | 収集ごみ          | t/年                | $b \times 73.94\%$ (2017年度の実績)                | 10,565                         | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,553 | 10,552 | 10,552 |       |
|             | 燃えるごみ         | t/年                | $b \times 67.44\%$ (2017年度の実績)                | 9,636                          | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,626  | 9,625  | 9,625  |       |
|             | 不燃物           | t/年                | $b \times 2.86\%$ (2017年度の実績)                 | 409                            | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    | 408    |       |
|             | 粗大ごみ          | t/年                | $b \times 0.99\%$ (2017年度の実績)                 | 141                            | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    | 141    |       |
|             | ビン            | t/年                | $b \times 2.65\%$ (2017年度の実績)                 | 379                            | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    | 378    |       |
|             | 直接搬入ごみ        | t/年                | $b \times 6.10\%$ (2017年度の実績)                 | 872                            | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    | 871    |       |
|             | 燃えるごみ         | t/年                | $b \times 1.38\%$ (2017年度の実績)                 | 198                            | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    | 197    |       |
|             | 不燃物           | t/年                | $b \times 0.09\%$ (2017年度の実績)                 | 14                             | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     | 13     |       |
|             | 粗大ごみ          | t/年                | $b \times 4.63\%$ (2017年度の実績)                 | 661                            | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    | 661    |       |
|             | ビン            | t/年                | $b \times 0.00\%$ (2017年度の実績)                 | 0                              | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |       |
|             | 有害ごみ (乾電池)    | t/年                | $b \times 0.06\%$ (2017年度の実績)                 | 9                              | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      | 9      |       |
|             | 資源ごみ          | t/年                | $b \times 19.87\%$ (2017年度の実績)                | 2,839                          | 2,836  | 2,836  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  | 2,835  |       |
|             | 団体回収          | t/年                | $b \times 0.03\%$ (2017年度の実績)                 | 4                              | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      |       |
|             | 事業系ごみ         | 排出量合計 (d)          | t/年                                           | $e \times 365$                 | 4,182  | 4,154  | 4,172  | 4,190  | 4,208  | 4,227  | 4,245  | 4,260  | 4,274  | 4,289  | 4,300  | 4,314  | 4,325  | 4,336  | 4,347  | 4,358  | 4,369 |
|             |               | 1日平均排出量 (e)        | t/日                                           | ロジスティック曲線                      | 11.46  | 11.38  | 11.43  | 11.48  | 11.53  | 11.58  | 11.63  | 11.67  | 11.71  | 11.75  | 11.78  | 11.82  | 11.85  | 11.88  | 11.91  | 11.94  | 11.97 |
|             |               | 収集ごみ (許可)          | t/年                                           | $d \times 67.92\%$ (2017年度の実績) | 2,840  | 2,821  | 2,834  | 2,846  | 2,858  | 2,871  | 2,883  | 2,893  | 2,903  | 2,913  | 2,921  | 2,930  | 2,938  | 2,945  | 2,952  | 2,960  | 2,967 |
|             |               | 燃えるごみ              | t/年                                           | $d \times 66.28\%$ (2017年度の実績) | 2,772  | 2,753  | 2,765  | 2,777  | 2,789  | 2,802  | 2,814  | 2,823  | 2,833  | 2,843  | 2,851  | 2,860  | 2,868  | 2,875  | 2,881  | 2,889  | 2,895 |
| 不燃物         |               | t/年                | $d \times 1.14\%$ (2017年度の実績)                 | 47                             | 47     | 48     | 48     | 48     | 48     | 48     | 49     | 49     | 49     | 49     | 49     | 49     | 49     | 50     | 50     | 50     |       |
| 粗大ごみ        |               | t/年                | $d \times 0.47\%$ (2017年度の実績)                 | 20                             | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 20     | 21     |       |
| ビン          |               | t/年                | $d \times 0.03\%$ (2017年度の実績)                 | 1                              | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      | 1      |       |
| 直接搬入ごみ      |               | t/年                | $d \times 32.08\%$ (2017年度の実績)                | 1,342                          | 1,333  | 1,338  | 1,344  | 1,350  | 1,356  | 1,362  | 1,367  | 1,371  | 1,376  | 1,379  | 1,384  | 1,387  | 1,391  | 1,395  | 1,398  | 1,402  |       |
| 燃えるごみ       |               | t/年                | $d \times 18.90\%$ (2017年度の実績)                | 790                            | 786    | 788    | 792    | 796    | 799    | 803    | 806    | 808    | 811    | 813    | 816    | 817    | 820    | 822    | 824    | 827    |       |
| 不燃物         |               | t/年                | $d \times 0.16\%$ (2017年度の実績)                 | 7                              | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      | 7      |       |
| 粗大ごみ        |               | t/年                | $d \times 13.01\%$ (2017年度の実績)                | 544                            | 540    | 543    | 545    | 547    | 550    | 552    | 554    | 556    | 558    | 559    | 561    | 563    | 564    | 566    | 567    | 568    |       |
| ビン          |               | t/年                | $d \times 0.01\%$ (2017年度の実績)                 | 0                              | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |       |
| ごみ排出量合計 (f) |               | t/年                |                                               | 18,471                         | 18,427 | 18,445 | 18,462 | 18,480 | 18,499 | 18,517 | 18,532 | 18,546 | 18,561 | 18,572 | 18,586 | 18,597 | 18,608 | 18,619 | 18,629 | 18,640 |       |
|             | t/日           |                    | 50.6                                          | 50.5                           | 50.5   | 50.6   | 50.6   | 50.7   | 50.7   | 50.8   | 50.8   | 50.9   | 50.9   | 50.9   | 51.0   | 51.0   | 51.0   | 51.0   | 51.1   |        |       |
|             | g/人・日         |                    | 852.4                                         | 851.3                          | 852.2  | 853.0  | 853.8  | 854.7  | 855.5  | 856.2  | 856.9  | 857.6  | 858.1  | 858.7  | 859.2  | 859.8  | 860.3  | 860.7  | 861.2  |        |       |

表 4.3.4 生活系ごみにおける 1 人 1 日平均排出量の将来予測結果（トレンド法）

(g/人・日)

| 年 度  | 実績値    | 予 測 値  |        |         |        |           | 採用値<br>平成29年度の<br>実績値 |
|------|--------|--------|--------|---------|--------|-----------|-----------------------|
|      |        | 一次直線   | 一次指数曲線 | 二次曲線    | べき曲線   | ロジスティック曲線 |                       |
| 2008 |        |        |        |         |        |           |                       |
| 2009 |        |        |        |         |        |           |                       |
| 2010 |        |        |        |         |        |           |                       |
| 2011 |        |        |        |         |        |           |                       |
| 2012 |        |        |        |         |        |           |                       |
| 2013 | 706.13 |        |        |         |        |           |                       |
| 2014 | 699.42 |        |        |         |        |           |                       |
| 2015 | 694.64 |        |        |         |        |           |                       |
| 2016 | 669.14 |        |        |         |        |           |                       |
| 2017 | 659.42 |        |        |         |        |           |                       |
| 2018 |        | 648.64 | 649.26 | 635.27  | 650.84 | 643.60    | 659.42                |
| 2019 |        | 636.27 | 637.61 | 609.53  | 640.55 | 625.25    | 659.42                |
| 2020 |        | 623.90 | 626.16 | 579.97  | 630.75 | 604.91    | 659.42                |
| 2021 |        | 611.53 | 614.92 | 546.59  | 621.38 | 582.54    | 659.42                |
| 2022 |        | 599.16 | 603.88 | 509.39  | 612.43 | 558.19    | 659.42                |
| 2023 |        | 586.79 | 593.04 | 468.37  | 603.87 | 531.94    | 659.42                |
| 2024 |        | 574.42 | 582.40 | 423.53  | 595.65 | 503.98    | 659.42                |
| 2025 |        | 562.05 | 571.94 | 374.87  | 587.78 | 474.55    | 659.42                |
| 2026 |        | 549.68 | 561.68 | 322.39  | 580.21 | 443.95    | 659.42                |
| 2027 |        | 537.31 | 551.60 | 266.09  | 572.93 | 412.56    | 659.42                |
| 2028 |        | 524.94 | 541.69 | 205.97  | 565.92 | 380.79    | 659.42                |
| 2029 |        | 512.57 | 531.97 | 142.03  | 559.17 | 349.07    | 659.42                |
| 2030 |        | 500.20 | 522.42 | 74.27   | 552.66 | 317.83    | 659.42                |
| 2031 |        | 487.83 | 513.05 | 2.69    | 546.38 | 287.47    | 659.42                |
| 2032 |        | 475.46 | 503.84 | -72.71  | 540.30 | 258.35    | 659.42                |
| 2033 |        | 463.09 | 494.79 | -151.93 | 534.44 | 230.76    | 659.42                |

| 予測式名      | 予 測 式                                                   | 相関係数    |
|-----------|---------------------------------------------------------|---------|
| 一次直線      | $Y = 1,019.74 - 12.37 \times t$                         | 0.96288 |
| 一次指数曲線    | $Y = 1,117.92 \times 0.98205^{\sim} t$                  | 0.96094 |
| 二次曲線      | $Y = -368.83 + 90.77 \times t - 1.91 \times t^{\sim} 2$ | 0.97882 |
| べき曲線      | $Y = 0 + 3,399.17 \times t^{\sim} - 0.48601$            | 0.95653 |
| ロジスティック曲線 | $Y = 768.897 / (1 + \exp(-6.60257 + 0.16554 \times t))$ | 0.97326 |

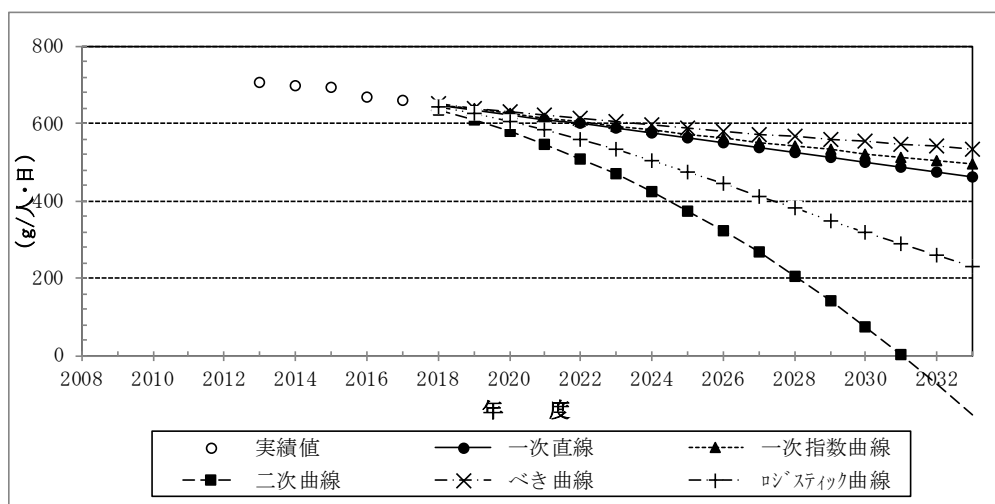
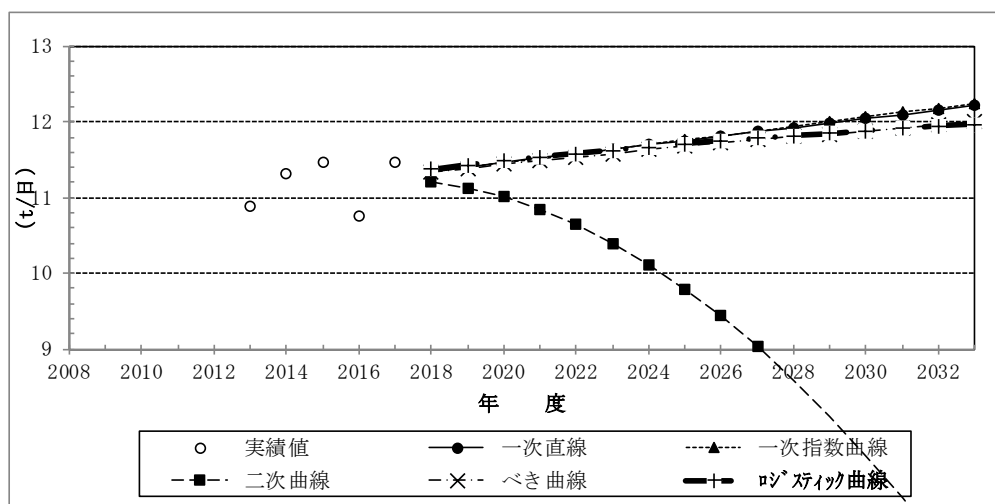


表 4.3.5 事業系ごみにおける 1 日平均排出量の将来予測結果 (トレンド法)

(t/日)

| 年 度  | 実績値   | 予 測 値 |        |       |       |           | 採用値   |
|------|-------|-------|--------|-------|-------|-----------|-------|
|      |       | 一次直線  | 一次指数曲線 | 二次曲線  | べき曲線  | ロジスティック曲線 |       |
| 2008 |       |       |        |       |       |           |       |
| 2009 |       |       |        |       |       |           |       |
| 2010 |       |       |        |       |       |           |       |
| 2011 |       |       |        |       |       |           |       |
| 2012 |       |       |        |       |       |           |       |
| 2013 | 10.89 |       |        |       |       |           |       |
| 2014 | 11.31 |       |        |       |       |           |       |
| 2015 | 11.46 |       |        |       |       |           |       |
| 2016 | 10.75 |       |        |       |       |           |       |
| 2017 | 11.46 |       |        |       |       |           |       |
| 2018 |       | 11.35 | 11.34  | 11.21 | 11.34 | 11.38     | 11.38 |
| 2019 |       | 11.41 | 11.40  | 11.13 | 11.39 | 11.43     | 11.43 |
| 2020 |       | 11.46 | 11.46  | 11.00 | 11.44 | 11.48     | 11.48 |
| 2021 |       | 11.52 | 11.52  | 10.84 | 11.49 | 11.53     | 11.53 |
| 2022 |       | 11.58 | 11.58  | 10.64 | 11.54 | 11.58     | 11.58 |
| 2023 |       | 11.64 | 11.64  | 10.40 | 11.58 | 11.63     | 11.63 |
| 2024 |       | 11.70 | 11.70  | 10.12 | 11.63 | 11.67     | 11.67 |
| 2025 |       | 11.75 | 11.76  | 9.79  | 11.67 | 11.71     | 11.71 |
| 2026 |       | 11.81 | 11.82  | 9.43  | 11.72 | 11.75     | 11.75 |
| 2027 |       | 11.87 | 11.88  | 9.03  | 11.76 | 11.78     | 11.78 |
| 2028 |       | 11.93 | 11.94  | 8.59  | 11.80 | 11.82     | 11.82 |
| 2029 |       | 11.99 | 12.00  | 8.11  | 11.84 | 11.85     | 11.85 |
| 2030 |       | 12.04 | 12.06  | 7.58  | 11.88 | 11.88     | 11.88 |
| 2031 |       | 12.10 | 12.13  | 7.02  | 11.92 | 11.91     | 11.91 |
| 2032 |       | 12.16 | 12.19  | 6.42  | 11.96 | 11.94     | 11.94 |
| 2033 |       | 12.22 | 12.25  | 5.78  | 12.00 | 11.97     | 11.97 |

| 予測式名      | 予 測 式                                                    | 相関係数    |
|-----------|----------------------------------------------------------|---------|
| 一次直線      | $Y = 9.608 + 0.058 \times t$                             | 0.27572 |
| 一次指数曲線    | $Y = 9.72643 \times 1.00514^t$                           | 0.27538 |
| 二次曲線      | $Y = -4.932 + 1.138 \times t - 0.02 \times t^2$          | 0.29778 |
| べき曲線      | $Y = 0 + 7.05277 \times t^{0.139571}$                    | 0.27814 |
| ロジスティック曲線 | $Y = 12.4787 / (1 + \exp(-0.69148 - 0.054857 \times t))$ | 0.27874 |



## 第4節 減量化・資源化目標の設定

ごみ排出の抑制や再資源化についての国や県の方針は、以下のとおりである。

| 区 分                 | 福岡県の<br>2020年度目標値         | 国の<br>2020年度目標値 |
|---------------------|---------------------------|-----------------|
| ごみ総排出量              | -2% (2014年度比)             | -12% (2012年度比)  |
| 1人1日当たり<br>家庭系ごみ排出量 | -1% (2014年度比)<br>538g/人・日 | 500g/人・日        |
| 再生利用率(ごみ総排出量比)      | 23%                       | 27%             |
| 最終処分量の増減率           | -2% (2014年度比)             | -14% (2012年度比)  |

本市では、ごみの減量と有効資源の再生利用を図るため、1994年(平成6年)10月からアルミ缶・スチール缶の資源物の分別収集を開始して以来、回収品目を徐々に増やし、現在14品目の分別を行っている。また、市が認める活動組織等が行う資源ごみの分別促進活動の奨励や、家庭用生ごみ処理機購入助成を推進している。

2008年度(平成20年度)には、2008年(平成20年)3月に竣工したガス化溶融施設からのスラグ及びメタル等の資源化を加え、リサイクル率は35%を超える状況になったが、その後徐々に減少し、2017年度(平成29年度)には29.0%となっている。

以上のような状況を踏まえ、今後のごみ減量とリサイクル推進のための基本方針を、以下のように定める。

- ごみ減量の具体的目標を定め、市民、事業者、行政それぞれが担う役割を示し、目的達成へ向けた取り組みを推進する。
- 循環型社会づくりの第一の取り組みとして、リデュース(発生抑制)が重要であることから、適量生産・適量消費・最小廃棄の生活スタイルへの取り組みを推進する。
- 有効資源のリユース(再使用)やリサイクル(再生利用)の取り組みをさらに推進する。

以上のような基本方針に基づき、ごみ減量・リサイクルの目標を以下のように定める。

- 生活系ごみの1人1日平均排出量について、現状のまま推移した場合に対し、2023年度までに2%減少させ、その後はその量を継続する。
- 事業系ごみの1日平均排出量について、現状のまま推移した場合に対し、2023年度までに2%減少させ、その後はその量を継続する。
- 資源化率について、全体の資源化率を2023年度までに30%以上、スラグ・メタル・飛灰を除いた資源化率を2023年度までに20%程度とする。

上記の目標を実行した時のごみの排出量及び処理・処分量の推計結果は、表4.4.1及び表4.4.2に示すとおりである。

表 4.4.1 ごみ排出量及び処理・処分量の将来推計値（減量化実行時）

| 項目             | 年度              | 施策の内容<br>(2019年度以降) | 実績値                                    |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
|----------------|-----------------|---------------------|----------------------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
|                |                 |                     | 2017                                   | 2018   | 2019   | 2020   | 2021   | 2022   | 2023   | 2024   | 2025   | 2026   | 2027   | 2028   | 2029   | 2030   | 2031   | 2032   | 2033 |
| 行政区域内人 (a)     | 人               |                     | 59,368                                 | 59,301 | 59,301 | 59,300 | 59,300 | 59,300 | 59,300 | 59,299 | 59,299 | 59,299 | 59,298 | 59,298 | 59,297 | 59,297 | 59,296 | 59,296 |      |
| 生活系ごみ          | 排出量合計 (b)       | t/年                 | c × a × 365 ÷ 1,000 ÷ 1,000            |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
|                | 1人1日平均排出量 (c)   | g/人・日               | そのまま推移した場合に対し、平成35年度までに2%削減、その後はその量を継続 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 収集ごみ           |                 | t/年                 | b × 73.94% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 燃えるごみ          |                 | t/年                 | b × 67.44% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 不燃物            |                 | t/年                 | b × 2.86% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 粗大ごみ           |                 | t/年                 | b × 0.99% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| ビン             |                 | t/年                 | b × 2.65% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 直接搬入ごみ         |                 | t/年                 | b × 6.10% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 燃えるごみ          |                 | t/年                 | b × 1.38% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 不燃物            |                 | t/年                 | b × 0.09% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 粗大ごみ           |                 | t/年                 | b × 4.63% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| ビン             |                 | t/年                 | b × 0.00% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 有害ごみ (乾電池)     |                 | t/年                 | b × 0.06% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 資源ごみ           |                 | t/年                 | b × 19.87% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 団体回収           |                 | t/年                 | b × 0.03% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 事業系ごみ          | 排出量合計 (d)       | t/年                 | e × 365                                |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
|                | 1日平均排出量 (e)     | t/日                 | そのまま推移した場合に対し、平成35年度までに2%削減、その後はその量を継続 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 収集ごみ (許可)      |                 | t/年                 | d × 67.92% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 燃えるごみ          |                 | t/年                 | d × 66.28% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 不燃物            |                 | t/年                 | d × 1.14% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 粗大ごみ           |                 | t/年                 | d × 0.47% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| ビン             |                 | t/年                 | d × 0.03% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 直接搬入ごみ         |                 | t/年                 | d × 32.08% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 燃えるごみ          |                 | t/年                 | d × 18.90% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 不燃物            |                 | t/年                 | d × 0.16% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 粗大ごみ           |                 | t/年                 | d × 13.01% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| ビン             |                 | t/年                 | d × 0.01% (2017年度の実績)                  |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| ごみ排出量合計 (f)    |                 | t/年                 | 18,471                                 | 18,427 | 18,370 | 18,315 | 18,258 | 18,200 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 | 18,147 |      |
|                |                 | t/日                 | 50.6                                   | 50.5   | 50.3   | 50.2   | 50.0   | 49.9   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   | 49.7   |      |
|                |                 | g/人・日               | 852.4                                  | 851.3  | 848.7  | 846.2  | 843.5  | 840.9  | 838.4  | 838.4  | 838.4  | 838.4  | 838.4  | 838.4  | 838.5  | 838.5  | 838.5  | 838.5  |      |
| リサイクルプラザ (g)   |                 | t/年                 | 2,232                                  | 2,225  | 2,220  | 2,213  | 2,206  | 2,200  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  | 2,193  |      |
| 不燃物            |                 | t/年                 | 477                                    | 475    | 474    | 472    | 470    | 469    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    | 467    |      |
| 粗大ごみ           |                 | t/年                 | 1,365                                  | 1,362  | 1,359  | 1,357  | 1,353  | 1,350  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  | 1,346  |      |
| ビン             |                 | t/年                 | 381                                    | 379    | 378    | 376    | 375    | 373    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    | 372    |      |
| 有害ごみ (乾電池)     |                 |                     | 9                                      | 9      | 9      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      | 8      |      |
| ガス化溶融施設 (h)    |                 | t/年                 | 15,074                                 | 15,035 | 14,990 | 14,948 | 14,903 | 14,859 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 | 14,819 |      |
| 燃えるごみ          |                 | t/年                 | 13,396                                 | 13,362 | 13,321 | 13,284 | 13,245 | 13,205 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 | 13,170 |      |
| リサイクルプラザ残渣量    |                 | t/年                 | g × 75.18% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 資源回収 (i)       |                 | t/年                 | 5,348                                  | 5,338  | 5,320  | 5,301  | 5,283  | 5,264  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  | 5,246  |      |
| 資源ごみ           |                 | t/年                 | 2,839                                  | 2,836  | 2,825  | 2,814  | 2,803  | 2,791  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  | 2,780  |      |
| 不燃・粗大ごみからの資源回収 |                 | t/年                 | g × 24.82% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| スラグ            |                 | t/年                 | h × 12.94% (2017年度の実績)                 |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| メタル            |                 | t/年                 | 1,951                                  | 1,946  | 1,940  | 1,934  | 1,928  | 1,923  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  | 1,918  |      |
| 飛灰             |                 | t/年                 |                                        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
| 団体回収量          |                 | t/年                 | 4                                      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      | 4      |      |
| 資源化率           | (スラグ・メタル・飛灰)を含む | %                   | i ÷ f × 100                            |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |
|                | (スラグ・メタル・飛灰)を除く | %                   | (i - スラグ - メタル - 飛灰) ÷ f × 100         |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |        |      |



## 第5章 ごみ処理基本計画

### 第1節 基本方針

#### “～資源循環型の都市の実現～”

本市では、ごみの減量化・資源化に向けて、ごみ分別の推進に取り組んできた。その結果、リサイクル率は、国や県の平均値より高い値となっている。

今後も、排出抑制・再資源化を実行し、生産から流通、消費、廃棄に至るすべての過程における物質やエネルギーの効率的な利用やリサイクル、天然資源の消費抑制と環境負荷の低減が図れる循環型社会の構築を目指して、行政・市民・事業者が一体となって、①発生抑制（リデュース）、②再利用（リユース）、③再資源化（リサイクル）の3Rの取り組みを推進するとともに、環境に配慮した安全で効率的な施設の維持管理を行い、ごみの適正処理を図ることとする。

そこで、本計画の基本方針を『資源循環型の都市の実現』とする。

### 第2節 基本施策

本市におけるごみ処理に係る基本方針を以下に示す。

#### ① 意識の向上

市民や事業者にごみ処理に関する問題意識を持っていただくための啓発、情報提供、環境教育などに努める。

#### ② 仕組みづくり



ごみ出しルールの徹底を図り、効率的なごみ収集体制の確立を図るため、市民や事業者へわかりやすい分別や排出方法等のごみ減量化対策の仕組みづくりを行う。

#### ③ 適正処理

環境に配慮した安全で効率的な施設の維持管理を目指したシステムの構築を行い、埋立処分量を削減し最終処分場の延命化を図りながら、適正処理を行う。

### 第3節 計画目標年次

計画期間は、2009年度（平成21年度）から2023年度までの15年間とし、2013年度（平成25年度）及び2018年度（平成30年度）に中間目標年度を設定する。

|                    |                                                                                   |                            |                                                                                   |                            |                                                                                     |                            |
|--------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 2007年度<br>(平成19年度) | 2009年度<br>(平成21年度)<br>～<br>2012年度<br>(平成24年度)                                     | 2013年度<br>(平成25年度)         | 2014年度<br>(平成26年度)<br>～<br>2017年度<br>(平成29年度)                                     | 2018年度<br>(平成30年度)         | 2019年度<br>～<br>2022年度                                                               | 2023年度                     |
| 基準<br>年<br>度       |  | 中<br>間<br>目<br>標<br>年<br>度 |  | 中<br>間<br>目<br>標<br>年<br>度 |  | 計<br>画<br>目<br>標<br>年<br>度 |

### 第4節 計画処理区域

計画処理区域は、小郡市の行政区域全域とする。

### 第5節 将来のごみ処理システム（2019年度より）

本市の2019年度からのごみ処理の基本システムを以下に示す。

処理システムは、「循環型社会形成推進地域計画」に基づいて設定されている。

- 収集区分は、燃えるごみ、不燃物、ビン、粗大ごみで、資源ごみとして、空き缶、紙・布類、トレー、紙パック、ペットボトル、剪定枝とする。
- 収集・運搬は、本市が実施し、燃えるごみ、不燃物、ビン、粗大ごみについては、クリーンヒル宝満で熔融処理、資源化処理等の中間処理を行い、それ以外のリサイクルごみは、資源回収業者に引き渡すものとする。
- 現状では空き缶の団体回収を行っており、現体制を継続するものとする。



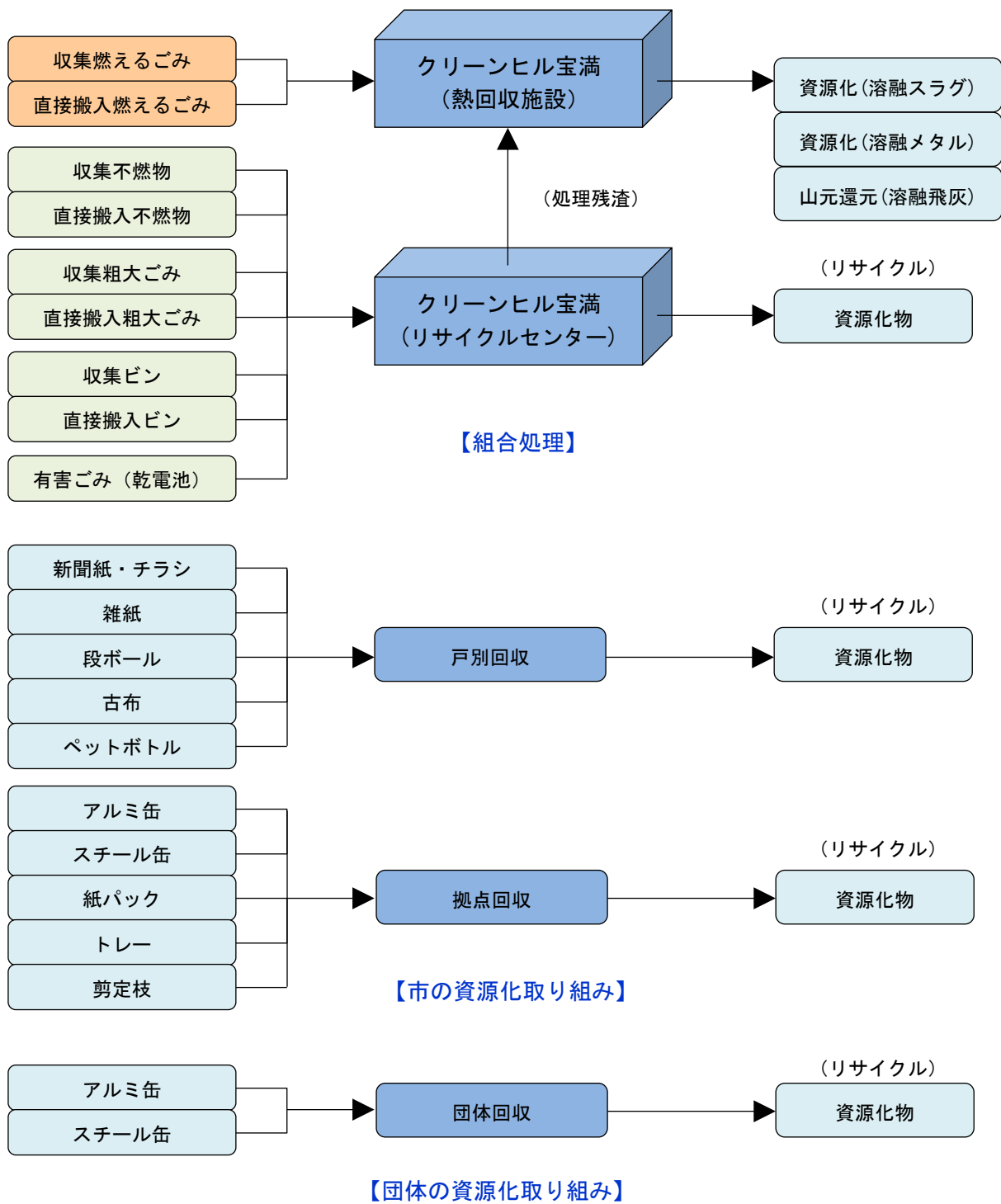


図 5.5.1 将来のごみ処理システム

## 第6節 排出抑制・再資源化計画

### 1. 排出抑制計画

#### (1) 行政における方策

本市は、ごみの減量化・再生利用及び再資源化を図るため市民、事業者、行政の役割分担を明確にしつつ、排出抑制も含めた減量化に関する総合的かつ計画的なごみ処理の推進を図るものとし、以下に掲げる事項について検討・実施するものとする。

#### ① 教育、啓発活動の充実

市民、事業者に対してごみの減量化・再利用及び再資源化について衛連等の関係団体と協力しながら教育、啓発を図っていく。また、クリーンヒル宝満等での展示や講習会等の活用とともに、広報やインターネット等を利用した情報発信、ごみ減量リサイクルアドバイザーによる啓発を行い、市民のごみの減量化に関する意識の向上を図る。さらに、小学校等において、ごみに関する副読本やビデオ、施設見学など教育啓発活動に積極的に取り組んでいく。

#### ② 多量排出事業者への減量化指導の徹底

事業系一般廃棄物の多量排出事業者に対し、減量化計画の策定を指導していくなど、事業系ごみの排出抑制対策を講じる。

#### ③ 庁用品、公共関与事業における再生品使用及び排出抑制

事務用品、コピー用紙、トイレトーパー等の庁用品に関しては、再生品を使用する。また、公共事業等において廃材、廃材の再生品、熔融スラグ等の再資源化物の使用を推進することにより、可能な限り、ものを無駄に消費しないように努める。さらに、公有地及び私有地における雑草等の処理については、堆肥化等により引き続き再資源化を図る。

#### (2) 市民における方策

市民は、ごみの減量、ごみの適正な処理に関する施策に協力し、ごみ処理基本計画、地域の実情に応じて、以下のような事項に積極的に取り組んでいく。

#### ① 適正な分別の推進

ごみ収集カレンダー、ごみ減量リサイクルアドバイザーの講演等から分別方法について情報を収集し、適正な分別を行う。また、各区衛生組合で実施しているアルミ缶・スチール缶等の拠点回収に出すようにして、ごみの減量に努める。

#### ② フリーマーケット等の促進等

衣類・家庭用品等の不用品交換は、ごみの減量化の観点だけでなく、地域コミュニティの育成にも有効であることから、積極的に実施する。

### ③ 生ごみ堆肥化容器等の利用

家庭から排出されるごみのうち、重量ベースで大きな割合を占める生ごみについて、生ごみ堆肥化容器、電気式生ごみ処理機を使用するなど積極的にごみの減量・再利用に努める。

### ④ 過剰包装の自粛

買い物袋等のごみを減らす観点から、買い物際には、買い物かご、買い物袋等を持参するよう努める。また、贈り物等の際も簡易包装のものを選ぶよう配慮する。

### ⑤ 再生品の使用促進、使い捨て品の使用抑制等

トイレットペーパー等に再生品を使用するよう努めるとともに、使い捨て品の使用を抑制する。また、可能な限り、無駄に消費しない生活スタイルを心がける。

## (3) 事業者における方策

事業者は、その事業活動に伴って生じるごみの排出抑制、再生利用等によりその減量に努めるとともに、ごみの減量とその他の適正な処理の確保等に関する施策に協力し、ごみ処理基本計画、地域の実情等に応じて、以下の事項に積極的に取り組んでいく。

### ① 発生源における排出抑制

事業者においては、必要に応じて複数事業者の協力による回収体制を整備するなど、発生源における排出抑制に努める。

### ② 過剰包装の抑制

プラスチックトレーの使用を必要最小限にする等の流通業界団体等で自主的に作成した包装の基準を遵守するとともに、包装材料の減量化に一層努力すること。また、消費者による買い物袋持参運動に積極的に協力・支援すること。

### ③ 流通包装廃棄物の排出抑制

家電製品梱包用の梱包材については、その使用量を極力抑制するよう梱包方法の工夫を行うとともに、製造・流通事業者の責任において回収・再利用する体制を整備していくこと。

### ④ 使い捨て容器の使用抑制と製造・流通事業者による自主回収・資源化の促進

繰り返し利用可能なリターナブル容器への転換を図るとともに、空き缶や空きビン等の資源として再生可能なものについて製造・流通事業者による自主回収促進を図っていく。

### ⑤ 再生品の使用促進等

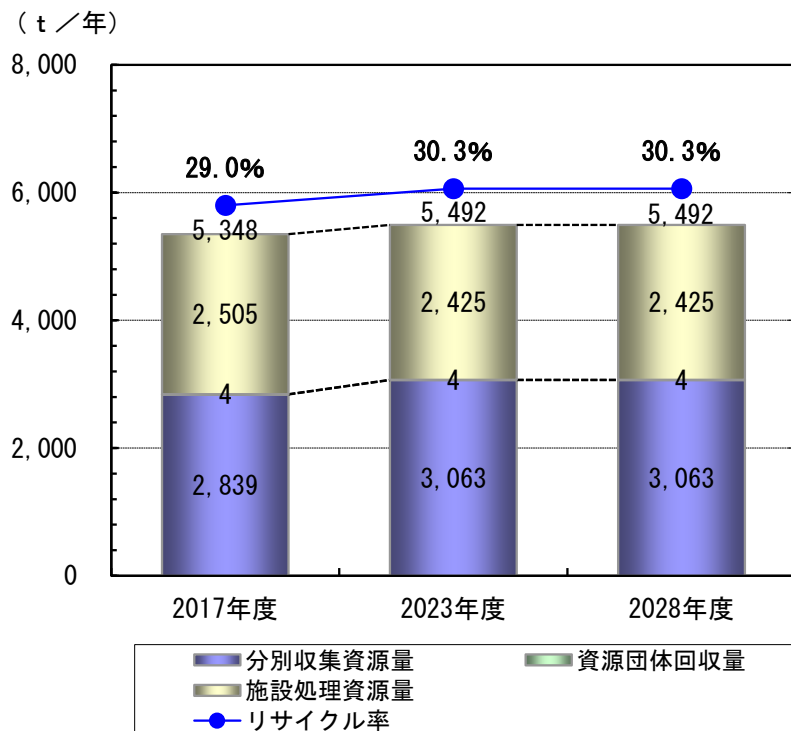
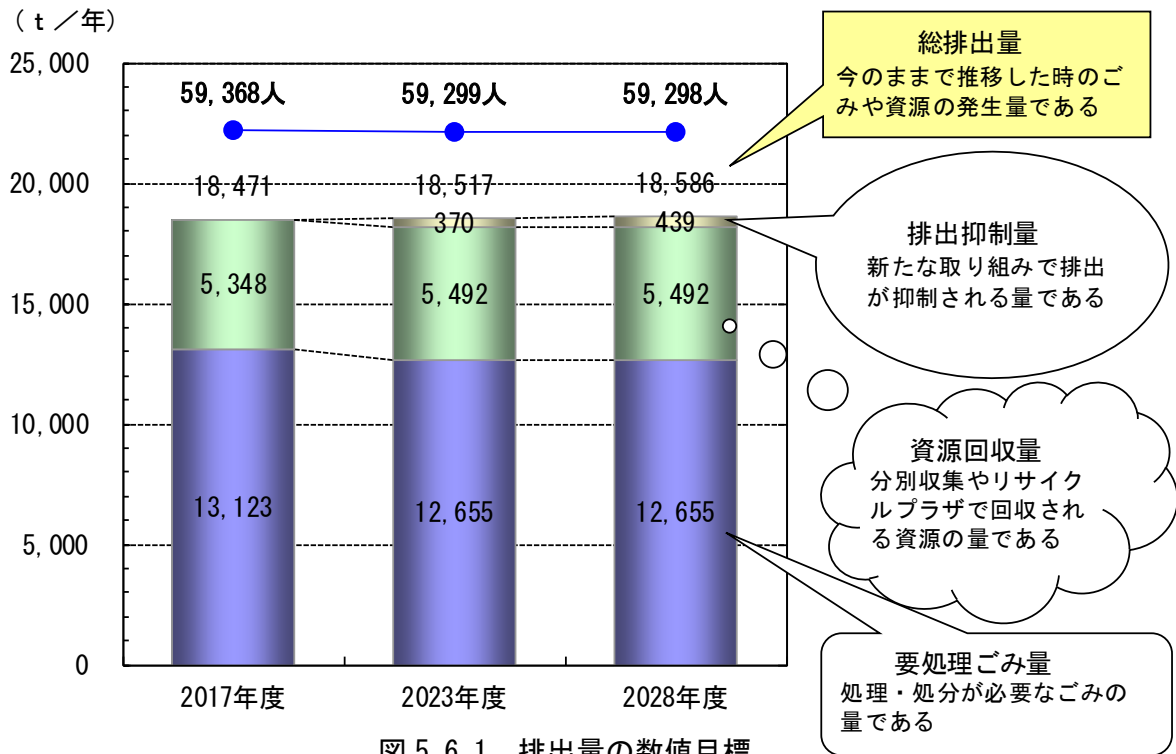
事務用品、コピー用紙、トイレットペーパー等に再生品を使用するよう努めるとともに、事業活動に使用する原材料についても再生品の使用に努める。また、可能な限り、無駄に消費しないよう努める。

## 2. 資源化計画

資源化は、本市でのリサイクルごみの回収とクリーンヒル宝満での施設選別による資源化处理がある。これらの再資源化处理によって、再資源化率を 30%以上とすることを目標とする。

## 3. ごみ減量・資源化後の数値目標

計画の排出抑制及び資源化を実行したときの数値目標は、以下に示すとおりである。



## 第7節 中間処理計画

### 1. 中間処理に関する方針

- 処理施設の適正管理
- ごみの適正処理
- 再資源化の促進
- エネルギーの有効利用

### 2. ごみの適正処理

#### ① 燃えるごみ

燃えるごみは、筑紫野・小郡・基山清掃施設組合のクリーンヒル宝満（熱回収施設）に搬入し、ガス化熔融処理を行い、スラグ化、メタル化し、熔融飛灰は山元還元し、資源として活用する。

#### ② 不燃物、粗大ごみ

不燃物等は、組合のクリーンヒル宝満（リサイクルセンター）に搬入し、破碎・選別処理を行い、資源物は回収し、リサイクルする。破碎残渣は、熱回収施設で熔融処理を行い、資源化処理を行う。

#### ③ ビン

ビンは、組合のクリーンヒル宝満（リサイクルセンター）に搬入し、3色（白・茶・その他）に色選別を行い、資源化処理を行う。

### 3. 再資源化の促進

リサイクルセンターで有価物を選別し、再資源化を積極的に推進していく。  
市民、事業者の協力のもと各種のリサイクル事業を進めていく。

### 4. エネルギーの有効利用

クリーンヒル宝満では、熔融処理時に発生する余熱を利用して廃棄物発電を行っている。発電によって生じた電力で場内の電力をまかなうとともに、余剰電力は売電する。

### 5. 可燃性ごみ処理(熔融処理)

クリーンヒル宝満においては、熔融処理対象となるごみは、以下のとおりである。

- ① 収集燃えるごみ
- ② 直接搬入燃えるごみ
- ③ リサイクルセンターでの不燃物等の破碎・選別処理後の残渣

## 6. 選別処理・破碎処理

クリーンヒル宝満（リサイクルセンター）での処理対象となるごみは、選別して資源化を図るものである。本市の処理対象ごみは以下のとおりである。

- ①不燃物（収集、直接搬入）
- ②粗大ごみ（収集、直接搬入）
- ③ビン（収集、直接搬入）
- ④有害ごみ（乾電池）

## 第8節 その他の計画

### 1. 不法投棄防止について

廃棄物処理法では、循環型社会の一層の推進に取り組むこととともに、廃棄物の適正処理、特に不法投棄の未然防止を重視しており、市民・事業者で処理困難なものは、行政での受入も含めて、廃棄物の適正処理及び不法投棄の防止を、市民、事業者徹底していくものとする。

### 2. 在宅医療廃棄物について

在宅医療廃棄物は、基本的には一般廃棄物として位置づけられている。そのため、その処理は市町村に処理の義務があり、鋭利でないものや多量の血液が付着したものなどを除き、市町村による処理が望ましいとされている。

近年、在宅医療の進展に伴い一般家庭からも点滴パックや注射器等の在宅医療廃棄物の排出量が増加しており、これらの在宅医療廃棄物の処理には、患者のプライバシーへの配慮、安全な回収及び処理の確保が必要となっている。このことから、在宅医療廃棄物の処理に当たっては、関係者と連携を図りながら処理システムの構築を図っていく。

### 3. 災害廃棄物について

大規模な自然災害としては、台風や洪水等の水害や地震などがある。自然災害発生時には、大量の廃棄物が一時期に発生し、緊急なごみ処理が必要である。

水害廃棄物の場合は、廃棄物が水に浸かった後のため、泥や水分で重たくなり、汚物が付着したりして臭気や腐敗の問題が生じやすいため、早急な対処が必要とされる。

震災による廃棄物の処理は復旧のために急ぐ必要があるが、一般に乾燥していて腐敗性などは少ないので、水害廃棄物に比べて衛生面での制約は小さいと考えられる。

本市では、筑紫野・小郡・基山清掃施設組合及び構成市町、並びに近隣市町と協力し、迅速に対応する。災害廃棄物の一時集積場については、公有地等を活用していくものとする。

小郡市一般廃棄物（ごみ）処理基本計画

平成 31 年 3 月

発行

小郡市 環境経済部 生活環境課

〒838-0198 福岡県小郡市小郡 255 番地 1

電 話 0942-72-2111

F A X 0942-72-2131

E-mail [recycle@city.ogori.lg.jp](mailto:recycle@city.ogori.lg.jp)